専任教員教育研究業績

平成 30 年 5 月 1 日

氏名	ふりがな	所属学科	職位	性別
上野　奈初美	うえの　なうみ	保育学科	学科長・教授	男・(女)

担当科目名	学内委員会等（委員長）
健康指導法、表現指導法、身体表現Ⅰ、ゼミナール	通信学務委員会委員長

学歴

和暦（西暦）年　月	事項	学位
昭和 56（1981）年 3 月	東京女子体育大学体育学部体育学科卒業	体育学士
平成 11（1999）年 3 月	大阪教育大学大学院教育学研究科実践学校教育専攻修士課程修了	修士（教育学）

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
大手前女子大学文学部助手	昭和 58 年 4 月～昭和 62 年 3 月	「保健体育」担当
大阪成蹊（旧大阪成蹊女子）短期大学児童教育学科幼児教育学専攻専任講師	昭和 62 年 4 月～平成 7 年 3 月	「体育Ⅰ・Ⅱ」、「教科・保育内容演習」担当
同　助教授	平成 7 年 4 月～平成 14 年 3 月	「体育Ⅰ・Ⅱ」、「教科教育法」、「健康」、「教科・保育内容演習」担当
同　教授	平成 14 年 4 月～平成 26 年 3 月	「健康」、「幼児体育」、「専門演習」、「実習事前事後指導」担当
小田原短期大学保育学科教授	平成 26 年 4 月～現在	「身体表現Ⅰ・Ⅱ」、「表現指導法」、「健康指導法」、「保育実習指導Ⅰ」、「ゼミナール」担当

所属学会等

名称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）
日本体育学会	昭和 58 年 4 月～現在	大会参加・発表
日本学校保健学会	平成　3 年 4 月～現在	大会参加・発表
近畿学校保健学会	平成　3 年 4 月～現在	大会参加・発表
日本保育学会	平成 18 年 4 月～現在	大会参加・発表
日本教育心理学会	平成 19 年 4 月～現在	大会参加・発表

社会活動

名称	活動期間	活動内容
発育表現アドバイザー資格認定講座	平成 21 年～平成 22 年	認定講座テキスト執筆および講習会指導「身体表現」を担当
平成 24 年度全国保育士養成セミナー・研究大会実行委員	平成 24 年	第 12 分科会「保育士養成校教員に求められるもの」の企画、司会および運営全般を担当
真鶴町立幼稚園園内研修講師	平成 27 年 10 月	テーマ「3～5 歳までの発達と保育」教職員、園児および保護者対象の園内研修で講演と実践を担当
小田原市スポーツ推進審議会委員	平成 30 年 4 月～	小田原市におけるスポーツ推進に関する事項についての審議委員

担当教科目に関する資格・免許等		
名　称	取得年月	取　得　機　関
中学校教諭一級普通免許状（保健体育）	昭和56年3月	東京都教育委員会（4803号）
高等学校教諭二級普通免許状（保健体育）	昭和56年3月	東京都教育委員会（4845号）
レクリエーション・インストラクター	平成17年4月	(財) 日本レクリエーション協会
福祉レクリエーション・ワーカー	平成24年9月	(財) 日本レクリエーション協会

研究実績に関する事項				
代表的な著書、論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 1. 保育入門テキスト	共著	平成27年3月	萌文書林	幼児期の「運動あそび」について解説。保育を志す高校生向けに執筆。Chapter3（14～18頁）
2.保育士のための基礎知識（2017年度版）	共著	平成27年8月	大阪教育図書	「保育表現技術(身体表現)」の展開方法について実践例を取り上げ解説。第10章（332～340頁）
3. 幼稚園・幼保連携型認定子ども園専門教養の要点と問題（2017年度版）	共著	平成28年6月	大阪教育図書	幼稚園教諭を目指す学生向けに領域「健康」について要点を解説。第2章（63～102頁）
4.保育の計画と評価	共著	平成30年3月	萌文書林	身体表現における表現あそびについて、指導案を提示し、教材作成の考え方からアレンジの方法までを解説。 第6章（119～127頁）
（学術論文） 1.短大生のメンタルヘルスに関する探索的研究 -2つの学科の比較-	共著	平成24年3月	大阪成蹊短期大学研究紀要第9号	2つの学科に属する短大生を対象にメンタルヘルスに関する調査を行った。目的々学科に属する学生ほど「生きがい度」が高い傾向にあることが分かった。また、ストレスを抱えている学生ほど「生きがい度」が低いことが分かった。
2.女子大学生の生活習慣に関する一考察	共著	平成25年2月	人間関係研究14 大妻女子大学	質問紙を用いて女子大生の健康習慣について調査を実施し学年別の比較を行った。健康習慣における「規則性」については学年と共に低下傾向があることが明らかとなった。
3.保育専攻学生の精神的健康度 -学習不適応学生の分析からの一考察-	共著	平成25年3月	大阪成蹊短期大学研究紀要第10号	保育専攻学生を対象に学習不適応学生を抽出し、精神的健康度の調査結果および生活習慣に関する自己評価記述をもとに分析を行った。複数のストレスを抱えている学生を早期に発見し、入学直後からの個別指導が不可欠であることが分かった。
4.大学生の健康度と生活習慣 -保育・看護・一般学生-	共著	平成27年3月	小田原短期大学研究紀要第45号	保育、看護といった資格取得を目指す学生を対象に調査を行った。保育学生は「運動行動」が有意に低く、看護学生は「休息」が有意に低かった。保育学生には運動行動を促すような働きかけが必要なことが分かった。

5.看護系大学生の生活習慣とストレス・生きがいについての検討 −統計的な報告−	単著	平成28年3月	小田原短期大学研究紀要第46号	看護系大学の学生を対象に生活習慣タイプ別におけるストレスと生きがいとの関連性について検討を行った。生活習慣が好ましいタイプはそれ以外のタイプと比較して、満足感や挑戦課題を持ち続けて生活している傾向が強いことが分かった。
6.自己実現を含めた総合的健康の自己評価ツール −ﾍﾙｽﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝに活用するための統計的検討−	共著	平成29年3月	奈良学園大学紀要 第6集	短期大学生 1.940 名の健康自己評価データを統計学的に検討し、同様に高校生男女、女子大生、中高年女性の調査結果を比較資料として考察を行った。本研究の統計学的検討によって得られたデータや知見は、ヘルスプロモーションや自己実現をふまえた健康学習の教材として学習者が利用しやすい有用な資料となることが示唆された。
7.本学の地域貢献とその必要性 -ﾉﾙﾃﾞｨｯｸｳｫｰｷﾝｸﾞ講習会の取り組み-	共著	平成30年2月	人間関係学紀要19 大妻女子大学	多摩市の高齢者を対象に行ったﾉﾙﾃﾞｨｯｸｳｫｰｷﾝｸﾞ講習会の実践から得られた情報をもとに、大学における地域貢献の在り方について検討を行った。地域と大学の結びつきを考えるうえで多くの示唆を得た。
（報告書） 1.全国保育士養成セミナー報告書	共著	平成25年3月	保育士養成資料集 第57号 (社)全国保育士養成協議会	平成24年開催の保育士養成セミナー分科会「新任教員の課題　--保育士養成校教員に求められるもの-」の討論内容についてまとめた。
（口頭発表） 1.「保育・教職実践演習」平成23年度実践報告と検討	共同	平成24年11月	日本教育心理学会 第54回総会 琉球大学	平成23年度より開講した「保育・教職実践演習」の授業内容についてのまとめと今後の課題について報告した。
2.自己評価からみた実習指導の課題	共同	平成25年9月	全国保育士養成協議会 第52回研究大会 ｻﾝﾎﾟｰﾄﾎｰﾙ高松	1回目の実習終了後に実施した学生の自己評価結果から「保育課程や指導計画」についての理解を深める、「最善の利益を具体化する方策や倫理観」を確かなものとする、子どもを介在として「保育者、保護者、地域社会と関わる場面をつくる」ことが今後の実習指導の課題として明らかとなった。
3.資格取得を目指す学生の精神的健康度 −保育・看護・スポーツ専攻生の場合--	共同	平成26年11月	日本教育心理学会 第56回総会 神戸国際会議場	資格取得を目指す学生を対象に精神的健康度調査を実施した。「注意散漫」といったストレス項目は看護学生が有意に高かった。また、満足感や精神的ゆとりも看護学生が低いことが分かった。
4.「保育表現技術（身体表現）」科目の授業内容について　−シラバス分析を通して-	単独	平成27年9月	全国保育士養成協議会 第54回研究大会 ﾛｲﾄﾝ札幌	保育者養成校における教科目「身体表現」の授業内容について加盟校を対象にシラバス分析を行った。多くの短大では基礎・基本から応用・発展といった積み上げ方式の授業を展開していることが分かった。
5.看護学生の生活習慣とストレス・生きがいについての一考察	共同	平成27年11月	第 62 回日本学校保健学会 岡山ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ	看護学生を対象に生活習慣とストレスに関する調査を行った。「生活満足」や「生活意欲」といった生きがいを持っている学生ほど、生活習慣が良好であることが分かった。
6.表現の授業内容について	単独	平成28年8月	全国保育士養成協議会 第55回研究大会 盛岡市民文化ﾎｰﾙ	保育士養成校に加盟している短期大学を対象に教科目「表現」でどのような授業展開がなされているのか分析を行った。その結果、他の表現系科目との関連性、「表現」としての独自性の確立等さらに検討していくことが必要と考えられた。

7.実習生が体験したヒヤリハット	共同	平成28年11月	日本学校保健学会第63回学術大会 筑波大学	実習中に学生が体験した様々な危険=「ヒヤリハット」について場所、時間帯、活動内容等についてアンケート調査を実施した。その結果、廊下でのつまずきや砂場での危険が多いこと、また各実習園における安全管理のあり方の違い等が分かった。
8.保育者の運動能力向上を目指した「愉しくわかる」教材づくりにICTを活用する試み -2画面同時再生ができる映像教材の利便性-	共同	平成29年9月	日本体育学会第 68 回大会 松山大学	運動を専門としない保育者が学習者の運動動作の「出来栄え」を明確に認知し、的確な指導テクニックを獲得できる指導教材の提案と教材がもたらす効果について検証を行った。ICT 教材に映像を活用することの妥当性を確認した。

その他　（表彰等）	平成30年4月	全国保育士養成協議会功労者表彰

専任教員教育研究業績

平成30年4月17日

氏名	ふりがな	所属学科	職位	性別
今泉　明美	いまいずみ　あけみ	保育学科	教授	女

担当科目名	学内委員会等（委員長）
音楽表現ⅠA・音楽表現Ⅱ・ヴォイスパフォーマンス・卒業ゼミナール サービスラーニング	全運評・教授会・図書館長・紀要委員会（委員長）・カリキュラム委員会・教員養成カリキュラム委員会

学歴

和暦（西暦）年　月	事項	学位
昭和59（1984）年3月	武蔵野音楽大学音楽学部声楽学科卒業	芸術学士
昭和61（1986）年3月	東京学芸大学大学院教育研究科音楽教育専攻声楽講座修士課程修了	教育学修士
平成6（1995）9月～7年（1996）12月	ウエストミンスタークワイヤー大学（米国）別科にて（声楽・ピアノパフォーマンス）単位取得	
平成14（2002）年7月	第9回武蔵野音大インターナショナルサマースクールイントウキョウ（声楽講座）修了	

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
南海保育専門学校	昭和61年4月～平成元年3月	保育学科非常勤講師(ピアノⅠ,Ⅱ, 音楽リズム)
横浜高等教育専門学校	平成元年4月～平成6年3月	児童科保育課程、初等課程非常勤講師(器楽Ⅰ,Ⅱ, 音楽演習、生活と表現)
横浜高等教育専門学校	平成8年4月～12年3月	児童科保育課程、初等課程、非常勤講師（器楽Ⅰ,Ⅱ、音楽演習Ⅰ,Ⅱ、生活と表現Ⅰ、音楽通論、声楽Ⅰ)
横浜高等教育専門学校	平成12年4月～平成16年3月	児童科保育課程・初等課程　専任講師（器楽Ⅰ、 Ⅱ、ピアノ基礎、音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、B、器楽合奏、声楽、総合演習）
小田原短期大学（平成26年度4月より小田原女子短期大学から校名変更）	平成16年4月～平成20年3月	保育学科小田原女子短期大学幼児教育学科助教授「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」「音楽Ⅲ」「表現総合演習」「卒業研究ゼミナール」各担当
	平成20年4月～平成21年3月	小田原女子短期大学保育学科准教授「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」「音楽Ⅲ」「表現総合演習」「卒業研究ゼミナール」「海外文化事情」担当
	平成21年4月～平成22年3月	小田原女子短期大学保育学科　准教授「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」「音楽Ⅲ」「表現総合演習」「教職実務演習」担当
	平成22年4月～平成23年3月	小田原女子短期大学保育学科　教授「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」「音楽Ⅲ」「教職実務演習」担当
	平成23年4月～現在に至る	小田原女子短期大学保育学科　教授「音楽表現Ⅰ」「音楽Ⅱ」「音楽Ⅲ」（現音楽表現Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ）「卒業研究ゼミナール」各担当

所属学会等

名称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）
日本声楽発声学会	昭和60年9月～現在	会員
横浜童謡協会	平成元年4月～現在	会員、実行委員（平成1年4月～18年）
日本保育学会	平成9年5月～現在	会員
全国大学音楽教育学会	平成15年5月～現在	会員・全国大学音楽教育学会関東地区学会会計監査
日本オルフ音楽教育研究会	平成16年8月～現在	会員
日本ジャック・ダルクローズ協会	平成16年9月～現在	会員
日本音楽教育学会	平成18年6月～現在	会員
幼児音楽研究会	平成20年11月～現在	会員
小田原短期大学乳幼児研究所	平成27年4月～現在	会員

社会活動等		
名称	活動期間	活動内容
音楽活動及び親子音楽遊び音講師	平成19年4月～現在	茅ヶ崎子ども園音楽表現活動・親子音楽遊び（神奈川県子育て支援事業）
音楽活動及び親子音楽遊び音講師	平成21年11月～現在	松林保育園音楽表現活動・わくわくランド親子音楽遊び（神奈川県子育て支援事業）
小田原市文学講座「白秋とマザーグース」第4回（講師）	平成26年度2月	小田原市文学講座「白秋とマザーグース」の第4回講座「子どもにとって童謡とは」
小田原短期大学乳幼児研究所内幼児教室運営チーフ及び講師担当	平成27年4月～現在	地域の2～3歳児の子どもの親子を対象にした音楽表現・造形表現・身体表現の各遊びを通して子どもの感性を育むことを目的とした幼児教室の運営のチーフと講師を担当している。

担当教科目に関する資格・免許等		
名称	取得年月	取得機関
中学校教諭一級普通免許音楽	昭和59年3月	東京都教育委員会
高等学校教諭二級普通免許音楽	昭和59年3月	東京都教育委員会
高等学校教諭一級普通免許音楽	昭和61年3月	東京都教育委員会

研究実績に関する事項				
代表的な著書、論文等の名称	単著 共著 の別	発表の 年月	発表学会等の名称	概要
幼稚園教諭・保育士養成課程　子どものための音楽表現技術―感性と実践力豊かな保育者へ―	共著	平成29年3月27日	萌文書林	幼稚園教諭・保育士養成課程用の音楽表現授業の教科書となる内容である。
幼稚園教諭・保育士養成課程　子どものための音楽表現技術―感性と実践力豊かな保育者へ―（第2版）	共著	平成30年1月11日	萌文書林	今年度から施行される新幼稚園教育要領の内容を盛り込んだ上記の内容の2版である。
教育・保育実習に役立つ部分実習指導案集	共同監修	平成30年3月26日	萌文書林	音楽・造形・身体・言葉・生活の各表現活動についての指導案例とその解説で構成された部分実習計画を学ぶ内容でとなっている。
保育の計画と評価～豊富な例で1からわかる（教科書）	共著	平成30年3月27日	萌文書林	保育計画の考え方や指導計画の事例を提示することで、保育計画の基本を学べる内容である。
小田原短期大学保育学科通信教育課程テキスト科目「音楽表現Ⅱ」学習の手引き2016年度版	共著	平成28年4月	小田原短期大学保育学科通信教育課程	本学、保育学科通信教育課程のテキスト科目「音楽表現Ⅱ」の学習を円滑に進めるための手引き書　第17～30講
小田原短期大学保育学科通信教育課程テキスト科目「表現指導法」学習の手引き2017年度版	共著	平成28年4月	小田原短期大学保育学科通信教育課程	本学、学保育学科通信教育課程のテキスト科目「表現指導法」の学習を円滑に進めるための手引き書（201改訂版）第13，14，27，28講担当
保育者養成における実践力を高める音楽技能教育への取組み	共著	平成21年5月	日本保育学会	第62回大会研究論文集 356 ポスター発表（千葉大学）
保育者養成における実践力を高める音楽技能の教育への取り組みⅡ	共著	平成22年5月	日本保育学会	第63回大会研究論文集 ポスター発表（松山東雲女子大学・短期大学）
保育者養成校での音楽技能「声楽」の授業への一考察～呼吸法指導を中心として～	単著	平成21年10月	日本音楽教育学会	第40回大会研究発表76（広島大学）
保育者養成校の音楽教育における感性を育む授業への一考察	単著	平成22年9月	日本音楽教育学会	第41回大会研究発表（埼玉大学）

保育者養成における実践力を高める音楽技能教育への取組みⅢ	共著	平成 23 年 5 月	日本保育学会	日本保育学会第 64 回大会発表論文集、ポスター発表（玉川大学）
子育て支援活動の音楽表現遊びから読み取れる望まれる保育者像	共著	平成 25 年 5 月	日本保育学会	日本保育学会第 66 回大会発表論文集、ポスター発表（中村学園大学短期大学部）
「タイ王国の幼児教育及び音楽表現活動の現状の一考察 」	共著	平成 26 年 5 月	日本保育学会	日本保育学会第 67 回大会発表論文集、ポスター発表（大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学）
「地域力を活かした保育養成におけるピアノ技術の指導について」	共著	平成 27 年 5 月	日本保育学会	日本保育学会第 68 回大会発表論文集、ポスター発表（椙山女学園大学）
「保育の音楽表現技術についての保育者研修方法の模索～外部講師による子どもの音楽表現活動についての保育者の振り返りシートに着目して～」	単著	平成 27 年 9 月	全国保育士養成協議会	全国保育士養成協議会第 54 回研究大会研究発表論文集、ポスター発表（ロイトン札幌）
保育の音楽表現技術についての保育者研修方法の模索②	単著	平成 28 年 5 月	日本保育学会	日本保育学会第 68 回大会発表論文集、ポスター発表（東京学芸大学）
「音楽表現活動を通しての子育て支援の活性化への取り組み～（論文）	単著	平成 19 年 3 月	小田原女子短期大学	小田原女子短期大学研究紀要第 37 号（2007 年 3 月）99 - 116
実習現場における音楽表現活動の現状についての一考察（論文）	共著	平成 19 年 3 月	小田原女子短期大学	小田原女子短期大学研究紀要第 37 号（2007 年 3 月）117 - 131
乳幼児期における適切な音環境や音楽についての一考察（論文）	共著	平成 20 年 3 月	小田原女子短期大学	小田原女子短期大学研究紀要第 38 号（2008 年 3 月）76 - 86
「おだっこ」におけるひろばと「おだっこワークショップ」の展望（論文）	共著	平成 20 年 3 月	小田原女子短期大学	小田原女子短期大学研究紀要第 38 号（2008 年 3 月）62 - 75
保育者養成校での音楽技能『声楽』の授業の取り組みへの一考察（論文）	単著	平成 21 年 3 月	小田原女子短期大学	小田原女子短期大学研究紀要第 39 号（2009 年 3 月）25 - 44
保育者養成における音楽技能の教育についての一考察（論文）	共著	平成 21 年 3 月	小田原女子短期大学	小田原女子短期大学研究紀要第 39 号（2009 年 3 月）45 - 53
地域に根ざす短期大学としての活動の枠組みに関する考察（論文）	共著	平成 21 年 3 月	小田原女子短期大学	小田原女子短期大学研究紀要第 39 号（2009 年 3 月）1 - 13
保育者養成校での音楽技能『声楽』の授業の取り組みへの一考察Ⅱ保育者の感性の養成に対する提言」（論文）	単著	平成 22 年 3 月	小田原女子短期大学	小田原女子短期大学研究紀要第 40 号（2010 年 3 月）26 - 46
保育者養成における音楽技能の教育についての一考察Ⅱ（論文）	共著	平成 22 年 3 月	小田原女子短期大学	小田原女子短期大学研究紀要第 40 号（2010 年 3 月）56 - 64
保育者養成における音楽技能の教育についての一考察Ⅲ（論文）	共著	平成 23 年 3 月	小田原女子短期大学	小田原女子短期大学研究紀要第 41 号（2011 年 3 月）40-48
子育て支援のおける音楽遊びの実践についての一考察～地域子育て支援の現状と課題の分析（論文）	共著	平成 24 年 3 月	小田原女子短期大学	小田原女子短期大学研究紀要第 42 号（2012 年 3 月）8 - 20
保育者養成における音楽表現の教育についての一考察～音楽的な表現活動の実践における課題～（論文）	共著	平成 25 年 3 月	小田原女子短期大学	小田原女子短期大学研究紀要第 43 号（2013 年 3 月）30 - 41
「地域子育てひろばを活用した乳幼児家庭全戸支援（１）―小田原モデルの研究と試行―」（論文）	共著	平成 27 年 3 月	小田原短期大学	小田原短期大学研究紀要第 45 号(2015 年 3 月）50 - 63
幼児期における感性を育成する表現遊びに関する考察（１）～おだたんくらぶ　幼児教室における小グループの音楽遊びの分析～（研究ノート）	共著	平成 29 年 3 月	小田原短期大学	小田原短期大学研究紀要第 47 号(2017 年 3 月）64 - 88
幼児教育における「わらべうた」と「伝統的な遊び」の導入に関する一考察～新旧幼稚園教育要領と日韓音楽教育の比較より～（論文）	共著	平成 30 年 3 月 31 日	小田原短期大学	小田原短期大学研究紀要第 48 号(2018 年 3 月）9 - 18
2 歳児の聴く力を育てる音楽遊び「お返事あそび」についての考察（１）～その内容と実践者の生み出す音環境（論文）	共著	平成 30 年 3 月 31 日	小田原短期大学	小田原短期大学研究紀要第 48 号(2018 年 3 月）19 - 38

ソプラノリサイタル（モーツアルト作曲『モテット』「踊れ喜べ幸いなる魂よ」他	単独	平成 12 年 11 月	自主公演	「ベルカントの歌声をあなたに」(金沢区後援・長浜ホール)
コンサートに出演　ソプラノ独唱、重唱出演（ヴェディ作曲オペラ「リゴレット」より「麗しい人の名は」他	共同	平成 12～14,16 17,19,20 年	磯子文化協会	磯子スプリングンコンサート（磯子公会堂）の各年に独唱やアンサンブルで出演
ソプラノソリストとしてコンサートにゲスト出演（滝廉太郎作曲・水野利彦編曲「荒城の月 21」他）	共同	平成 15 年 11 月	コンサート実行委員会	琴のコンサート「ひとひらの桜によせて」）長崎市チトセピアホール
ソプラノソリストとしてコンサートに出演	共同	平成 20 年、22 年の各 11 月	ベルカント茅ヶ崎	第 25 回、27 回クラシックヴォーカルコンサートにソプラノ独唱とアンサンブルで出演（茅ヶ崎市民会館）
第 23 回横浜童謡協会コンサートに出演	共同	平成 23 年 6 月	横浜童謡協会	横浜童謡協会童謡コンサート第 23 回出演
ソプラノソリストとしてコンサートに出演	共同	平成 23 年 10 月	ベルカント茅ヶ崎	第 28 回クラシックヴォーカルコンサート「城山三郎を偲んで」出演
第 24 回横浜童謡協会コンサートに出演	共同	平成 24 年 5 月	横浜童謡協会	横浜童謡協会第 24 回童謡コンサートに出演
タイ王国, アサンプション大学における招請コンサート出演	共同	平成 25 年度 1 月	タイ王国, アサンプション大学	タイ王国アサンプション大学音楽学部にて招待演奏及び同大学ミュニケーションアート学部にて「竹取物語」の音楽劇上演
タイ王国のダラサムット学校幼稚園の音楽表現活動を含む幼児教育についての研究視察	共同	平成 25 年度 1 月	タイ王国ダラサムット学校幼稚園	タイ王国の音楽表現活動を含む幼児教育の研究の為、タイ王国ダラサムット学校幼稚園を視察
第 25 回横浜童謡協会コンサートに出演	共同	平成 25 年 5 月	横浜童謡協会	横浜童謡協会第 25 回童謡コンサートに出演
ソプラノソリストとしてコンサートに出演	共同	平成 25 年 10 月	ベルカント茅ヶ崎	第 30 回クラシックヴォーカルコンサート（茅ヶ崎市民会館）に出演
第 26 回横浜童謡協会コンサートに出演	共同	平成 26 年 5 月	横浜童謡協会	横浜童謡協会第 26 回童謡コンサートに出演（関内ホール）
第 30 回全国大学音楽教育学会全国大会研究演奏	共同	平成 26 年 8 月	全国大学音楽教育学会	全国大学音楽教育学会全国大会研究演奏（暮らしの中の自然から生まれた子どもの歌～昔と今～）に独唱と二重唱で出演（音楽之友社ホール）
ソプラノソリストとしてコンサートに出演	共同	平　成 27、28 年 10 月	ベルカント茅ヶ崎	第 32、33 回クラシックヴォーカルコンサートにソプラノ独唱とアンサンブルで出演（茅ヶ崎市民会館）
第 28 回横浜童謡協会コンサートに出演	共同	平成 28 年 5 月 29 年 5 月	横浜童謡協会	横浜童謡協会第 28、29 回童謡コンサートに出演
久楽岐能楽舞台童謡運動 100 年「赤い鳥」創刊 100 年記念童謡コンサート（共演）久楽岐能楽舞台	共同	平成 29 年 10 月	横浜童謡協会	童謡運動、「赤い鳥」創刊 100 年記念を記念した童謡コンサート
子育て応援ブックＤＶＤ～赤ちゃんを育て始めたあなたへ～	共著	平成 27 年 10 月	小田原短期大学	神奈川県政策研究に伴う地域赤ちゃんひろばの運営の為の子育てヒント集の DVD「感性が育つ」項担当
乳幼児研究所幼児教室パンフレット制作	共著	平成 28 年 2 月	小田原短期大学乳幼児研究所	平成 27 年度神奈川県地域創生採択事業の活動である乳幼児研究所の幼児教室の 1 年間の活動の成果としてパンフットを製作した。（編著担当）

「おだたんクラブのうた」ＣＤ制作 赤ちゃんひろば運営の手引き 食育に歌「まるごと元気の歌」「手洗いシュシュシュのうた」ＣＤ制作の歌唱担当	共同 共同	平成 28 年３月 平成 29 年１月 平成 29 年２月	小田原短期大学乳幼児研究所 小田原短期大学 小田原短期大学乳幼児研究所	平成 27 年度神奈川県地域創生採択事業の一環としてのおだたんクラブのうたＣＤ制作編集と歌唱担当 赤ちゃんひろばを運営するための手引書 平成 28 年度神奈川県県西地域大学連携事業「乳幼児期から始める未病に関するアプローチ」に関連した食育を促進する子どもの歌製作（歌唱担当）
その他　（表彰等）		特記事項なし		

専任教員教育研究業績

平成 30 年 6 月 5日

氏名	ふりがな	所属学科	職位	性別
間野　百子	まの　ももこ	保育学科	学科長 教授・准教授・講師・助教	男・女

担当科目名	学内委員会等（委員長）
幼児理解の理論と方法、卒業研究（ゼミナール）、児童館の機能と運営、 職業と社会Ⅰ、基礎学力演習 教育実習指導（通信課程）、保育・教職実践演習（通信課程）	教授会、カリキュラム委員会、教員養成カリキュラム委員会、紀要委員会、 入試・募集員会

学歴

和暦（西暦）年　月	事項	学位
S60(1985) 年3月	津田塾大学学芸学部英文学科	学士（文学）
H14(2002) 年3月	東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻博士前期課程修了	修士（教育学）
H20 (2008) 年3月	東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻博士後期課程満期退学	

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
都留文科大学文学部社会学科	H17 年4月～H23 年3月	非常勤講師「生涯学習論」「社会教育演習」「社会教育課題研究」担当
明星大学日本文化学部言語文化学科	H17 年4月～H23 年3月	非常勤講師「生涯学習概論」担当
立正大学文学部心理学科	H18 年4月～H23 年3月	非常勤講師「生涯学習概論Ⅰ・Ⅱ」担当
昭和音楽大学音楽部音楽学科	H21 年4月～H26 年3月	非常勤講師「生涯学習概論」「社会教育計画論」「社会教育演習・実習」「社会教育特講Ⅱ」担当
宇都宮共和大学子ども生活学部	H23 年4月～H26 年3月	教授「フィールドワーク」「子どもの生活史」「児童館の機能と運営」「現代の教養講座Ⅲ」「子どもの生活とコミュニティ」「子育て支援演習」「世代間交流」担当
小田原短期大学	H26 年4月～現在	保育学科　教授

所属学会等

名称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）
日本社会教育学会	H14 年7月～	学会員（現在に至る）
日本教育学会	H15 年4月～	学会員（現在に至る）
日本家族社会学会	H15 年4月～	学会員（現在に至る）
アメリカ教育学会	H19 年4月～	学会員（現在に至る）
日本世代間交流学会	H22 年6月～	学会員（現在に至る）
日本更生保護学会	H25 年4月～	学会員（現在に至る）
日本福祉教育・ボランティア学習学会	H30 年4月～	学会員（現在に至る）

社会活動等

名称	活動期間	活動内容
特定非営利活動法人日本世代間交流協会	H16 年8月～現在	理事（現在に至る）
日本世代間交流学会	H22 年6月～現在	評議員（現在に至る）
文部科学省国立教育政策研究所	H22 年4月～H25 年3月	「生涯学習の実態とその長期的変化に関する調査研究」研究員

担当教科目に関する資格・免許等

名称	取得年月	取得機関
中学校教諭免許一級普通免許　第4170号（英語科	S60 年3月	東京都教育委員会
高等学校教諭免許二級普通	S60 年3月	東京都教育委員会

免許第4220号（英語科）		

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 1．『生涯学習がつくる公共空間』	共著（分担執筆）	平成 15 年 3 月	柏書房	佐藤一子編著、佐藤一子・新谷周平・藤村好美他著 「高齢者の社会参加とセルフ・ヘルプ活動」第四章三節を担当。（pp. 152–163） 担当章では、高齢者の社会参加のあり方を、共有課題の軽減や克服を目的とする「セルフ・ヘルプ」活動に焦点をあてて検討した。実践事例として、孫の養育・教育責任を担う祖父母たちの活動をグループワーク理論にもとづいて検討した。日本においても、教育・福祉の領域で高齢者主体のセルフ・ヘルプ活動が盛んになり始めている。結論として、わが国で高齢市民主導・参加型の相互支援活動を発展させていくうえでの課題を考察した。
2．『インタージェネレーション：コミュニティを育てる世代間交流』	共著（分担執筆）	平成 16 年 7 月	至文堂	草野篤子・秋山博之編集、草野篤子・秋山博之他著 「インタージェネレーションの現状と課題」を担当（pp. 66–72 ）。 「インタージェネレーショナル」（世代間）という概念は、「若年世代と高齢世代の人びとの双方向的な交流活動が、両世代に特有の心理・社会的ニーズの充足に資する」という理論仮説に依拠している。現在では、成人世代の教育・福祉ニーズも視野に入れた社会問題対応型の活動へと発展している。 本章では、1960 年代半ば以降、米国を発祥の地として組織的・体系的に展開されているインタージェネレーショナル・プログラムの歴史的展開とプログラムを遂行していくうえでの課題を明らかにした（B5 版、全頁数 220 頁）。
3．『世代間交流効果―人間発達と共生社会づくりの視点から』	共編著	平成 21 年 5 月	三学出版	近年わが国においても、過度の競争主義が導入された結果、教育・医療・福祉などの公共領域にまで経済格差の拡大に伴う悪循環が及んでいる。本書では、このような社会・経済状況のなかで、異なる世代の人びとが各自の自立や発達を目指して相互に支援しあっている草の根レベルの活動に焦点をあてた。市民主導型・参画型の活動を理論的・実証的に検討し、世代間の交流関係から生じる特有の効果を科学的に検証していくことの意味とその課題について明らかにした。 担当章では、一般の高齢市民が、情緒不安、学業困難を抱えている子ども・若者を個別継続的に支援する世代間メンタリングに焦点をあてて、その社会的役割と独自の効果について検討した。米国では、1980 年代半ば以降、青少年による問題行動の急増が社会問題視され、非行予防対策の一環としてメンタリングが導入されるようになった。組織的・体系的なメンタリング実践のプログラムの立案から実施に至るプロセスを検討した結果、参加高齢者と青少年の関係を客観的な立場で支援するスタッフの役割も大きいことが明らかになった。
4．『世代間交流学の創造―無縁社会から多世代間交流型社会の実現のために』	共編著	平成 22 年 12 月	あけび書房	草野篤子・柿沼幸雄・金田利子・藤原佳典・間野百子編著（A 5 版、全頁数 245 頁） 「世代間の相互学習・相互支援の視点から」第 I 部 3 章を担当。（pp. 49–59） 本書は、世代間交流という概念を既存の社会構造に導入することにより、これまで世代・職業・症状などに基づいて分断して営まれてきた保育・教育、福祉活動のあり方を転換していけることを提案した。さらに、世代間交流という「論」を「学」へと発展させていくために、その理論的枠組みと実践現場での活かし方について検討し、世代間交流活動が創出する多世代交流型の公共空間の展望と課題について明らかにした。 担当章では、世代間交流学の独自性を支える理論として、世代間の「相互学習・相互支援」を提案した。専門職化の進展に伴い、教育行為、支援行為の提供者・受容者としての役割が固定化されてきた現代の社会構造に「多世代共生」の視点を取り入れ、子ども・若者や高齢者が学習や支援行為の提供者として参加できる実践を発展させていくうえでの課題について検討した。

５．『教育老年学と高齢者の学習』	共著（分担執筆）	平成 24 年 3 月	学文社	堀薫夫編著（A５版、全頁数253頁） 「アメリカにおける高齢者のセルフ・ヘルプ・グループの展開：孫を養育する祖父母たちの活動を事例として」第６章を担当。(pp.170-186) 本書は、生涯学習の完成期である高齢期に特有の学習理論を組み立てることを目的とした。高齢者の生活と人生に織り込まれた根底的な「学習」による成長を、支援者のみならず同輩や社会や組織がささえるという視点を加味して分析した。 担当章では、高齢世代の人びとの学習実践として、親の代わりに実孫を養育・教育している祖父母同士のセルフ・ヘルプ活動について検討した。祖父母は新しい役割に適応できないうえに、被害者意識を有している。不安や葛藤を内面化している祖父母たちが、互いの体験に伴う知識を共有したり、分かちあったりすることから生じる体験的学習を重ねながら次第に自分の役割を受け止めつつ他者を援助する、セルフ・ヘルパーへと変容していくプロセスについて明らかにした。
６．『世代間交流の理論と実践１：人を結び、未来を拓く世代間交流』	共著（分担執筆）	平成 27 年 3 月	三学出版	草野篤子他編著（A5版、全頁数181頁） 「非行少年の更生支援における民間ボランティアの役割：BBS運動の展開に焦点をあてて」第４章を担当（pp.41-53） 担当章では、戦後日本における非行少年の地域内処遇の現代的意味について、少年の立ち直りを支えてきた民間ボランティアの支援力に着目して検討した。検討をとおして、青年による非行少年支援活動である、アメリカ発祥のBBS（Big Brothers and Sisters）運動の我が国における歴史的展開と今後の発展性について明らかにした。
(学術論文) １．「米国における高齢者の社会参加の意義と促進―AARP のコミュニティ活動を通しての考察」	単著	平成 15 年 3 月	『東京大学大学院教育学研究科紀要』第42巻、東京大学大学院教育学研究科、pp.429-437。	AARP（「全米退職者協会」、American Association of Retired Persons）は、「高齢者もサービスの受け手ではなく、担い手になろう」という理念を掲げて 1958 年に設立され、現在では、全米最大規模の非営利団体へと発展している。本稿では、AARPがコミュニティを基盤として展開している会員によるボランティア活動の検討をとおして、高齢者の知恵や経験を社会全体の人的資源として活用することの意味と今後の課題を考察した。
２．「米国における祖父母教育と祖父母同士のサポート・グループ―親役割の代行に伴う課題解決に向けて」	単著	平成15年12月	『生涯学習・社会教育学研究』第２８号、東京大学大学院教育学研究科生涯教育計画講座社会教育研究室、pp.11-20。	北米では、1990年代以降、子どもの養育義務を果たせない親に代わり、実孫の教育・養育責任を担う祖父母が急増している。しかし、孫の「親役割」を代行する祖父母への公的な支援体制は整備されておらず、大半の祖父母は経済的・社会的・精神的に困難な状況に陥っている。本稿では、このような祖父母を対象とする情緒・情報支援のあり方について、祖父母に対するサポート・グループと大学が主催する「祖父母教育」をとおして検討した。
３．「セルフ・ヘルプ・グループによるサポートの特質課題―米国における配偶者を亡くした人同士のグリーフ・ケアを中心に」	単著	平成16年12月	『生涯学習・社会教育学研究』第２９号、東京大学大学院教育学研究科生涯教育計画講座社会教育研究室、pp.45-54。	現代社会においては、親族・家族を主体とする私的支援のみで、人びとが直面するさまざまな心理・社会的困難に対応することは難しい。そこで本稿では、インフォーマルなサポートの源としての「セルフ・ヘルプ」活動に着目して、同質課題を有する人たちの支援活動について理論的・実証的に検討した。実践例として、配偶者を亡くし、「グリーフ」（大切な人との死別に伴う精神的衝撃が多大で、日常生活を営むうえで困難を抱えている状態）に陥っている人同士の相互支援活動の現状と課題を明らかにした。
４．「青少年との相互交流をとおした高齢者の社会参加活動－米国におけるメンター役割の遂行を中心に」	単著	平成 17 年 3 月	『東京大学大学院教育学研究科紀要』第44巻、東京大学大学院教育学研究科、pp391-399。	米国では、青少年と高齢者の相互交流の機会を意図的に創出する「世代間プログラム」の研究が教育学、社会福祉学、社会学などの領域で蓄積されている。本稿では、一般の高齢市民が、「メンター」として問題をかかえる青少年とともにコミュニティ活動に参加するプログラムについて検討した。検討をとおして、地域住民、学校、そして専門機関の協働によるプログラムを成功裡に進展させていくうえでの課題を

				析出した。
5.「世代間相互支援をとおした高齢者の若年世代への貢献―ソーシャル・サポート源の拡張に向けて」	単著	平成 17 年 6 月	『エイジレス・フォーラム』第 3 号、シニア社会学会、pp.19-29。	少子・高齢社会を迎えたわが国においては、心身の健康に恵まれた高齢世代の人びとが、教育・福祉サービスの提供者としての役割を果たすことが求められている。そこで本稿では、高齢市民がケア・サービスの担い手として関わる、「レスパイトケア（一時休息ケア）（心身の障害や慢性疾患を有する子どもの介護者のケア）について検討した。検討をとおして、高齢の一般市民の子育て経験などを活用するタイプの社会貢献活動を促進するうえでの課題を明らかにした。
6.「世代間統合施設の今日的意義と課題―米国の展開をとおして」	単著	平成 17 年 12 月	『生涯学習・社会教育学研究』第 30 号、東京大学大学院教育学研究科生涯教育計画講座社会教育研究室、pp.11-20。	米国では、1990 年代以降、青少年施設と高齢者施設の統合化が進められている。本稿では、そのような施設において展開されている「世代間統合施設」（Intergenerational Shared Site）プログラムの分析をとおして、統合施設ゆえに遂行できる世代間活動を成功裡に進展させていくうえでの課題を析出した。その結果、プログラムの立案に始まり、実施、フィードバックへと至る過程に関与するスタッフの養成が緊急課題であることを提起した。
7.「高齢者同士のセルフ・ヘルプ活動の意義と特質―米国における相互支援活動に焦点をあてて」	単著	平成 18 年 3 月	『明星大学研究紀要』第 14 号、明星大学日本文化学部・言語文化学科、pp.119-126。	米国では、1930 年代半ば以降、同質の問題を抱える人同士が共有課題の解決・軽減に向けて支援しあう「セルフ・ヘルプ」活動が展開されている。本稿では、高齢世代に特有の情緒面の課題に対処していくうえで、セルフ・ヘルプ活動が参加者に及ぼす影響について検討した。その結果、高齢者グループでは、「自己開示率」（内面の課題や葛藤を他者に打ち明けること）が高く、グループへの帰属意識も強い一方で、メンバー相互の依存性を高めてしまうことが課題であることを明らかにした。
8.「統合施設における世代間活動の展望と課題―米国の IGSS プログラムに焦点をあてて」	単著	平成 18 年 3 月	『世代間交流学研究』第 1 号、関西世代間交流研究会、pp.47-59。	本稿では、さまざまな世代の人びとがそれぞれの世代特有の教育課題や福祉ニーズを充足するために集う「統合施設」の利用者のニーズにそくしたサービス活動を提供していくうえでの課題について検討した。その結果、異なるニーズを有する人びとを対象としたプログラムを効果的に遂行していくためには、「世代間スペシャリスト」（児童心理学から老年学にいたるまでの知識と現場経験を有する人）が活動をコーディネートしていく必要性が高いことを明らかにし、人材の育成が課題であることを提起した。
9. "Role of Self-help Activities in Life-long Learning: An Examination of the 'Grief & Loss' Programs in the U.S."	単著	平成 19 年 10 月	『都留文科大学紀要』第 66 集、都留文科大学、pp.139- 151。	本稿では、生涯学習の実践に「セルフ・ヘルプ」活動を取り入れていくことの必要性と課題を米国の先進動向をとおして検討した。多様な「セルフ・ヘルプ」活動のなかでも、配偶者、家族、友人などとの死別に遇し、その精神的衝撃により「グリーフ」に陥っている人同士の活動に着目し、そこで展開される「学びのプロセス」とグループワークを主導するリーダーの役割に焦点をあてた。最後に、このタイプの活動を発展させていくうえでの課題を明らかにした
10. "Role of Intergenerational Mentoring for Supporting Youth Development: An Examination of the 'Across Ages' Program in the U.S."	単著	平成 19 年 12 月	Educational Studies in Japan, International Yearbook, Japanese Educational Research Association, No.2（『教育学研究』英語版、第 2 号、日本教育	今日わが国においても、子ども・若者の非行予防に向けた取り組みが行なわれている。米国では、1990 年代以降、成人期に向けて心身ともに健全に成長していくうえで問題を抱え、非行に走る可能性が高い青少年の支援対策が官民協働で図られてきた。本論では、支援プログラムの一環として教育現場に導入されている、「世代間メンタリング」のモデルプログラムの企画・運営の仕方とプログラム参加者に及ぼす効果について分析した。結論として、子ども・若者の非行予防対策に「メンタリング」を取り入れていくうえでの課題を理論的・実証的に明らかにした。

			学会、pp.83-94)。	
11.「成人教育におけるセルフ・ヘルプ活動の役割―米国の『祖父母の会』に着目して」	単著	平成 21 年 9 月	『アメリカ教育学会紀要』第 20 号、アメリカ教育学会、pp.58-69。	本論では、成人教育の理論やその実践における、セルフ・ヘルプ・グループ特有の役割について、全米規模にまで発展を遂げてきた活動、「祖父母の会」の展開に焦点をあてて検討した。市民が自治的に運営する草の根のグループ活動を財政的に安定させ、継続的に進展させていくうえで、NPO 団体との協働関係やセルフ・ヘルプ・リソース・センターをとおした各グループへの情報支援が重要であることを明らかにし、日本での活動を発展させていくうえでの示唆を導いた。
12.「米国における祖父母と孫の世代間家族の現状と課題―孫を養育する祖父母支援に焦点をあてて」	単著	平成 24 年 6 月	『日本世代間交流学会』第 2 号、日本世代間交流学会、pp.9-17。	近年、自身の問題（失業、疾病、投獄、虐待など）により、子どもの養育義務を果たせない親が増加している。祖父母は実の孫が社会的養護のもとで生育することを回避するセーフティネットとしての役割を果たしている一方で、親族によるケアに対する公的な支援は整っていない。そこで本論では 1990 年代以降、世代間関係の主要テーマとして位置づけられている、「祖父母と孫の世代間家族」特有の課題とその支援体制について検討した。
13.「孫の養育者としての祖父母の役割―アメリカの『一世代スキップした家族』に着目して」	単著	平成 25 年 1 月	『季刊家庭経済研究』 家計経済研究所，平成 25 年，Winter, pp.42-49。	本号では、親世代を介在した祖父母と孫の関係性についての特集が組まれ、子育て中の親にとって祖父母世代のインフォーマルなケアが重要であることが検証された。 本稿では、親が実子の養育義務を果たせないために、孫の親権者として親役割と祖父母役割を担う祖父母とその孫を構成員とする家族の抱える特有の課題を明らかにした。孫を養育している祖父母も子育て支援対策の一環として位置づけられてきた歴史的展開をアメリカの動向をもとに検討した。
14.「ボランティア活動が若者に及ぼす影響―教育理論と教育効果の視点から」	単著	平成 29 年 3 月	『小田原短期大学研究紀要』第 47 号、pp.21-26。	本論では、大学生を主体とする若者世代がボランティア活動に参加することの意味について、教育理論と活動が若者に及ぼす影響について検討した。若者の活動を効果的に展開していくうえでは、事前指導―活動―活動の振り返りという教育プロセスが重要であることを明らかにした。少年支援のボランティア活動の援助者を対象に実施した調査結果を通して、活動が若者の学びや成長、職業観の形成等に効果を及ぼしていることを実証した。
（その他、報告書）				
1.『地域づくり・教育と自治体教育行政―川崎市・木曽調査報告書』	共著（分担執筆）	平成 13 年 3 月	佐藤一子・小川正人発行、東京大学教育学部教育行政学コース編集、佐藤一子・小川正人他著	担当項目「奈良井宿の町並み保存活動」 本調査では、神奈川県川崎市ならびに長野県木曽を事例として、それぞれの地域の特性を活かした「まちづくり」を推進いくうえで、行政職員と地域住民の連携がいかに図られてきたかを実証的に検証した。本論では、奈良井宿の町並み保存活動の歴史的展開について、活動に関与されてきた地域住民や行政側職員へのインタビューを踏まえて検討した。調査結果にもとづいて、過疎化、高齢化の進展する地域社会における官民協働の取り組みの今後の課題を明らかにした（A４版、全頁数 300 頁）。
２．科学研究費報告書『NPO の教育力と社会教育の公共性をめぐる総合的研究	共著	平成 15 年 3 月	平成 13・14 年度科学研究費補助金基盤研究（B）（１）	佐藤一子研究代表、佐藤一子・高橋満・田中雅文・辻浩他著 担当項目「高齢者の社会参加を推進する NPO－AARP」」 本研究では、わが国の NPO 団体の理論的・歴史的・実証的検討をとおして、NPO 団体特有の「教育力」に関して検証した。 担当論文では、全米最大規模の NPO 団体、AARP（「全米退職者協会」American Association of Retired Persons）が展開するコミュニティを基盤とした教育・福祉活動の特質を明らかにした。さらに、NPO 団体が公共的課題に対処していくために果たすべき社会対処的使命と役割について検討した（A４版、全頁数 337 頁）
３.「成人教育のための法制」「労働市場のためのオープン・ラーニング」「近隣センターとクラブスクール」	共著	平成 15 年 9 月	東洋館出版	パオロ・フェデリーギ編、佐藤一子・三輪健二監訳『ヨーロッパ成人教育用語事典』翻訳箇所(pp.86-87, p.146, pp.156-157) EU 加盟職では、「成人教育」が教育市場の一翼を担っている。本書は、成人教育関連のキーワードを集約し、教育関係者の共通認識を促進することを目的として編纂された。 担当箇所では、ルーマニア、ハンガリー、スイスの最新事例をとおして、成人の特性を活かした教育方法、法制度について明らかにした。

4.「世代間プログラム『どの程度深く関与するか』の問題」	共著	平成 16 年 7 月	至文堂	マット・カプラン著、間野百子訳、 草野篤子・秋山博之編集「インタージェネレーション：コミュニティを育てる世代間交流」『現代のエスプリ』第 444 号 (B5 版、全頁数 220 頁) 翻訳箇所 (pp.51-58) 本論文では「世代間関与の深さ」という尺度を用いて、世代間交流プログラムの参加者同士の人間関係がどのように変化していくかについて分析した。世代間交流事業をとおして、がダイナミックで発達的な人間関係が構築されていくプロセス 7 を明示したうえで、参加者のニーズや状況に応じたプログラムの立案・遂行、ならびに、終了後の効果評価の結果を次に活用していくことの必要性について論じた。
5. 「プログラムによる世代間交流の促進」	共著	平成 16 年 7 月	至文堂	ナンシー・ヘンケン著、間野百子訳、 草野篤子・秋山博之編集「インタージェネレーション：コミュニティを育てる世代間交流」『現代のエスプリ』第 444 号 (B5 版、全頁数 220 頁)。翻訳箇所 (pp.59-65) 本論文では、家族関係や社会構造の急速な変動に対応していくうえで世代間交流の視点が鍵となることを提案し、コミュニティを基盤とする市民活動の一環として世代間交流プログラムが果たすべき役割と課題を明らかにした。今後、世代間共生型コミュニティを構築していく際に鍵となる事項を具体的提示し、それぞれの課題と展望について検討した。
6.「世代間交流の実践における評価の重要性」	共著	平成 18 年 3 月	全日本社会教育連合会	サリー・ニューマン&エリザベス・ラーキン著、高橋恵・間野百子訳 『社会教育』2006 年 3 月号 (A 4 版、全頁数 88 頁)。翻訳箇所 (pp.30-36) 本誌は、世代間交流の特集を組み、「子ども」「高齢者」という世代別の縦割りの行政政策に世代間交流の視点を取り入れることを提案した。本論文は、世代間交流事業を発展させていくために、科学的・客観的な尺度を用いて、交流活動の効果を検証し、政策立案者や関連機関にアピールしていくことの必要性を訴えた
7.『社会教育・生涯学習辞典』	共著	平成 24 年 11 月	朝倉書店	本辞典は国内外の「社会教育・生涯学習」に関連することがらを約 300 項目抽出し、各項目の定義、歴史的展開、最新の動向、今後の展望や課題について総括したものである (全頁数 674 頁) 担当項目「受容」(pp.274－275)；「ケアリング」(pp.122-123)；「グリーフワーク」(pp.118-119)；「エンカウンターグループ」(p.44)；「アウエアネス」(p.3)「AARP、全米退職者協会」(p.36)。
8.「生涯学習の学習需要の実態とその長期的変化に関する調査研究報告書」	共著	平成 25 年 3 月	文部科学省国立教育政策研究所生涯学習政策研究部、立田慶裕研究代表 (平成 22－24 年度) 国立教育政策研究所	本調査は、国民の学習ニーズを把握し、生涯学習政策に反映させることを目的に行なった、アンケート調査、インタビュー調査結果に考察・分析を加えたものである (A 4 版、全頁数 593 頁)。間野百子は、第 4 部「高齢者の社会参加と学習」第 3 章「高齢者の情報活用」を担当した。ＩＴ化の進展が高齢者の情報収集力・活用力に影響を及ぼし、経済格差が情報の質にまで拡大しており、情報弱者に向けた取り組みが必要であることを明らかにした (pp.442-459、全頁数 18 頁)。
9.「音楽と絵本のハーモニー」	単編著	平成 25 年 3 月	「麻生図書館、昭和音楽大学・昭和音楽短期大学協働企画報告書」昭和音楽大学・昭和音楽短期大学社会教育主事課程	本報告書は、昭和音楽大学における平成 24 年度社会教育主事課程の必修科目「社会教育演習・実習」の授業の一環として、麻生図書館と協働で企画・運営した親子向けイベントの一連の流れ (趣旨、企画案、台本作成、振り返り) について記し、このようなイベントが子ども、保護者、そして学生に及ぼす効果について考察したものである (全頁数 80 頁)。
10.「リスクの高い青少年支援における世代間メンタリングの役割：更生保護ボランティアの支援力に着目して」	単著	平成 26 年 3 月	『日本世代間交流学会誌』日本世代間交流学会、Vol.4, No.1, pp.85-94	戦後の日本では、保護司を中心とする民間ボランティアが非行初年の地域社会内における立ち直りを支援している。本論では、少年の更生においても厳罰化・社会防衛が重視される現代社会において、非行少年の更生支援に民間ボランティアが関わることの現代的意味を世代間メンタリングの機能に着目して明らかにした。

11.「子育て支援における世代間関係のプロセスモデルとその実証的検討」	共著	平成 27 年 3 月	独立行政法人学術振興会、平成 24～26 年度科学研究費補助金基盤研究（C）	共同研究者として、幼児や小学生・中学生の子育て中の親と地域の子育て支援者の間に信頼関係が形成される要因とそのプロセスを明らかにした。
12.「ともだち活動の現状と課題について：BBS運動を最も特徴づける活動を考える」 （口頭発表）	共同（分担執筆）	平成 28 年 6 月	「更生保護学研究」第 8 号、pp.69-77、日本更生保護学会	日本更生保護学会の大会企画シンポジウム、「ともだち活動の現状と課題について―BBS 運動を最も特徴づける活動を考える」のうち、「非行少年の更生支援における『ともだち活動』の役割―活動経験者に及ぼす互恵的相乗効果に着目して」というテーマで、ＢＢＳ(Big Brothers and Sisters) 会員を対象とした実施した質問紙調査の分析結果を報告した。
1.「米国における高齢者の社会参加を促進するプログラム」	単独	平成 14 年 10 月 5 日	日本社会教育学会第 49 回研究大会（北海道大学）	本発表では、全米最大規模の非営利団体、「全米退職者協会(AARP, American Association of Retired Persons)」の会員が提供している地域住民へのサービスプログラムの検討をとおして、高齢市民が地域住民と相互関係を育むことの意義について検討した。多様なプログラムのなかでも、1970 年代初めに設立された「グリーフ&ロス」プログラムに焦点をあてて、大切な人との死別に伴う喪失感を共有している人同士が自立と社会復帰を目標として支援しあう活動の現代的意味と課題について報告した。
2.『米国における高齢者の社会参加を促進するサポート・システム―AARP「全米退職者協会」の地域社会サービス活動を通して』	単独	平成 15 年 9 月 13 日	日本社会教育学会第 50 回研究大会（早稲田大学）	本発表では、高齢市民が社会活動に自発的に参加していくことをサポートする民間主導のシステムについて検討した。その先進例として、米国において、各種 NPO 団体や専門機関が協働してどのように高齢市民の社会参加をバックアップしているかについて検討した。財政基盤が安定しており、知名度も高い「全米退職者協会」などの NPO 団体が高齢者の社会参加活動を促進していくうえで担っている社会的使命と役割について明らかにした。
3.「高齢者の社会参加活動を促進するプログラムー米国の世代間交流プログラムを通しての考察」	単独	平成 16 年 6 月 19 日	日本シニア社会学会第 3 回研究大会（早稲田大学）	本発表では、高齢期の人びとの経験や知恵を社会に還元していくタイプの社会参加活動として、「世代間交流プログラム」に焦点をあてた。世代間交流プログラムは、1960 年代以降、米国を発祥の地として、組織的・体系的に展開されている。発表では、連邦政府がプログラムを創設するに至った歴史的推移や社会的背景を明らかにし、わが国で展開されている世代間交流事業との共通点、相違点も加味して考察した。
4.「高齢者の社会参加活動の意義と形態―世代間の相互交流を通しての考察」	単独	平成 16 年 9 月 18 日	日本社会教育学会第 51 回研究大会（同志社大学）	本発表では、子ども・若者と高齢者の相互交流を育む活動の一つとして世代間交流プログラムについて検討した。多様な展開を遂げる世代間交流活動のなかでも、一般の高齢市民が素行面・学業面で問題を抱える子ども・若者の発達支援に関わる「メンタリング」活動に焦点をあて、米国において急速に発展してきた社会的背景、教育事情などについて検討した。結論として、地域社会全体で青少年の発達を支援していくことの現代的意味とその実践例を報告した。
5.「世代を結ぶ―共生型社会の構築と世代間交流の可能性」	共同	平成 17 年 10 月 9 日	日本社会福祉学会第 53 回研究大会、シンポジスト（東北福祉大学）	本シンポジウムでは、教育、医療・福祉、経済学、社会学などの多領域で研究されている、「世代間交流」が依拠する理論的根拠とその実践的展開について報告した。 シンポジスト：草野篤子・栗山昭子・多湖光旨・間野百子・杉岡さとる。間野百子は、共生型社会を構築していくための公共空間としての機能を有する複合施設の発展性について報告した。1990 年代以降、わが国においても子どもや高齢者の福祉・教育ニーズを充たすために分離して設立された公共施設の統合化が進められている。このような公共施設に集うさまざまな世代の人びとが相互に学習・支援しあえるタイプの交流活動を今後開発していくうえでの課題と可能性について提起した。

6.『「学び」の機会としてのセルフ・ヘルプ活動の展開―「グリーフ・ケア」プログラムに焦点を当てて』	単独	平成 18 年 9 月 9 日	日本社会教育学会第 52 回研究大会（福島大学）	本発表では、「セルフ・ヘルプ」（共有課題を抱えている人同士の相互学習・相互支援）活動を社会教育の現場に導入していくことの必要性と課題について報告した。多様性を増すセルフ・ヘルプ活動のなかで、「グリーフ・ケア」を目的とするセルフ・ヘルプ活動に参加することが、参加者に及ぼす心理的・教育的効果、プログラムを発展的に運営していくうえでピア・リーダーの存在意義、NPO 団体、教育・福祉施設との連携が課題であることなどを明らかにした。
7.「世代間交流学の創造に向けて―理論と実践の統合」 担当項目「相互学習・相互支援活動―教育・支援役割の固定化から双方向的関係へ」	共同	平成 22 年 8 月 7 日	日本世代間交流学会第 1 回研究大会（芦屋大学）	本発表では、これまで学際的に論じられてきた世代間交流特有の概念とその社会的意味を明らかにし、学問の一領域として体系的に発展させていくうえでの展望と今後の課題を明らかにした（草野篤子・金田利子・藤原佳典・間野百子）。 担当箇所では、世代間交流学活動特有の機能として、「相互学習・相互支援」活動に着目し、さまざまな世代の人びとが、職業、性別、年齢の差異を超えて、相互に学び、支援しあうことの現代的意味とその理論的根拠を明らかにした。
8.「米国における世代間メンタリング活動の展開―困難を抱える子ども・若者の発達支援」	単独	平成 22 年 9 月 25 日	アメリカ教育学会第 22 回研究大会（芝浦工業大学）	本発表では、1990 年代以降、米国で教育現場に導入されている「世代間メンタリング」の特質と課題について焦点をあてた。世代間メンタリングは、学業不振、情緒不安などの困難を抱えている子ども・若者の支援対策の一環としてプログラム化され、一般市民がボランティアとして支援役割を担っている。わが国でも、地域住民が児童・生徒の支援者として公教育の現場に参加する活動が展開され始めているなか、このような支援活動の展望と今後の課題について検討した。
9.「世代間交流プログラムの従来型と発展型の検討ー祖父母と孫の世代間家族を事例として」	共同	平成 24 年 10 月 6 日	日本世代間交流学会第 3 回全国大会（名古屋芸術大学）	本発表では、社会・家族変動を受けて、世代間交流プログラムの対象も多様化しながら発展し、その結果、親族間や家庭内の私的な家族関係にも世代間介入が行われるようになったことを明らかにした。具体例として祖父母と孫のみを構成員とする家族が抱える特有の課題や祖父母に対する支援網のネットワーク化について検討した。孫育ても子育てと同様に、公的な課題として位置づけて、その支援対策を講じる必要性が高いことを提起した。
10.「異世代間の関係を構築する一子育て支援につなげるための理論の検討」	単独	平成 25 年 3 月 17 日	日本発達心理学会第 24 回大会（明治学院大学	ラウンドテーブル話題提供者 企画・司会　加藤邦子、話題提供者（間野百子・藤原佳典・諏澤宏恵・井上清美）指定老論者　牧野カツコ 本ラウンドテーブルでは、子育てに地域社会のシニア世代が関わっていける関係を構築していく上での働きかけていくうえでの理論的枠組みについて検討した。
11.「非行少年の更生支援における民間ボランティアの役割―世代間メンタリングの機能に着目して」	単独	平成 25 年 10 月 6 日	日本世代間交流学会第 4 回研究大会（東京都健康長寿医療センター）	戦後日本の更生保護制度では、非行少年の地域社会内における個別的処遇を重視してきた。本発表では、非行少年の立ち直りのプロセスに保護司や BBS(Big Brothers and Sisters) 会員の若者などの民間人が保護観察官と協働で関わることの意味と課題について検討した。
12. 大会企画セッション「ともだち活動の現状と課題について―BBS 運動を最も特徴づける活動を考える」	共同	平成 27 年 12 月 6 日	日本更生保護学会第 4 回大会	「非行少年の更生支援における『ともだち活動』の役割―活動経験者に及ぼす互恵的相乗効果に着目して」というテーマのもと、BBS(Big Brothers and Sisters) 会員を対象とした質問紙調査の中間報告を行った。報告では、主に、活動の参加動機、継続要因、活動が会員に及ぼした影響、少年に及ぼした影響、活動を通して学んだこと、成長したこと、等の分析結果を通して、活動が少年や援助者に効果を及ぼしていることを実証した。
その他　(表彰等)	年　月	特記事項なし		

専任教員教育研究業績

平成30年4月 14日

氏名	ふりがな	所属学科	職位	性別
宮川　萬寿美	みやかわ　ますみ	保育学科	学科長 教授・准教授・助教	男・㊛

担当科目名	学内委員会等（委員長）
保育原理　・保育内容総論　Ⅰ・保育内容総論Ⅱ　・　ボランティア活動　・ 卒業論文ゼミナール・サービスラーニング・人間成長講座	通信学務委員会 乳幼児研究所　（所長）

学歴

和暦（西暦）年　月	事項	学位
昭和52（1977）年3月	お茶の水女子大学　家政学部　児童学科　卒業	
昭和54（1979）年3月	お茶の水女子大学大学　大学院　家政学研究科　児童学専攻修士課程修了	家政学修士

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
市町村の乳幼児健診の発達相談・子育て相談	平成13年5月～22年3月	箱根町・山北町・松田町・大磯町などの　乳幼児健診・親子教室における子育て相談・子どもの発達相談。
箱根町保育巡回相談員	平成14年10月～現在に至る	保育園・幼稚園・幼児学園に巡回相談を行い、保育内容や子どもへのかかわり方、集団活動・環境構成への助言等
箱根の森小学校心の相談員	平成20年4月～22年3月	教育相談
洗足学園短期大学（非常勤講師）	平成16年4月～21年3月	カウンセリング論・家族援助論
昭和女子大学（非常勤講師）	平成21年4月～22年3月	保育内容総論・乳児保育
聖セシリア女子短期大学（非常勤講師）	平成21年4月～22年3月	保育内容「人間関係Ⅰ・Ⅱ」
蒲田保育専門学校（非常勤講師）	平成21年4月～21年	蒲田保育専門学校（非常勤講師）
小田原女子短期大学	平成22年4月～	"小田原女子短期大学　保育学科　准教授　（平成27年3月まで）
小田原短期大学	平成27年4月～	保育学科　教授　現在に至る

所属学会等

名称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）
日本関係学会	昭和52年～	H21年より運営委員・研修委員　第30回（H21）31回（H22）大会実行委員 H26・27大会実行委員 H26.27 大会にて口頭発表
日本発達心理学会	平成13年～	大会等に参加　　H22　大会自主シンポジウム話題提供
日本臨床発達心理士会	平成14年～	大会・研修会に参加　H18　第2回大会実践研究発表
日本LD学会	平成16年～	大会・研修会・資格更新研修会に参加
日本保育学会	平成17年～	H17/18/19/20/21/22/23研究発表（口頭およびポスター）
日本人間関係学会	平成21年～	H21/22/23/24研究発表　（口頭）
日本心理劇学会	平成22年～	H28年度第22回全国大会運営委員

社会活動等

名称	活動期間	活動内容
幼稚園園内研究会　講師	平成13年～	小田原市公立幼稚園等での園内研究会の講師 その後小田原市早期発達支援事業に移行し、発達相談
湘南心理研究会 コスモスの会	平成13年～	神奈川県西湘地区の子育てや子どもの発達支援にかかわる専門職の勉強会　H16より世話人会役員
箱根町巡回相談	平成14年～	保育士等の保育相談・乳幼児の発達相談

発達支援研究所 MANA	平成 21 年 9 月～	研究員として発達障害を持つお子さんや家族とともに、よりよい生き方・支援に関して研究・実践
社会福祉法人鎌倉すこやか会保育園みつばち	平成 26 年 9 月～	監査
箱根町要保護児童連絡会委員	平成 26 年から	巡回相談員としての活動をもとに、要保護児童及び家庭支援に関して審議
JCOM 小田原審議員会	H28・29 年度	副委員長

担当教科目に関する資格・免許等

名称	取得年月	取得機関
小学校教諭　1級普通免許	昭和 52 年　3 月	東京都教育委員会　1513 号　(専修免許)
幼稚園教諭　1級普通免許	昭和 52 年　3 月	東京都教育委員会　625 号　(専修免許)
臨床発達心理士	平成 15 年　3 月	学会連合資格「臨床発達心理士」認定運営機構　第　00297 号

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概　　要
保育・教職実践演習−保育者に求められる保育実践力−	共著	平成 25 年 2 月 平成 29 年 3 月 改訂	建帛社	実践研究事例・幼保と小学校との連携の事例（P89－P92）
生活事例からはじめる−保育内容総論−	編著	平成 26 年 3 月 平成 29 年 3 月 改訂	青踏社	第４章　子どもの生活場面と保育内容 P50-68・第５章子どもの発達と保育内容（P86-92）第６章　遊びを通しての指導（P94-97,P104-108）第７章保育における計画の重要性（P114-124）第８章 多様性への対応（P126-135）
保育・教育課程総論	共著	平成 26 年 3 月 平成 29 年 3 月 改訂	大学図書出版	第１４章　幼稚園指導要録・保育所児童保育要録
生活事例から始める保育の心理学	編著	平成 27 年 4 月 平成 29 年 3 月 改訂	青踏社	第４章　ともに育つ（P112-116）　第６章事例検討
生活事例から始める保育原理	編著	H27 年 4 月 H28 年 4 月 改訂 平成 29 年 4 月 改訂	青踏社	第３章　子ども観・保育観　第７章保育の目標と内容　第８章　保育の方法　第９章こどもの発達と保育　第１３章　子育て・家庭支援
保育の計画と評価	編著	平成 28 年 3 月	萌文書林	全体の編集を行った　第４章　教育・保育の指導計画の作成にあたって（P64-73）　第５章　指導計画（長期的短期的）の作成　（P91-104）第７章保育の記録および省察（P162-174）第８章　教育・保育の評価と改善（P178-180）
保育する力	共著	平成 28 年 3 月	ミネルヴァ書房	第１章　チーム保育・保育の全体的な計画・保育の記録　第２章季節の行事　・クレームとその対応　第３章主任保育者としてのリーダシップ　第４章　チーム保育の具体例・チーム保育の効果
保育内容「言葉」指導法	共著	平成 28 年 3 月	ミネルヴァ書房	第４章　話し言葉の機能と発達（P68-82）
（その他） １、保育現場の発達支援―集団での「表現遊び」を通じての事例研究―	単著	平成 20 年 6 月	日本関係学会第 30 回大会（口頭発表。関係学研究に掲載）	保育の場での発達支援は、保育者に成立するその子の困った行動に焦点を当てるのではなく、関係状況にあらわれてくる課題と捉え、どのような保育を展開するとよいのか表現遊び「ピーターパン」の劇を通じて考察した

2、心理臨床的な諸問題のある子どもへの支援―幼稚園・保育所における実践から－（査読つき）	連名・発表者	平成20年8月	臨床発達心理士全国大会発表　第4回・論文集	発達に困難を持つ子どもに関して、専門家がどのように役割分担して、連携しているのかを、タイプ別に事例研究した。各機関の資源をおたがいに知ることの重要性が示唆された
3、遊びの発展とともに広がる人間関係を基盤とした個別支援の深まり	単著	平成 21 年 10 月	日本人間関係学会　第17回（文教大学）	友だちとコミュニケーションが取りにくい子どもが保育者との好きな物を媒介とした活動を通じ、友だちとのごっこ遊びに参加し、役割をとって遊びこんだ事例の研究.
4，幼保から小への学びの違いを乗り越えるには－読みの力を育てる保育環境の工夫－	単著	平成23年3月	小田原女子短期大学研究紀要第41号　（研究ノート）	幼少の接続期に文字への興味や関心を持つ子どもは多いが、今まで「いつの間にか読めていた・書けていた」子とまった興味のない子どもがいるなど、非常に個人差のある子どもの実態がある。読む力の差が、就学後の生活への適応に重要な意味をもつと考えられた。幼稚園や保育所など就学前教育においては学習のレディネスを意識した意図的な環境構成をし、見通しを持って「読む・書く力」を保育計画に入れ込むことで、より豊かな経験につながるのではないかと考えられた。74－81頁（総81頁）
5,幼児の人間関係力 (3) ―人との関わりの実践知を探る－“誘う”をてがかりに	共著	平成 25 年 11 月	日本人間関係学会　第21回大会（東京理科大学）	幼稚園の生活の中で、幼児の「人と関わる力」に意味があるととらえられたエピソードを「誘う行為」に焦点をあて、手続きを踏みながら仲間関係を広げていく子どもの行動についた考察した　(P17-18)
6、地域の祭りをきっかけとした保育内容―地域文化の継承と創造―	共著	平成26年9月	保育士養成協議会　研究大会	保育園で行った「獅子舞プロジェクト」の保育展開や地域の祭りを取り入れた保育内容に関して分析し、地域の文化を継承していく保育園の役割に関して考察した。
7、子どもの発達を総合的に促す保育活動の研究（1）箱根町ソーラン踊りを通して	共著	平成27年3月	小田原短期大学研究紀要【研究ノート】	箱根町の保育園・こども園で年間を通じて取り組まれている５歳児の箱根ソーラン踊りの保育実践に関して、音楽的な要素と運動的な要素の視点から、踊りの実践と子どもの発達に関して研究を行った。また、地域の文化の創造と継承に関して保育園・こども園の果たす役割について論じた。（宮川萬寿美、宇佐美かおる、東元りか）
8、発達臨床における子どもの自己のありように関する基礎的検討 －親面接による質的研究－	単著	平成27年6月	日本関係学会　第37回大会（東京薬科大学千代田キャンパス）口頭発表　研究誌に掲載	発達に困難をもつ児・者の自己理解に関する従来の研究は、対象者が言語表現のできることが必要であり、言語力に課題を持つ場合は研究対象となりにくい。本研究では親が捉えた子どもの有り様を話してもらう中で、子どもがどのように自己を捉えていたのかを探っていく方法を試み、自己の有り様理解のカテゴリー化を試みた。
その他　(表彰等)		特記事項なし		

専任教員教育研究業績

平成　30年4月9日

氏名	ふりがな	所属学科	職位	性別
吉田　収	よしだ　おさむ	保育学科	学科長 教授・准教授・助教	男・女

担当科目名	学内委員会等（委員長）
造形表現Ⅰ、造形表現Ⅱ、保育実習指導(1，2年)、表現総合演習(造形コース)、卒業研究(ゼミナール)、表現実践～造形遊び～(2年)	教授会、FD運営委員会委員長、SD委員、こども教育課程構成委員会、カリキュラム委員、教員養成カリキュラム委員、自治会顧問

学歴

和暦（西暦）年　月	事項	学位
S60（1985）年3月	武蔵野美術大学　造形学部油絵学科卒業	芸術学士

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
武蔵野美術大学　助手	S62年4月～H4年3月	共通絵画研究室基礎絵画実技指導及び指導補佐
武蔵野美術大学　講師	H4年4月～H16年3月	共通絵画研究室基礎絵画実技指導
和泉福祉専門学校　講師	H7年4月～H10年3月	一般教養美術講義及び美術全般実技指導
和泉短期大学　講師	H9年4月～H11年3月 H26年4月～H28年3月	幼児教育学科、児童福祉学科図画工作講義及び実技指導
横浜国際福祉専門学校講師	H10年4月～H17年3月	児童福祉学科図画工作、造形表現Ⅰ,Ⅱ講義及び実技指導
近畿大学豊岡短期大学講師	H10年4月～H17年3月	通信教育学部こども学科図画工作面接授業
小田原短期大学	H16年4月～	保育学科(～H19.3専任講師～H22.3助教,H22.4～准教授、H30～教授)

所属学会等

名称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）
保育学会	H22年8月～H28 年3　月	H28年3月脱会

社会活動等

名称	活動期間	活動内容
小田原市シルバー大学	H22年6月～H22年7月	伝承玩具制作実技指導
箱根町立宮城野保育園	H22年6月～H23年3月	宮城野保育園内園内研究造形アドバイザー
小田原私立幼稚園協会研究部会	H28年5　月～ H30年1月	小田原私立幼稚園協会研究部会講師、オープン講座講師、研究発表会基調講演講師

担当教科目に関する資格・免許等

名称	取得年月	取得機関
中学校教諭1種免許(美術)	H4年1月	東京都教育委員会
高等学校教諭1種免許(美術)	H4年1月	東京都教育委員会

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発行年	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
（著書） 1. 紙の民族性	共著	H13年7月	武蔵野美術大学短期大学部美術科研究室	日本、韓国、欧州の手漉き紙の産地を取材し、それぞれの民族の紙に表れる民族性を検証する。
2. 保育入門テキスト	共著	H27年3月13日	萌文書林	高校生のための保育者を理解するためのテキスト。担当は2章の造形遊び。絵の具を使っての造形遊びを中心に造形の意義を解説。
3. 生活事例から始める造形表現	共著	H27年4月1日	青踏社	保育を学ぶ人のための造形表現のテキスト。生活事例から造形表現を学んでいく内容で、担当は第一章の基礎編を担当し、造形実践の内容を分かり易く解説。

4. 現場のエピソードに学ぶ保育士受験対策講座 保育実習理論（造形表現）、実技対策DVD	共著	H28年10月1日	日本教育クリエイト	保育士資格受験者のためのテキスト。保育実習理論の中の造形表現の担当。過去問題を網羅しつつ、エピソードを交え分かり易く解説。DVDは2次試験の為の対策内容となっており、模擬作品を作成して、試験亭策に向けての模範内容となっている。
5. 保育の計画と評価～豊富な例で1からわかる	共著	H30年3月26日	萌文書林	園での生活を想像しながら、具体的に保育構想し実践展開できるのがねらいの内容で、指導計画の事例を提示して基本的な視点で学べる内容となっている。
（学術論文） 「保育者養成における表現の教育についての一考察～「五感を使った表現」の授業の試み～」	共著	H23年4月1日	本学研究紀要・H23保育学会ポスター発表	表現総合演習」の中で行った「五感を表現する」から、聴覚、触覚を取り上げ、学生の表現に対する気付きをアンケート調査から抽出し、音楽的な見地と造形的な見地から表現の本質を考察する。(共同執筆者：有村さやか)
（その他） 展覧会発表				
1. 個展	単独	H13年2月	トキ・アートスペース	無垢の木から彫りだした作品12点の展示発表
2. six directions	共催	H13年4月	アート・フォーラム	6名の作家によるグループ展。木を積層によって表現した作品を展示
3. PARKING調-2001	共催	H13年6月	プラザギャラリー	画廊並びに周辺の屋外の4名によるグループ展
4. 個展	単独	H14年1月	トキ・アートスペース	木を積層によって表現した作品の展示
5. 公共彫刻	単独	H14年3月	クロスフォート玉川上水	木を積層によって表現した作品を設置
6テレビ用オブジェ.	共催	H16年4月	日本テレビ	番組「おしゃれイズム」にて舞台セットとしての作品が展示
7. 個展	単独	H16年9月	ギャラリー山口	木を積層によって表現した作品の展示
8. Art Jam'Gift'	共催	H17年2月	ギャラリー山口	無垢の木から彫りだした小品2点の展示
9.テレビ用オブジェ	単独	H17年9月	日本テレビ	特番「衆議院選挙速報」にて舞台セットで作品展示
10.野外彫刻	単独	H19年7月	小田原女子短期大学	元型を木で制作し、ブロンズ鋳造した作品を設置
11. 個展	単独	H21年8月	トキ・アートスペース	木を積層によって表現した作品の展示
12. 丹沢アートフェスティバル	共催	H22年5月	田中現代美術研究所	古民家にて木を積層によって表現した作品の展示
13. 「森展」2011	共催	H23年3月	八ヶ岳倶楽部	八ヶ岳「八ヶ岳倶楽部」にて屋内外における展示
14・「和み」展	共催	H23年9月	Gallery hippo	小品のグループ展
15. 「蔦谷」展	共催	H24年4月	書店「蔦谷 代官山」	書店内での小品の展示
16. 個展	単独	H26年3月	ギャラリーなつか	卓上や棚に小作品12点を展示
17. 個展	単独	H27年3月	トキ・アートスペース	卓上や棚に小、中作品9点を展示
18. 個展	単独	H29年8月	ギャラリーなつか	卓上や棚に小、中作品12点を展示
その他 (表彰等) なし				

専任教員教育研究業績

平成30年5月1日

氏名	ふりがな	所属学科	職位	性別
菊地　篤子	きくちあつこ	保育学科	学科長 (教授)・准教授・助教	男・(女)

担当科目名	学内委員会等（委員長）
「人間関係指導法」「乳児保育Ⅰ」「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「卒業研究（ゼミナール）」「生活実践Ⅱ」	入試募集委員 カリキュラム委員

学歴

和暦（西暦）年　月	事項	学位
平成6年3月	京都女子大学家政学部児童学科卒業	学士（家政学）
平成8年3月	大妻女子大学大学院家政学研究科児童学専攻（修士課程）修了	修士（家政学）

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
静岡県立伊豆中央高等学校非常勤講師	平成8年4月 ～平成10年3月	「家庭科」担当
静岡県立沼津西高等学校非常勤講師	平成8年4月 ～平成10年3月	「家庭科」担当
静岡県三島市健康推進課保健センター委託職員	平成9年4月 ～平成18年3月	乳幼児心理相談員
静岡県田方郡函南町保健センター委託職員	平成10年4月 ～平成12年3月	三歳児健診心理相談員
小田原女子短期大学家政学科非常勤講師	平成10年4月 ～平成15年3月	「家庭保育」担当
静岡県田方郡修善寺町健康増進課保健センター委託職員	平成11年4月 ～平成16年3月	乳幼児心理相談員
小田原女子短期大学保育学科非常勤講師	平成13年4月 ～平成24年3月	「乳児保育Ⅰ」「乳児保育Ⅱ」担当
田方郡中伊豆町健康増進課保健センター委託職員	平成15年4月 ～平成16年3月	三歳児健診心理相談員
静岡県伊東市保健センター委託職員	平成15年4月 ～平成16年3月	二歳児健診心理相談員
静岡県伊豆市健康増進課委託職員	平成16年4月 ～平成24年3月	乳幼児心理相談員
小田原女子短期大学保育学科非常勤講師	平成21年4月 ～平成22年3月	「環境指導法」担当
横浜国際福祉専門学校非常勤講師	平成17年4月 ～平成18年3月	「人間関係」担当
近畿大学豊岡短期大学通信教育部非常勤講師	平成17年4月 ～平成18年3月	「人間関係」担当
静岡県伊豆市教育委員会学校教育課委託職員	平成19年4月 ～平成26年3月	巡回相談員
静岡県伊豆市教育委員会学校教育課	平成22年4月 ～平成24年3月	特別支援教育コーディネーター
小田原女子短期大学（現：小田原短期大学）保育学科准教授	平成24年4月 ～平成30年3月	「人間関係指導法」「乳児保育Ⅰ」「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「卒業研究（ゼミナール）」担当
小田原短期大学保育学科教授	平成30年4月～現在	「人間関係指導法」「乳児保育Ⅰ」「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「卒業研究（ゼミナール）」「生活実践Ⅱ」担当

静岡福祉大学子ども学部子ども学科非常勤講師	平成29年4月～現在	「幼児理解の理論と方法（H29年度）」「人間関係Ⅰ」「人間関係Ⅱ」（H30年度）担当

所　属　学　会　等

名　称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）
日本保育学会	平成8年～現在	正会員
日本家政学会	平成8年～現在	正会員
日本発達心理学会	平成13年～現在	正会員
日本臨床発達心理士会	平成16年～現在	臨床発達心理士正会員

社　会　活　動　等

名　称	活動期間	活　動　内　容
大妻女子大学家政学部附属児童臨床研究センター研究協力員	平成8年4月～現在	研究協力員
静岡県伊豆市教育委員会就学支援委員	平成16年4月～現在	副委員長
静岡県伊豆市教育委員会特別支援教育専門家チーム会議委員	平成21年4月 ～平成24年3月	委員
静岡県伊豆市こども課　要保護児童対策地域連絡協議会委員	平成20年4月 ～平成30年3月	委員
小田原市おだわら男女共同参画プラン策定検討委員会委員	平成26年4月 ～平成28年3月	委員（有識者）
静岡県伊豆市教育委員会教育振興審議会委員	平成29年8月～現在	委員長

担当教科目に関する資格・免許等

名　称	取得年月	取　得　機　関
幼稚園教諭一種免許	平成6年3月	京都府教育委員会
中学校教諭一種（家庭科）	平成6年3月	京都府教育委員会
高等学校教諭一種(家庭科)	平成6年3月	京都府教育委員会
社会教育主事任用資格	平成6年3月	京都女子大学
保母資格（現保育士）	平成6年10月	京都府
幼稚園教諭専修免許	平成8年3月	東京都教育委員会
臨床発達心理士	平成16年　2月	臨床発達心理士認定機構

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 1. 育つ・育てる	共著	平成 15 年 4 月	健帛社	乳幼児の「育つ・育てる」という領域に関する多様な視点を、親子理解と支援・発達理解・子ども理解・反抗期・育ちの現場・現代の課題などとして整理・理論化した学術書である。全215頁　編著者:千羽喜代子・山崖俊子　共著者:池田りな・長山篤子・菊地篤子・帆足暁子・星順子・矢内由　　本人担当部分:「第5章第一反抗期を再考する」(p.95～120)

				乳児保育期に表出し始める第一反抗期について、筆者は「自己主張不的確期」と考え、第一反抗期とは、子どもの社会性やことばの発達段階と照合して、その時期独特の発達段階から表出される自己主張の姿である、という理論を展開した。
2．子どもの心の育ちと人間関係ー人を育てるためのかかわりと援助ー	共著	平成 21 年 9 月	保育出版社	「保育者にしてもらうことを受け入れ喜ぶ（2 歳児）」「まねっこや見立て・つもりを楽しむ」（2 歳児）「ルールが理解できなかったり守れない」（気になる子ども）の項目を執筆担当した。
3. 乳児保育	共著	平成 25 年 4 月	大学図書出版	第 6 章「乳児保育のネットワーク」（p.50～59） 乳児保育のテキストである。筆者は、乳児をとりまく様々な人や機関の役割について執筆した。専門職である保育士の在り方、保育所と各専門機関との連携、そして家庭と保育所の連携について、事例を交えて整理した。
4.保育内容「人間関係」	共著	平成 26 年 3 月	大学図書出版	第 2 章『乳児期における「人間関係」』（p.18～35） 幼稚園教育要領の 5 領域のひとつである「人間関係」のテキストである。筆者は、3 歳未満児の人とのかかわりの育ちの過程と、かかわる大人や子どもの在り方について執筆担当した。
5.三幸保育カレッジテキスト「保育実習理論」	編著	平成 28 年 10 月	青鞜社	保育士受験対策講座の 1 つで、保育士試験で保育士資格合格を目指す人のためのテキストである。第 1 章「保育所保育」、第 2 章「児童福祉施設」、第 5 章「言語表現」の執筆担当と全体の編集を担当した。
6.コンパス「乳児保育」	共著	平成 30 年 2 月	建帛社	「乳児保育Ⅰ」対応テキスト 第 6 章「乳児保育の計画と記録」執筆 指導計画案について例を示しながら著した。
7.アクティブラーニング対応「乳児保育」	共著	平成 30 年 3 月	萌文書林	「乳児保育Ⅱ」対応テキスト 第 1 章2「養護に関わるねらいと内容」執筆:新保育所保育指針の養護の意義を中心に乳児保育における養護について著した。 第4章 1.2 歳児の保育のねらいと内容 4-2「人間関係」執筆:新保育所保育指針に即して 1~3 歳未満児の領域「人間関係」について著した。
8.［新版］乳児保育	共著	平成 30 年 3 月	大学図書出版	第 6 章「乳児保育のネットワーク」（p.51～60）担当 乳児保育のテキスト：乳児をとりまく様々な人や機関の役割について執筆した。専門職である保育士の在り方、保育所と各専門機関との連携、そして家庭と保育所の連携について、事例を交えて整理した。
9.［新版］保育内容「人間関係」	共著	平成 30 年 3 月	大学図書出版	第 2 章『乳児期における「人間関係」』（p.18～33）担当 幼稚園教育要領の 5 領域のひとつである「人間関係」のテキスト：3 歳未満児の人とのかかわりの育ちの過程と、かかわる大人や子どもの在り方について執筆担当した。
(学術論文) 1. 保育を営む者とその支援者	共著	平成 15 年 3 月	小田原女子短期大学研究紀要第 33 号 p.33～40	子どもを取りまく大人の人間関係の表れの一つである子育て支援を、「子育てを営む者」と「支援者」という枠組みで捉え、相互関係や広義の支援、支援の意義等について分析した。支援は、その質・タイミングを計ることで営む者にとって本当の意味での支援となること、一方、支援を受ける者も、自らの許容範囲を把握する大切さを示した。特に乳児保育期は、支援の質を保つことに留意することが重視された。広義の支援機関とは、子どもが生活し、その家族が子どもとも

				に利用する場所全般を指し、また支援者とは、支援機関に従事する者全てを指す、と分析し、子育ては社会の様々な人や機関に支えられていることを考察した。 共著者：菊地篤子・井戸ゆかり 本人担当部分：子育て支援の体制の整理と分類、支援の在り方に関する考察を担当し、論文として全てを著した。
2. 広汎性発達障害をもつ子とその母親への援助	共著	平成 16 年 3 月	小田原女子短期大学研究紀要，第 34 号 p.50～56	発達の遅れを指摘された幼児に対する行政の健診事後教室・園生活等での周囲の大人の人間関係を心理相談員の立場で実践研究した報告である。2 年 8 カ月間の教室参加と発達検査、個別相談や事例検討会議を通して、対象児の特性を捉え、支援方法を模索した。そして、乳児保育期から 4 歳までの対象児の育児・保育方法を母親・保育士に伝え、幼児支援の方策を記した。また、実際にこの事例に携わった保健師などの専門職と母親・保育士の連携体制、さらに、園の保育士と家庭の保護者の意志疎通のための留意点などの課題を示した。 共著者：菊地篤子・井戸ゆかり 本人担当部分：実践すべてを担当し、論文として整理、分析を行い、全てを著した。
3. ふたりきょうだい育児をする母親がとらえる「下の子らしさ」	単著	平成 18 年 3 月	小田原女子短期大学研究紀要，第 36 号 p.55～62	日本の家族構成では、子どものきょうだい数の実態として、ふたりきょうだいが割合的に多いことを紹介し、ふたりきょうだい育児を経験した母親の第二子に対する育児姿勢と第二子への思いをインタビューして、母親が感じる「下の子らしさ」を探った。事前調査と事例研究から、家庭内における子どもの同士の人間関係を整理し、きょうだい育児における生活背景の違い、第一子が比較対象となること、また母親の精神的ゆとりから、子の性質の捉え方に違いが生じることを考察した。中でも、母親に第一子を育てた経験から形成された「子ども理解」や「育児への認識」が、第一子との相違点を「下の子らしさ」と捉えることが考察された。
4.「乳児保育」に対する学生の意識調査－魅力と困難さに関する一考察－	単著	平成 26 年 3 月	小田原女子短期大学研究紀要，第 44 号 p.24～34	筆者が担当する「乳児保育Ⅰ」「乳児保育Ⅱ」の授業において、学生が感じる乳児保育の魅力と困難さについて、履修前と履修後にアンケートを実施し、意識調査した。
5.「地域子育てひろばを活用した乳幼児家庭全戸支援（1）―小田原モデルの研究と試行―」	共著	平成 27 年 3 月	小田原短期大学研究紀要第 45 号 p.50~63	子育てひろばへの導入として開催する乳児向けの「赤ちゃんひろば」の小田原市における試行と本学独自プログラムについての共同論文の中で、赤ちゃんとの生活の工夫と理論、赤ちゃんひろばでの親子活動プログラムについて担当した。
6.「男女共同参画企画としての子育て講座で扱う内容の検討～12 年間の変遷～」	単著	平成 28 年 3 月	児童学研究（日本家政学会児童学部会）第 40 号 p.21~28	筆者が担当する男女共同参画企画の園出前子育て講座について、1 度の受講でも参加者の有意義な学習機会となり得る内容を検討するために、これまでの講座内容を話題別、時期区分別に整理、分析した。また、主催者、開催園、参加者のニーズや傾向を探り今後の話題の核となる内容を探究した。

（その他） 「報告書」 1.子育て支援センターにおけるボランティア活動を通じた次世代育成	共著	平成 24 年 3 月	平成 24 年度かながわ子ども・子育て支援推進調査研究事業費補助金報告	少子化や、若者が乳幼児と知り合う機会の希薄さなどの課題解決の一助として、子育て支援センターにおける、中高生や大学生のボランティア活動参加支援を行った報告である。 全 58 頁 研究代表者：吉田眞理　　共同研究者：石井栄子・菊地篤子・宮川萬寿美・市野繁子・小田原市子育て政策課・マロニエ子育て支援センター 本人担当部分：４研修テキストの全体構成案と内容案⑵赤ちゃん(乳児)の育ちとあそび、５研修実施報告(1)②研修の様子⑵②研修の様子 p.17～20、p.45,46,50 乳児保育期の 0 歳～2 歳までの姿を、全体的発達面・運動面・親子の人間関係を始めとする社会性の発達面などを中心に年齢ごとに整理し、具体的な生活場面や遊びを著した。
2.静岡県三島市男女共同参画幼稚園保育園出前講座アンケート調査報告書	共著	平成 16 年 1 月 ～毎年度 1～2 回	静岡県三島市政策企画課	静岡県三島市内の幼稚園や保育園で毎年実施し、筆者が講師を担当している男女共同参画出前講座「みんなで子育て」で実施しているアンケート調査の報告書である。家庭内人間関係構築のための「男女共同参画」ということばの認知度、性別役割分担に対する意識調査、各家庭内での役割分業についての実態調査、講座内容への意見等を毎回調査集計し、報告している。
3.静岡県伊豆市男女共同参画出前講座アンケート調査報告書	共著	平成 23 年 5 月～毎年度 1 回	静岡県伊豆市総務部地域づくり課	静岡県伊豆市内の幼稚園や保育園で毎年実施し、筆者が講師を担当している男女共同参画出前講座「みんなで子育て」で実施しているアンケート調査の報告書である。家庭内人間関係構築のための「男女共同参画」ということばの認知度、性別役割分担に対する意識調査、各家庭内での役割分業についての実態調査、講座内容への意見等を毎回調査集計し、報告している。
「テキスト執筆」 1.みんなで支える・わたしが輝く「子育て支援ひろば」	共著	平成 24 年 3 月	小田原女子短期大学保育学科編	中高生や大学生が子どもにかかわるボランティア活動に参加するときに必要な基礎知識を紹介した。誕生前から 4 歳過ぎまでの育ちの概要、親子への関わり方、小田原市の子育て支援ネットワークの紹介などを記した。全 76 頁 共同執筆者：宮川萬寿美・菊地篤子・吉田眞理他 本人担当部分：第 2 章　「はじめまして！赤ちゃん」 p.15～24 乳児保育期の 0 歳～2 歳までの乳幼児の姿を、全体的発達面・運動面・親子の人間関係等の社会性の発達面などを中心に、生活場面や遊びを年齢ごとに整理、紹介した。

「学会発表」 1.幼児期におけるふたりきょうだいの第二子の生活実態に関する事例的研究	単独	平成 17 年 5 月	日本保育学会第 58 回大会（大妻女子大学）要旨集 p.972~973	家庭内での子ども同士や親子の人間関係を整理し、第二子の生活実態をふたりきょうだい育児を経験した母親にインタビューして、第二子の特性を探り、母親からみた「下の子らしさ」を探った。「下の子らしさ」は要領の良さなどの依存的な面と、手がかからず自立した面を併せ持っていることが解った。第二子の生活力は、親を独占する機会がなく、生まれながらの競争社会で培われ、また親自身も「育児経験者」で要領をつかんでいることが多い。「下の子の生活力」は家族関係の中で「下の子らしさ」と「親の育児姿勢」の相乗効果の中で形成されたものである、と考察された。
2.学生が意欲的に取り組んだ領域「人間関係」の演習テーマ	単独	平成 21 年 5 月	日本保育学会第 62 回大会（千葉大学）要旨集 p.299	短期大学生が意欲的に取り組み、知識や保育技術を習得しやすい演習テーマや授業構成を調査・検討した。保育者を志す学生に、演習終了時に意欲的に取り組んだ演習とそうでない演習をアンケート調査・分析した結果、特別支援教育やジェンダーフリーの観点に関する演習が印象深い傾向が強かった。一方、理論や知識の習得が主となる演習は印象に残りにくく、授業の組み立て方を再検討することが課題とされた。また、体験的な演習や活動の上に、理論を展開・定着できる演習テーマを模索することが提起された。
3.子育て講座のテーマ～男女共同参画の視点より～	単独	平成 26 年 5 月	日本保育学会第 67 回大会（大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学）要旨集 p.851	静岡県下の行政主催の男女共同参画企画子育て講座を 11 年間担当してきた中で、講座内容の変遷と取り上げるべきテーマの省察、今後への展望を発表した。
4.子育て講座のテーマ第 2 報～男女共同参画講座参加者の意識調査～	単独	平成 27 年 5 月	日本保育学会第 68 回大会（椙山女学園大学）	第 67 回大会の続報。講座参加者の事後アンケートを分析し、講座テーマを検討した。その中で、男女共同参画という語句が浸透していない中でも、講座の内容は共感できた意見が多く、啓発の意義が明らかになった。
5.「健康」「人間関係」授業での指導計画案作成の基礎づくり	共同	平成 28 年 5 月	日本保育学会第 69 回大会（東京学芸大学）	短大保育者養成校の 1 年次前期の段階での 2 つの科目内で行う「指導計画」作成の初期段階の演習・指導内容を検討した。
6.保育内容演習授業での指導計画案作成の基礎づくりⅠ―「健康指導法」を通して―	共同	平成 29 年 3 月	日本保育者養成教育学会第 1 回研究大会（白百合女子大学）	保育内容 5 領域の「健康」科目の中で、指導計画案作成の初期段階の学習として「プログラム型学習」を手段とした方法を実践、内容を検討した。
7.保育内容演習授業での指導計画案作成の基礎づくりⅡ―「人間関係指導法」を通して―	共同	平成 29 年 3 月	日本保育者養成教育学会第 1 回研究大会（白百合女子大学）	保育内容 5 領域の「人間関係」科目の中で、指導計画案作成の初期段階の学習として「遊びの記録型学習」を手段とした方法を実践、内容を検討した。

8.保育者養成課程におけるエピソード記録指導について(第1報) ～体験実習時のエピソード記録の特徴～	共同	平成29年5月	日本保育学会第70回大会発表(川崎医療福祉大学)	保育者養成校での1年次の保育実習指導の際のエピソード記録の学習方法を実践報告した。エピソード抽出の観点や着目点、気付きの視点についての効果的な指導の在り方を検討した。
9.保育者養成課程におけるエピソード記録指導について(第2報)	共同	平成30年3月	日本保育者養成教育学会第2回研究大会（共立女子大学)	保育者養成での保育実習Ⅰと保育実習Ⅱの事前事後指導において、実習日誌を学生が自己分析したシートを使ったエピソード記録の指導内容を検討した。
「小冊子」 1.静岡県伊豆市特別支援教育支援員研修小冊子	単独	平成23年8月	静岡県伊豆市教育委員会学校教育課	筆者が立案主催した、市内の幼稚園保育園こども園小中学校の各種支援員の研修に用いられた小冊子。支援員の役割・事例検討・記録の取り方・対象児と支援員の人間関係や、支援員と教員や保育者との人間関係などの内容で作成された。
2.赤ちゃんを育て始めたあなたへ　子育て応援ブック	共著	平成27年6月	小田原短期大学	「赤ちゃんと快適に暮らす」p.26~27 赤ちゃんと快適に暮らすための工夫やコツを紹介した。
「リーフレット」 1.静岡県三島市幼稚園男女共同参画出前講座	共著	平成14年から毎年 1~2回	静岡県三島市総務部(現:政策企画課)	年1～2回の頻度で、静岡県三島市内の幼稚園または保育園に出向き、男女共同参画出前講座を実施する際のリーフレットである。「みんなで子育て」というタイトルの、保育参観に合わせた保護者対象の講座で、世論や子育て事情の変化に合わせ、サブタイトルを改訂している。
2.静岡県伊豆市男女共同参画出前講座	単独	平成20年1月から毎年1回	静岡県伊豆市総務部(地域づくり課)	年1回静岡県伊豆市内の幼稚園または保育園に出向き、男女共同参画出前講座を実施する際のリーフレットである。「みんなで子育て」というタイトルで、保育参観に合わせた保護者対象の講座である。世論や子育て事情の変化に合わせ、サブタイトルを改訂している。
3.小田原女子短期大学リカレント講座	共著	平成24年8月	小田原女子短期大学保育学科	「身体を手がかりにした発達支援Ⅱ『乳幼児の模倣行為』～まねっこ上手は育ち上手～」という講座のリーフレットである。乳児保育期からの発達過程・目と身体の協応の必要性、人間関係の中から自然発生する模倣活動、子どもの望ましい模倣活動についてなどを整理した。
4.静岡県教職員組合田方支部教員研修男女共同参画推進学習会	単独	平成24年11月	静岡県教職員組合田方支部	小中学校教員を対象とした「子どもの生活を創る礎」という講座のリーフレットである。①家庭での男女共同参画意識②親の役割③育ちの矛先など、教育現場と家庭で各人が各方向に対する人間関係を意識し、生活に参加する意欲を育成する方法について、演習資料を含めて作成された。

5.神奈川県小田原市情報紙おだわらの風	共著	平成 25 年 2 月	神奈川県小田原市市民部人権・男女共同参画課	男女共同参画社会の実現を目指した情報紙。「イクメン」とは何かをテーマに、ことばの整理や一般市民へのインタビューをした。筆者は家庭での性別役割分担の歴史的背景と昨今の社会での捉えられ方、今後への展望等の意見を記した。特に、子育ての、家庭内での家族全体の人間関係の在り方を再考し、子どもに対し、適切でバランス良いかかわり方が求められるとした。
その他　(表彰等)		年　月	特になし	

専任教員教育研究業績

平成３０年　5月２５日

氏名	ふりがな	所属学科	職位	性別
有村　さやか	ありむら　さやか	保育学科	学科長 教授・(准教授)・助教	男・(女)

担当科目名	学内委員会等（委員長）
音楽表現Ⅱ，音楽表現Ⅲ，総合文化，おだたん人間成長講座	

学歴

和暦（西暦）年　月	事項	学位
H13（2001）年3月	東京学芸大学教育学部中学校教員養成課程音楽専攻卒業	学士（教育）
H16（2004）年3月	東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程音楽教育専攻修了	修士（教育学）
H11（1999）年8月	ハンガリー国立リスト音楽院夏期セミナーピアノ演奏コース修了	

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
貞静学園保育福祉専門学校 保育学科	H16年4月～H18年3月	専任教諭として勤務。「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」「総合演習」
小田原短期大学 保育学科	H18年4月～現在	H18～H22 助教,H23 より准教授として勤務。「音楽表現Ⅰ」「音楽表現Ⅱ」「総合文化」「おだたん人間成長講座」を担当。（「表現総合演習」「教育実務演習」「保育所実習Ⅰ」「保育所実習Ⅱ」「教育実習」「音楽表現Ⅰ」「 卒業研究（ゼミナール）」）

所属学会等

名称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）
九州・沖縄作曲家協会	H18年3月～ 現在	会員,（H25年度九州外地区理事）
日本音楽教育学会	H18年5月～ 現在	会員
日本保育学会	H18年5月～ 現在	会員
幼児音楽研究会	H18年5月～ 現在	会員
日本オルフ音楽教育研究会	H18年5月～ 現在	会員,運営委員

社会活動等

名称	活動期間	活動内容
茅ヶ崎子ども園音楽表現及び親子音楽あそび講師	H19年6月～H22年3月	音楽表現及び親子音楽あそび講師（神奈川県子育て支援事業）
子育て支援講座講師	H20年8月	神奈川県大井町子育て支援センター主催講座講師
さくらチャイルドセンター音楽表現講師	H21年5月～ 現在	音楽表現及び親子音楽あそび講師（神奈川県子育て支援事業）
松林保育園親子音楽あそび講師	H21年3月～ 現在	わくわくランド親子音楽あそび講師（神奈川県子育て支援事業）
小田原私立幼稚園協会主催教職員技術研修会講師	H24年8月	小田原私立幼稚園協会主催講座教職員技術研修会講師として「音を楽しもう！～歌・リズム・音楽表現を通して」を講演（於：南足柄文化会館小ホール）
箱根町幼児教育研究会技術研修講師	H25年6月	箱根町幼児教育研究会技術研修講師として「幼児の音楽表現と楽器あそび」を講演
神奈川県カトリック保育連盟研修会講師	H26年7月	神奈川県カトリック保育連盟研修会講師として「幼児の音楽表現（楽器あそび）」を講演
神奈川県私立幼稚園新規採用教員研修会講師	H27年8月	神奈川県私立幼稚園連合会講師として神奈川県内の私立幼稚園の新任教諭(参加者50名)に「幼児の音楽表現(楽器遊び)」のテーマで実技研修を実施(於:小田原短期大学リトミック室)
日本オルフ音楽教育研究会音楽教育夏期セミナー講師	H27年8月	第28回カール・オルフの音楽教育夏期セミナー～身体で感じるリズム・身体で表すリズム～（於：東京家政大学）において、分科会ワークショップ「おと　かたち　いろ」を講演

夏の保育講座	H27 年 8 月	保育者志望の高校生及び保育に興味のある一般の方々に対象に、「音で遊べば 心もはずむ」を講演。(於:小田原短期大学)
白峰学園保育センター特別セミナー(うたって遊ぼう)講師	H27 年 8 月	神奈川県内の現任保育士、児童福祉員、介護福祉士等を対象とした特別セミナー「子どもとつながる歌あそびリズム遊び」を講演(於:白峰学園保育センター)

担 当 教 科 目 に 関 す る 資 格・免 許 等

名 称	取得年月	取 得 機 関
中学校教諭専修免許 (音楽)	H16 年 3 月	東京都教育委員会
高等学校教諭専修免許状 (音楽)	H16 年 3 月	東京都教育委員会

研 究 実 績 に 関 す る 事 項

代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1.最新保育講座保育内容「表現」	共著	H22 年 3 月	ミネルヴァ書房	第 11 章 第 2 節身体性と子どもの表現 第 3 節保育者養成と子どもの表現 執筆
2.「保育入門テキスト」	共著	H27 年 3 月	萌文書林	Chapter4「音楽あそび」執筆
3.「小田原短期大学保育学科通信教育課程テキスト科目・音楽表現Ⅱ (学習の手引き) 2015 年度版」	共著	H27 年 4 月 (H25 年 4 月初版)	小田原短期大学保育学科通信教育課程	通信教育課程テキスト科目音楽表現Ⅱの学習の手引きとして執筆。コード理論、オルフの音楽教育、創造的音楽学習について執筆
4.「オルフ・シュールヴェルクの研究と実践」	共著	H27 年 8 月	朝日出版	日本オルフ音楽教育研究会がオルフの音と動きの教育に関する研究誌として制作。幼児教育から教員養成、障がい児者・社会教育を対象としている。 第 3 部 14-4 資料編日本におけるカール・オルフ関係の資料リスト (楽譜及び音源) (pp.156-167) 執筆
5.「幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術―感性と実践力豊かな保育者へ―」	共著	H29 年 3 月	萌文書林	幼稚園教諭・保育士養成課程用の音楽表現の教科書として執筆、編者を担当。 Part1 Capter3-5,Chapter4 Part2 Chapter1-4・5・7,Chapter3 執筆
(学術論文) 1.「Distance－ヴァイオリン・コントラバス・ピアノのための」	単著	H16 年 3 月	東京学芸大学	修士主論文として修了演奏会にて新作初演。(於 : 東京学芸大学芸術館ホール 演奏 : ピナコテーク・トリオ)
2.「現代における音楽の多様化と音楽教育の研究」	単著	H16 年 3 月	東京学芸大学	修士副論文として現代の音環境と現代音楽の教材化について研究した。
3.「実習現場における音楽表現活動の現状についての一考察」	共著	H18 年 3 月	小田原女子短期大学	共同研究 (共同研究者 : 今泉明美・有村さやか) 小田原女子短期大学研究紀要第 37 号 (pp.117~131) にて論文発表。
4.「乳幼児期における適切な音環境や音楽についての一考察」	共著	H19 年 3 月	小田原女子短期大学	共同研究 (共同研究者 : 今泉明美・有村さやか) 小田原女子短期大学研究紀要第 38 号 (pp.75~86) にて論文発表。

5.「保育者養成における音楽技能の教育についての一考察」	共著	H21 年 3 月	小田原女子短期大学	共同研究（共同研究者：有村さやか・今泉明美） 小田原女子短期大学研究紀要第 39 号（pp.75~86）にて論文発表。
6.「保育者養成における音楽技能の教育についての一考察Ⅱ」	共著	H22 年 3 月	小田原女子短期大学	共同研究（共同研究者：今泉明美・有村さやか） 小田原女子短期大学研究紀要第 40 号にて論文発表。
7.「子育て支援における音楽表現遊びの実践についての一考察～地域子育て支援の現状と課題の分析～」	共著	H24 年 3 月	小田原女子短期大学	共同研究（共同研究者：今泉明美、有村さやか、小川晃、小澤祐子） 「小田原女子短期大学研究紀要」第 42 号（p.8～p.20）にて論文発表。
8.「保育者養成における音楽表現の教育についての一考察～音楽的な表現活動の実践における課題～」	共著	H25 年 3 月	小田原女子短期大学	共同研究（共同研究者：有村さやか・今泉明美） 小田原女子短期大学研究紀要」第 43 号 p.30～p.41 にて論文発表。
（その他） 1.「実習現場における音楽表現活動についての一考察」	口頭発表	H18 年 5 月	日本保育学会	共同研究（共同研究者：有村さやか・今泉明美） 日本保育学会第 60 回大会（於：十文字学園女子大学）にて口頭発表。要旨集 pp.192-193 掲載。
2.「保育者養成における実践力を高める音楽技能の教育への取り組み」	ポスター発表	H21 年 5 月	日本保育学会	共同研究（共同研究者：今泉明美・有村さやか）日本保育学会第 62 回大会（於：千葉大学）にてポスター発表。要旨集 p.356 に掲載。
3.「保育者養成における実践力を高める音楽技能の教育への取り組みⅡ」	ポスター発表	H22 年 5 月	日本保育学会	共同研究（共同研究者：有村さやか・今泉明美） 日本保育学会第 63 回大会（於：松山東雲大学）にてポスター発表。要旨集 p.584 掲載。
4.「保育者養成における表現の教育についての一考察」	ポスター発表	H23 年 5 月	日本保育学会	共同研究（共同研究者：有村さやか・吉田収） 日本保育学会第 64 回大会（於：玉川大学）にてポスター発表。要旨集 p.298 掲載。
5.「保育者養成における実践力を高める音楽技能の教育への取り組みⅢ」	ポスター発表	H23 年 5 月	日本保育学会	共同研究（共同研究者：今泉明美・有村さやか） 日本保育学会第 64 回大会（於：玉川大学）にてポスター発表。要旨集 p.846 掲載。
6.「子育て支援活動の音楽表現遊びから読み取れる望まれる保育者像」	ポスター発表	H25 年 5 月	日本保育学会	共同研究（共同研究者：今泉明美、有村さやか、小川晃、小澤祐子） 日本保育学会第 65 回大会（於：中村学園大学）にてポスター発表。要旨集 p.503 掲載。
7.「実習現場での音楽表現活動について～保育者養成校に求められる音楽授業～」	ポスター発表	H30 年 5 月	日本保育学会	共同研究（共同研究者：望月たけ美、今泉明美、有村さやか、山本華子） 日本保育学会第 71 回大会（於：宮城学院女子大学）にてポスター発表。要旨集 p.568 掲載。
（作品発表） 1.「Scenes for two Pianos」	作品発表単独	H13 年 11 月	南日本新聞社	新作初演。第５０回南日本音楽コンクール作曲部門優秀賞（2 位）受賞。
2.「Nostalgia for Recorder solo」	作品発表単独	H14 年 11 月	南日本新聞社	新作初演。第５１回南日本音楽コンクール作曲部門優秀賞（1 位）受賞。

3.「Window－アルトリコーダー・ピアノのための―」	作品発表単独	H15 年 11 月	南日本新聞社	新作初演。第５２回南日本音楽コンクール作曲部門入選（3 位）。
4.「Distance－ヴァイオリン・チェロ・ピアノのための―」	作品発表単独	H17 年 9 月	東アジア作曲家協会	東アジア現代音楽祭“Young Composer's Concert”（於:大邱芸術文化会館（韓国））にて新作初演。
5.「Infiltration for Violin solo」	作品発表単独	H18 年 3 月	九州・沖縄作曲家協会	「スプリングコンサート」にて新作初演。現代芸術社「音楽現代 2007 年 6 月号」にて作品批評掲載。
6.「Expression for Flute solo」	作品発表単独	H19 年 3 月	九州・沖縄作曲家協会	「スプリングコンサート―現代九州・音の創造空間－（於:福岡市あいれふホール）にて新作初演。
7.「風樹―コントラバスのための」	作品発表単独	H20 年 10 月	九州・沖縄作曲家協会	九州・沖縄現代音楽祭（於:琉球大学５０周年記念会館）にて新作初演。
8.「Expression for Flute solo」	作品発表単独	H21 年 10 月	東アジア作曲家協会	東アジア現代音楽祭「室内楽の夕べ」（於:啓明大学（韓国））にて改訂初演。
9.「Expression for Flute solo」	作品発表単独	H22 年 10 月	東アジア作曲家協会	東アジア現代音楽祭（於:啓明大学（韓国））にて再演。
10.「The shadow of air – for Guiter and Contrabass」	作品発表単独	H23 年 11 月	嶺南作曲家協会	第 14 回嶺南国際現代音楽祭招待作品（於：Daedu Suseong Artpia Muhak Hall 韓国テグ　演奏:Junge Musik Berlin）新作初演
11.「Expression for Flute solo」	作品発表単独	H28 年 9 月	九州・沖縄作曲家協会	第 36 回九州・沖縄現代音楽祭～鹿児島で音楽を学ぶ学生たちとともに～（於：鹿児島国際大学）にて改訂初演、学生演奏指導。現代芸術社『音楽現代 2016 年 11 月号』（芸術現代社）に音楽祭記事掲載。

その他　(表彰等)	H13 年 11 月	第 50 回南日本音楽コンクール作曲部門優秀賞（2 位）受賞。
	H14 年 11 月	第 51 回南日本音楽コンクール作曲部門優秀賞（1 位）受賞。

専任教員教育研究業績

平成３０年　6月　8日

氏名	ふりがな	所属学科	職位	性別
野津　直樹	のづ　なおき	保育学科	学科長 教授・[准教授]・講師・助教	[男]・女

担当科目名	学内委員会等（委員長）
保育者論、環境指導法、保育・教職実践演習(幼稚園)、保育相談支援、教育実習、教育実習指導、ゼミナール、サービスラーニング（通信課程…保育者論、環境指導法、職業と社会Ⅰ）	FD 委員会、EM 委員会、スタートアッププログラム PJ

学歴

和暦（西暦）年　月	事項	学位
H9（1997）年3月	関東学院大学法学部法律学科卒業	学士（法学）
H12（2000）年3月	玉川大学大学院文学研究科教育学専攻修了	修士（文学）

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
学校法人なかい学園	H9 年 4 月～H20 年 3 月	ぬるみず・毛利台・森の里幼稚園総務、平成１４年より教務主事
学校法人小田原女子短期大学	H20 年 4 月～H26 年 3 月	保育学科　助教
学校法人三幸学園 小田原短期大学	H26 年 4 月～H28 年 3 月	保育学科　講師
学校法人三幸学園 小田原短期大学	H28 年 4 月～現在	保育学科　准教授

所属学会等

名称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）
財)幼少年教育研究所	H15 年 4 月～現在	所員
日本児童学会	H18 年 4 月～現在	会員
こども環境学会	H25 年 4 月～現在	会員

社会活動等

名称	活動期間	活動内容
社)神奈川県私立幼稚園連合会	H12 年 4 月～H20 年 3 月	研究部部員として活動。
厚木市教育研究所	H18 年 4 月～H20 年 3 月	嘱託委員として活動。「家庭教育に関する調査研究」
子育て支援フェスティバル 実行委員長	H22 年 4 月～現在	小田原市内で子育てを応援している団体で実行委員会を組織している。その委員会で委員長として活動。
森の里公民館	H22 年 4 月～現在	地元の公民館の運営委員として活動。
小田原私立幼稚園協会研究会 講師・助言者	H26 年 5 月～H28 年 3 月	小田原私立幼稚園協会より講師依頼。テーマは「環境を再考する～いつもの保育から環境を切り取る～」2 年継続。
小田原市立幼稚園教育研究会 講師・助言者	H27 年 4 月～H28 年 3 月	小田原公立の幼稚園より講師依頼。公開保育研究会の講師・指導助言者として活動。1 年間を通して下中幼稚園の保育指導も兼ねている。
御殿場市幼児の教育・保育施設整備基本構想策定委員	H27 年 7 月～H28 年 3 月	御殿場市子ども育成課から委員依頼。施設整備の基本構想策定に関わる。
学校法人なかい学園 学園長補佐	H29 年 4 月～現在	同学園ぬるみず・毛利台・森の里幼稚園の学園長補佐。
社会福祉法人国府津保育園会 評議員	H29 年 4 月～現在	評議員

担当教科目に関する資格・免許等

名称	取得年月	取得機関
中学校教諭専修免許(社会)	H12 年 3 月	東京都教育委員会
高等学校教諭専修免許(公民)	H12 年 3 月	東京都教育委員会

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
（著書） 1. 保育内容「環境」	共著	H22 年 3 月	大学図書出版	幼稚園教育要領・保育所保育指針の内容・環境の狙いと内容を反映した章立てとなっている。全 206 頁。 監修：無藤隆

				編著者：無藤隆、中坪史典、後藤範子 共著者：吉葉研司、松嵜洋子、金子仁人、野津直樹、福田きよみ、齊藤恵美子、佐藤英文、丹野禧子、佐藤康富、伊藤匡、降旗信一 担当部分：「第６章 自然環境とのかかわり」(pp.65-79, pp.180-182)を単著。 本書を手に取る学生たちこそ、子どもと自然がかかわりあう時間を一緒に過ごすパートナーであり、その自然との出会いをより味わい深いものとする。下記の節は、子どもと出会うあらゆるモノである。それらと子どもが出会う時に、学生が(保育者となった時に)何に注視してその出会いをより味わい深いものとするかについて述べていった。 １自然とかかわる(天体・気象・地表など) ２季節とかかわる(食材など) ３動植物、小動物とかかわる(植物・虫・小動物など) ４生き物を飼育する(命の尊さを知る)
2. 保育実習－幼保一元化に向けてー	共著	H24 年３月	青踏社	実習準備のために書かれたテキストであり、多くの養成施設で学生と教員が行き当たる実習の最初のハードルを越える手助けをすることを目的として作成された。全 136 頁 編著：吉田眞理 共著者：吉原美弥子、木内英実、野津直樹 担当部分：「第５章 実習の保育日誌」「第６章 実習の指導計画案」(pp.119-136)を単著。 第５章では、学生が実習に取り組む上で、技術的にも時間的にも困難とされている保育日誌を書く作業の本当の意味を説くことを第一義においた。それは、将来の自分へのたからものとなるということである。日誌を書くことがすなわち葛藤の記録となりえる。そして自身、他者限らず、その記録を振り返ること(省察すること)で自身の成長へとつながっていくであろう。 第６章では、指導計画案のトライアングルと「どてま」の法則を知った上で指導計画案を作成することをすすめていった。前者においては、子どもの実態をまず捉えた上で、ねらいを構築し、そのねらいに基づいて活動内容が決定されるという流れを意識した上で作成するよう説明している。後者は単純に、学生が指導計画案を作成する上で忘れがちな、導入・展開・まとめの流れを意識からなくさないために私が考案した言葉遊びである。
3. 高校生のための「保育」入門テキスト	共著	H24 年３月	小田原女子短期大学	県立小田原定時制高校実践教育「保育講座」「保育インセンティブ講座」において各担当者がおこなってきた講義内容を一冊にまとめたものである。全 44 頁。 編：小田原女子短期大学 共著者：吉田眞理、吉田収、荒木美那子、有村さやか、木内英実、金澤久美子、野津直樹、村田紋子 担当部分：「Chapter7 子どもと生活」(pp.28-31)を単著。 子どもたちは毎日どんな生活をしているのか、ある幼稚園の実態を通して、長くは一年間、短くは一日のスパンで紹介している。さらに、子どもの気持ちをより深く理解するための手立てを、年長児(５歳児)のリレーを見ていた年少児(３歳児)の事例も紹介している。この事例は実際に私が幼稚園で撮影した映像に基づいたものである。また様々な作品を制作していく過程で子どもたちがどんな思いで描き、作り、表現しているのか、それを探ることも大切であるということを説明した。
4. 教育・保育実習に役立つガイドブック	共著	H24 年９月	大学図書出版	幼稚園や保育所の保育者と養成校実習担当の教員が共に頭を悩まされている学生の実習の実情を取りまとめ、両者が歩み寄る教育・実習保育実習の在り方を提言するものとなっている。全 85 頁。 編：子どもから学ぶ実践研究会 代表：渡邉真一 編集委員：黒田眞喜子、吉濱優子、桃枝智子、山室吉孝 共著者：溝脇しのぶ、照沼晃子、榊原剛、山﨑和子、山下佳香、堀内千津子、野津直樹、園田巖、朴淳香

				担当部分：「step4 健康と育ち」(pp.56-64)を単著。 ７つの事例を通して、学生が実習生として陥りやすい健康や学生の育ちに関する問題を紹介した。それぞれの事例について「養成校からのアドバイス」と「受入れ園からのアドバイス」として両者の思いを、両者の思いを知り得る立場の者として執筆した。また、事例ごとにワークを設けて、その事例をより深く考えるきっかけづくりもおこなった。取り扱った事例は以下の通りである。 １自分の体が心配 ２実習時の健康チェック ３実習直前にひざを痛めてしまった ４実習終了後に腰痛になってしまった ５体を動かすことが苦手な実習生 ６実習クラスを替えてほしい ７大人としての社会性が不足している
5. 幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック	共著	H26 年 4 月	大学図書出版	実習に挑む学生にとっての身近な「助っ人」として活用できるよう、それにふさわしい理論・実践の専門家によって書かれたテキストとなっている。全 151 頁。 監修：福本俊 編著者：福山多江子、田中浩二、大塚良一 共著者：駒井美智子、田中浩之、堀内千津子、綾牧子、加藤智、志濃原亜美、福田智雄、望月文代、野津直樹 担当部分：「第 4 章 指導案の作成」(pp.137-144)を単著。 幼稚園における指導案の書き方について紹介した。幼稚園において、どう子どもの実態を捉え、どう部分実習指導案・全日(一日・責任)実習指導案を書いていったのかを伝えた。 １子どもの実態を捉える ２部分実習の指導案の書き方 ３全日実習の指導案の書き方
6. 保育・教職実践演習－保育理論と保育実践の手引き－	共著	H26 年 5 月	大学図書出版	保育・教職実践演習という科目だからこそ、保育現場で活躍した大学教員を集め、より保育現場の臨場感が伝わるようにという願いを込めて作成されたテキストである。全 135 頁。 編著者：横山文樹、駒井美智子 共著者：堤大輔、溝口武史、山本恵子、河合光利、守巧、仁藤喜久子、野津直樹 担当部分：「第 7 章 総合的な実践を目指して」(pp.87-102)を単著。 本学において保育・教職実践演習で実践してきた「模擬保育」について、その準備、実践、省察（意見交換会）の段階に沿ってわかりやすく執筆した。さらに、自身が幼稚園で経験してきた「幼稚園で誕生会の計画を立案する過程」を保育現場の臨場感が伝わるようにと願いを込めて執筆した。 １模擬保育の準備、実践 ２模擬保育終了～意見交換会～ ３理論と実践との結びつき～誕生会の計画を立てる～
7. 保育入門テキスト	共著	H27 年 3 月	萌文書林	同事項 3 を再編し発行したテキストである。 編：小田原短期大学 保育学科 監修：吉田眞理 共著者：内山絵美子、吉田収、上野奈初美、有村さやか、馬見塚昭久、金澤久美子、野津直樹、市野繁子 担当部分：「Chapter7 子どもと生活」(pp.30-33)を単著。 内容は同事項の 3 を参照。
8. 生活事例からはじめる造形表現	共著	H27 年 4 月	青踏社	造形の基礎である素材の取り扱い方、表現技法から、それを保育現場で活かせるような造形活動、そして幼稚園での造形展という行事(実践事例)からより具体的な保育実践を学べる内容となっている。 編著者：宮川萬寿美、吉田収 共著者：野津直樹 担当部分：「Ⅲ 実践編　造形展へ向けての活動」(pp.116-134)を単著。

				保育現場における造形展(作品展)が実際にどのように行われているのかを 38 枚の写真を入れながらわかりやすく執筆した。さらに、ある幼稚園の実践事例を用いて造形展の計画立案から準備、当日、片づけ、振り返りまでを時系列に沿って執筆した。 １造形展の実際 ２保育実践との結びつき（造形展の計画立案）
9.子育て応援ブック	共著	H27 年 6 月	小田原短期大学	赤ちゃんを育て始めた保護者のための子育てヒント集として、小田原短期大学教員で執筆した。 担当部分：「赤ちゃんと快適に暮らす」(pp.28-29)を単著。 赤ちゃん (子どもたち)を取り巻く環境として「環境って何だろう」「子どもと地域の人たち」「どうして？なんで？を大切」の３つのポイントに絞ってわかりやすく楽しく学べるように執筆した。
10.子どものこころがみえてくる保育実践辞典	共著	H28 年 8 月	鈴木出版	いつの時代も普遍である保育の本質を 10 章 242 項目にわたって掲載、一冊にまとめた辞典。 編著：保育実践辞典編集委員会 共著：多数 担当部分：「園外保育：オリエンテーリング」(pp.274-275)を単著。 オリエンテーリングを通して子どもに育つもの、またそれに参加する子どもの姿から見えてくるものを、保育現場での一例を挙げながら保育者に向けてわかりやすく執筆した。
11.幼稚園・保育所・施設実習ー子どもの育ちと安全を守る保育者をめざしてー	共著	H29 年 4 月	大学図書出版	子どもの育ちと安全の視点から、幼稚園・保育所・施設実習を学ぶ、危機管理や安全管理に特化した教科書。 編著者：茗井香保里 共著者：比嘉眞人、志濃原亜美、丸橋聡美、野津直樹、関川満美、蔦田貞子、岡本明博、富山大士、望月文代、兼重祐子 担当部分：「第 2 章第 2 節 保育者の責務・職業倫理」(pp.26-30)「第 2 章第 4 節 実習の心構え」(pp.40-41) 実習生が実習先で守るべきこと(守秘義務について)、安全を確認すべき設備・遊具等の点検の方法などについて執筆した。
12.保育する力	共著	H30 年 3 月	ミネルヴァ書房	編：学校法人三幸学園 こども未来会議 監修：吉田眞理 共著者：稲葉佳代子、上野文枝、宇佐美かおる、内山絵美子、大川正裕、小倉直子、菊地篤子、栗本公恵、露木峰子、中山貴太、野津直樹、宮川萬寿美 担当部分：「第 1 章第 3 節(1) 危機管理」(pp.28-31)「第 3 章第 1 節(5) 園の運営管理 (6)運営の実際(pp.124-131)」
13.保育の計画と評価ー豊富な例で１からわかる	共著	H30 年 3 月	萌文書林	編著者：宮川萬寿美 共著者：野津直樹、内山絵美子 担当部分：「第 3 章 教育課程および全体的な計画等の編成の実際」(pp.39-59)「第 5 章 指導計画(長期的・短期的)の作成」(pp.76-90)「第 8 章 教育・保育の評価と改善」(pp.181-182)
(学術論文) 1. 幼稚園教師のモティベーションを高める要因に関する研究	単著	H12年3月	玉川大学大学院修士論文	研究目的：営利組織・非営利組織におけるモティベーションを高める要因に関する理論研究を検討し、その上で幼稚園教師のモティベーションを高める要因を明らかにする。 研究結果：幼稚園教師の自己実現の欲求を満たすものは、幼児の発達過程を見届けることであると確認し、その意識を高める努力をすること、説得や研修などをとおして、幼稚園教師に自らがモティベーションを生み出すという意識に気付くように働きかけること、教師同士、園長と教師などの「行動／対話」により築かれていく教師間の協力体制を整え、それを含めた幼稚園全体の教育環境を再検討すること、など。

2. 幼児期にはぐくむ「生きる力」を先人たちや生き物に学ぶ体験保育	単著	H14年3月	厚木市教育研究所教育実践記録(平成13年度教育実践記録集第28集)	幼児期に体験することの少ない「昔あそび」「かたりべ」慣習など、大人たちのノスタルジックな回想を踏まえ家庭、日常生活や幼稚園生活の中に復活させるとともに、先人たちの生き方から学ぶ体験保育を進めた。また自然環境の中で生棲する生き物の生活を観察し、動植物の生体や行動に関心を持ち好奇心や探求心を深め、「生きる力」を学び、豊かな人間性の創出に取り組み、自然に身につけ自ら学び、考える力を体得する体験保育を実践した。
3. 家庭教育に関する調査研究	共著	H18年7月	厚木市教育研究所(平成17年度研究紀要第79集)	厚木市内にある小・中学校、私立幼稚園、市立保育所に通う子どもの保護者を対象として、家庭教育に関する意識調査アンケートを行った。「家族のかかわり」「家庭の教育方針」「家庭のしつけ」「地域とのかかわり」について意識調査を行い、家庭における生活実態や保護者の家庭教育への考え方の現状把握をし、家庭の教育力の課題を明確にすることを目的とした。 共著者：野津直樹、奥田七代、石川和子、鈴木努、服部弥生、大木信子、安藤淳、播間則代 全86頁。 担当部分；「家族のかかわり」 家族のかかわりについてアンケート設問の作成、アンケート結果の分析等を担当した。アンケート回答者(９割が母親だった)に対して子ども、パートナー、祖父母と過ごす時間、過ごし方、会話内容などを質問した。幼稚園・保育所の子どもを持つ親が「パートナーと過ごす時間は２時間未満」と答えた割合が５割以上というアンケート結果を受け、「早く帰る日を作ってみては？」という提言をした。また、アンケート内の自由記述欄をまとめる作業も担当した。
4. 学生のための指導計画教授法（幼稚園）～実習、実践を見据えた確かな力をどのように培うべきか～	単著	H22年3月	小田原女子短期大学(研究紀要第40号)	研究目的：学生にとってよりよい指導計画教授法を明らかにすることを本研究の目的とする。 研究結果：経験に即した指導法は、より具体的でわかりやすい教授法であったようで、一定の効果はあったといえる。しかし、「指導計画の書き方」といった「how to」を教授することに傾倒していたため「指導計画を作成する上で基本的に知っておけなければならないこと」についての理解が学生に定着するまでには至らなかった。 指導計画の書き方を専門的知識・技術と考えるのなら、この部分においては、指導計画についての専門的知識・技術を習得できたといえる。しかし、それ以外の部分（指導計画を作成する上で基本的に知っておけなければならないこと）についての理解の定着が望まれる。さらに、他科目との連携を図りながら、理解が不足している部分について補填していきたい。 私の指導計画教授法において「指導計画の書き方」以外の部分が学生に伝わったかどうかは疑わしい。学生が指導計画を「作成できる」状態へと導くことだけに固執せずに「指導計画を作成する上で基本的に知っておけなければならないこと」についての理解を定着した上での指導計画作成へと導きたい。
5. ひろば活動の実践を通して指導計画を作成する試み	単著	H22年9月	全国保育士養成協議会第49回研究大会発表論文集	「教育実務演習」授業内における私が担当する学生グループでのひろば活動の実践を通しての指導計画を作成する試みを紹介した。この時点で進行中だったため、来年度にまとめを継続研究として発表する予定であった。
6. ひろば活動の実践を通して指導計画を作成する試み その2	単著	H23年9月	全国保育士養成協議会第50回研究大会発表論文集	前述5.の継続研究として「教育実務演習」授業内において、学生グループでのひろば活動の実践内で指導計画を作成する試みのまとめを発表した。
7. 本学学生が持つ「保育者のイメージ」の変遷についての研究	単著	H24年3月	小田原女子短期大学(研究紀要第42号)	研究目的：保育者論を受け持った３年間（平成21年度～23年度）において、学生一人一人による保育者のイメージの変遷をたどることで、私が提示したキーワードのうち最重要ワードである「葛藤と成長、省察」が学生にどれほど定着しているのかを探ることを目的とする。 研究結果：様々なデータを分析し、それらを総合して考えると、１年次前期に「保育者論Ⅰ」、２年次後期に「保育者論Ⅱ」を開講すべきということを提言。

8. 保育環境に関する一考察～砂場での遊びを考える～	単著	H25年9月	全国保育士養成協議会第52回研究大会発表論文集	園環境としての砂場について考え、砂場での子どもの遊びを記録し、記述し、論考することで「砂場での子どもの遊び」と「学生の砂場での遊び経験（体験）」を関連付けていく発表をした。
9. 保育環境に関する一考察(その２)～砂場での遊びを考える～	単著	H26年3月	小田原女子短期大学(研究紀要第44号)	研究目的：園環境としての砂場について考え、砂場での子どもの遊びを記録、記述、論考することで「砂場での子どもの遊び」と「学生の砂場での遊び体験（経験）」を関連付けていくこと。 研究結果：記録に登場する頻度が多い子どもｙについて、その砂場での遊びを抽出することで、本研究者が見慣れない大人から本研究者個人へと変容する段階を経た後、より強く本研究者と関わりたいという気持ちにまで昇華したと推測できた。さらにはｙにとって砂場とは自立して待つことができる場であると同時に一緒に誰かと遊ぶことのできる依存の場であることも導くことができた。これらは、4月から11月までの間の映像記録を記述化することでしか見えなかったｙの心の動きである。そして、こういった分析の蓄積こそが本研究者の求める唯一の知識の源泉であり、この知識の源泉が本研究に基づく先の研究における最終的な到達点である、学生への寄与へとつながると確信した。
10. 子どもが環境と出会う時の保育者のかかわりの実際 ～保育現場から生まれる「環境ブック」を作成する試み～	単著	H26年9月	全国保育士養成協議会第53回研究大会発表論文集	研究目的：園生活における保育の一瞬の記録収集を行いながら（その記録には保育者の子どもたちへのかかわりも含める）、次の２つを研究の目的とした。 ①保育の一瞬における保育者の子どもたちへのかかわりをまとめた「環境ブック」を作成し、それをまずは本学学生に提示する。 ②保育の一瞬における保育者の子どもたちへのかかわりを、記録収集した保育者とともに省察を行うような一つの園内研修モデルを提案する。 研究結果：研究の目的①としては、同年11月19日の研究大会に向けての研究発表として準備を進めた。そこでは途中経過を報告する形をとった。研究大会で得た知見をもとにより良い環境ブックを作成していく予定とした。完成した環境ブックは、本研究者が担当する環境指導法や保育者論で本学学生へ提示する。研究の目的②としては、上記研究大会後の研究部会の中で取り組んでいく予定である。
11. 地域子育てひろばを活用した乳幼児家庭全戸支援(1)～小田原モデルの研究と試行～	共著	H27年3月	小田原短期大学(研究紀要第45号)	担当部分：「4.保護者向けテキスト作り (5)赤ちゃんと暮らす ③子どもと環境がかかわるということ」(p.58～p.59)を単著。 子どもにとってより身近な環境として、人、物、自然、社会の４つの環境を題材としながら、子育て中の保護者にとってわかりやすい執筆を目指した。 １環境って何だろう？ ２子どもと地域の人たち ３「どうして？」「なんで？」を大切に
12. 保育者としての葛藤と成長を知るためのインタビュー調査	単著	H27年9月	全国保育士養成協議会第54回研究大会発表論文集	研究目的：大学を卒業した学生が保育者となった時に、保育者としての葛藤の在り様、そしてその葛藤をもとにした成長の在り様が実際にどういったものであるのか、そのリアルを知ることを目的とした。
（その他）				

その他　(表彰等)		特記事項なし

専任教員教育研究業績

平成30年 4月 9日

氏名	ふりがな	所属学科	職位	性別
馬見塚 昭久	まみづか あきひさ	保育学科	学科長 教授・(准教授)・講師・助教	(男) 女

担当科目名	学内委員会等（委員長）
文学・児童文学・言語表現・基礎学力演習・表現総合演習（絵本）・表現実践Ⅱ（言葉遊び） 卒業研究（ゼミナール）	FD 委員会・入試募集委員会

学歴

和暦（西暦）年 月	事項	学位
S59（1984）年3月	成蹊大学経済学部経営学科卒業	経済学士
H19（2007）年3月	明星大学大学院人文学研究科教育学専攻修士課程修了	教育学修士

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
三菱プレシジョン株式会社	S60 年 3 月～61 年 6 月	経理部原価課
神奈川県立みどり養護学校	H 元年 1 月～元年 3 月	臨時的任用教諭
茅ヶ崎市立茅ヶ崎小学校	H 元年 4 月～7 年 3 月	教諭
茅ヶ崎市立今宿小学校	H7 年 4 月～15 年 3 月	教諭
茅ヶ崎市立浜須賀小学校	H15 年 4 月～21 年 3 月	教諭
鎌倉市立稲村ヶ崎小学校	H21 年 4 月～23 年 3 月	教諭
鎌倉市立稲村ヶ崎小学校	H23 年 4 月～24 年 3 月	総括教諭
鎌倉市教育委員会	H24 年 4 月～26 年 3 月	教育部教育総務課社会教育主事
小田原短期大学	H26 年 4 月～H30 年 3 月	保育学科講師
小田原短期大学	H30 年 4 月～現在	保育学科准教授

所属学会等

名称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）
日本国語教育学会	H26 年 4 月～現在	会員
日本児童文学学会	H26 年 10 月～現在	会員
日本文学協会近代部会	H27 年 5 月～現在	会員

社会活動等

名称	活動期間	活動内容
・小田原文学サロン実行委員会	H 27 年 8 月～現在	・小田原固有の文学資産の有効活用を図り、文学の盛んな街づくりに寄与する諸活動を行う。読書会、朗読会等を開催。
・小田原市読書活動推進講演会講師	H27 年 12 月 13 日	・演題「世代をつなぐ児童文学 ―怪異の時空と平和への願い―」
・教員免許状更新講習講師	H26、27、28、29 年度	・「絵本について考える」神奈川県私立幼稚園連合会主催

担当教科目に関する資格・免許等

名称	取得年月	取得機関
高等学校教諭二級免許 社会	S62 年 1 月	神奈川県教育委員会（昭６１高２普第３５２号）
中学校教諭一級免許 社会	S62 年 2 月	神奈川県教育委員会（昭６１中１普第２９８号）
小学校教諭二級免許	H 元年 1 月	神奈川県教育委員会（昭６３小二普第６２号）
小学校教諭専修免許	H19 年 5 月	神奈川県教育委員会（平１９小専修第０００５号）

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
（発表） 1 「共同」から「学び合い」へ	単独	2007 年 11 月	『国語科教育研究』全国大学国語教育学	・「共同作文」は、学級集団の特性を活用した作文指導法として古くから行われてきたものであるが、近年、

ー新しい「書くこと」の可能性を探るー			会・第113回岡山大会研究発表要旨集 p151～p154	その流れを発展させた作文指導法が広まっている。本研究では、教室実践を通して「共同作文」の意義と課題を明らかにし、新しい「書くこと」を展望した。
2 共話による「読むこと」の深まりを探る ー『海の命』の実践を通してー	単独	2010年 5月	『国語科教育研究』全国大学国語教育学会・第118回東京大会研究発表要旨集 p265～268	・国語科の改訂学習指導要領では、「優れた叙述について自分の考えをまとめる」ことが打ち出された。真に主体的で個性的な深い読みが成立するとされる「共話による融合読み」を取り入れることにより、「味わい」を自分の考えとして表現することを試みた実践報告。
3 保育者養成校における「文学」授業の取り組み ―アクティブラーニングの有効性について―	単独	2015年9月	全国保育士養成協議会第54回研究大会	・個人的な読書体験が主となる「文学」の授業において、いかにしてアクティブラーニングを取り入れ、作品の深層に迫る読みを目指しているか。その実践方法と効果を報告した。
（著書） 1 教室にあたたかい連帯感を	単著	1998年6月	教育誌「子どもと教育」（あゆみ出版）p68～p71	・プラスの視点で一日を振り返ることにより、友だちの良い点を見つけ、教室を温かい連帯感で満たすための提言。
2 子どもたちの想像力・表現力を育てる創作遊び	単著	1999年7月 ～ 2000年2月	教育誌「子どもと教育」（あゆみ出版）	・従来の型にはまった「課題主義」の作文は、子どもたちの内面的欲求を満足させにくいため、「書くことがない」という事態が生じがちだった。それを打開する方策として、「感覚体験や心の世界をことばで自由に表現する遊び（創作遊び）」を提唱し実践した。本稿は、その理論と実践記録をまとめたもの。
3 続いつでもどこでも群読	共著	2004年8月	高文研	学級・学年・全校活動のなかでの群読 民話の世界を共有する「モチモチの木」 ８０ページ～８９ページ 企画・編集　家本芳郎・重水健介＋日本群読教育の会 ・群読は、言語能力を高め、楽しい学校生活を作ることのできる「声を合わせる文化」である。朗読や演劇とは違う独自の文化活動だが、まだ脚本が少ない。本書では、物語教材の群読実践を紹介した。
4 基本的生活習慣のしつけ	共著	2005年3月	ひまわり社	A　健康な体をつくることができる ①健康生活の習慣 １１．運動する習慣が身についている ３０ページ～３１ページ ②食事の習慣 １５．偏食なく食べることができる ３８ページ～３９ページ 家本芳郎・編著 ・基本的生活習慣は、家庭生活、学校生活の「基本」であり、子どもの自立には欠かせないものだが、家庭の教育力が低下しつつある近年、十分身につけさせることが難しくなっている。本書では、家庭生活、学校生活の両面から、自立した子どもを育てるためのヒン

				トを提示した。
5 授業ハンドブック	共著	2005 年 4 月	たんぽぽ出版	1．授業の力量をあげる基礎技術 ①授業のルールをつくる ８ページ～９ページ ⑬テスト問題のつくり方 ３２ページ～３３ページ 家本芳郎・編著 ・授業の技は、先輩教師から後輩教師へ連綿と伝えられてきたものだが、最近は多忙化により十分伝えられなくなってきた。本書では、授業の力量を高めるために、これだけは知っておきたいという基礎技術を絵入りで紹介した。
6 パッと使える学級づくり便利グッズ	共著	2008 年 3 月	フォーラム・A	4 章　授業をもりあげるグッズ ・マグネットネームプレート １００～１０１ページ ・百人一首 １０４～１０５ページ 重水健介編著 ・授業や学級活動で役立つ、便利な小物の作り方や使い方を紹介した。単に作り方だけでなく、独創的な使い方も紹介するように努めた。
7 保育入門テキスト	共著	2015 年 3 月	萌文書林	・保育者を目指す人のために、保育者の仕事内容と保育者になるための勉強のエッセンスを紹介した書である。絵本の特殊性と子どもの見方についての解説を担当した。 Chapter5「絵本や物語と子どもの世界」 ２２ページ～２５ページ 監修:吉田眞理 共著者:内山絵美子、吉田収、上野奈初美、有村さやか、金澤久美子、野津直樹、市野繁子、吉田眞理、馬見塚昭久
8. 子どもと怪異―松谷みよ子『死の国からのバトン』を考える―（共）	共著	2016 年 12 月	青弓社	・『死の国からのバトン』は、主人公の少年が死者の国へ行って先祖と交流する、いわば現代の冥界訪問譚である。松谷はなぜこのような怪異を描いたのであろうか。本稿では、作品の時代背景と怪異の仕組みを分析し、魂の再生について考察した。 一柳廣孝:監修、飯倉義之:編「怪異の時空 2 怪異を魅せる」所収 共著者、三浦正雄、馬見塚昭久
9 アクティブラーニング対応乳児保育	共著	2018 年 3 月	萌文書林	・0、1、2 歳児保育の領域「表現」における「言語表現」について、その考え方や具体的な実践方法について解説した。 §5 表現　〔④言語〕 ９２ページ～１００ページ 編著者:　尾野明美、小湊真衣、菊地篤子 共著者:　竹田真木、鶴田久美、高地誠子、水野道子 佐藤みどり、馬見塚昭久

10 保育の計画と評価	共著	2018年3月	萌文書林	・幼稚園における教育課程、保育所における全体的な計画に関する基本的な考え方、指導計画を立てる際の要件についてまとめたもの。言語表現を題材にした部分実習指導計画の立て方を担当した。 第6章　指導計画の実際　5 言語表現を教材にした部分実習指導計画案 １３７ページ～１４４ページ 編著者: 宮川萬寿美、野津直樹、内山絵美子 共著者: 菊地篤子、東元りか、上野奈初美、吉田収、内田由佳、望月たけ美、今泉明美、馬見塚昭久
11 保育内容「言葉」指導法	共著	2018年3月	ミネルヴァ書房	・「言葉指導法」のテキスト。子どもたちの言葉を豊かに育むための関わり方を学び、人間としての成長や文化の発展について考えることができるように編集した。 編著者: 馬見塚昭久、小倉直子 共著者: 花岡清美、宮川萬寿美、安村由希子、三浦正雄、杉﨑雅子、望月たけ美
（研究ノート） 1「共話」によって拓く、『スイミー』読解指導の新たな可能性	単著	2007年3月	明星大学通信制大学院研究紀要『教育学研究』第9号	・物語教材の授業では、「共話による融合読み」が真に主体的・個性的な読みをもたらすことが報告されている。その有効性を活用して、教科書教材『スイミー』の教材としての不完全性を克服した実践報告。
2 松谷みよ子『ちびっこ太郎』論　―祖先の魂と時代が語るもの―	単著	2018年3月	小田原短期大学研究紀要　第48号pp.81～88	・『ちびっこ太郎』は、松谷みよ子による「太郎三部作」の一つであるが、従来あまり注目されてこなかった。本稿では、その理由と背景を整理しつつ、今日、本作品がどのように読み得るのかを考察した。
（論文等） 1 絵本『お手紙』が取り持つ異年齢交流学習　－国語科学習における保幼小連携の試み－	共著	2010年12月	埼玉学園大学紀要人間学部編　第10号	・保育園、幼稚園から小学校への連続性のある学びを目指して、小学校２年生と各自の出身園々児たちとの交流を試みた。本研究では、交流の概要を示し、双方の反応及び意識を確認した。共著者:三浦正雄、馬見塚昭久
2 絵本『お手紙』が取り持つ異年齢交流学習　－国語科学習における保幼小連携の試み　その２－	共著	2011年12月	埼玉学園大学紀要人間学部編　第11号	・前述の紀要で明らかにできなかった、園児、児童の作品分析を通して、保幼小連携の可能性を探った。共著者:三浦正雄、馬見塚昭久
3 松谷みよ子氏への書面インタビュー　―怪談・不思議譚・怪異譚・霊験譚をめぐって―	共著	2014年12月	埼玉学園大学紀要人間学部篇　第14号 pp.205～209	・赤ちゃん絵本から民話採の訪まで、幅広い活動をしてきた松谷みよ子氏に対して、怪異へのまなざしをテーマにインタビューをした記録。その結果、氏の作品の根底には、目に見えない世界への真摯な思いが反映されていることが明らかとなった。 共著者:三浦正雄、馬見塚昭久

4 民話における怪異と児童文学における神秘をつなぐもの～『ふたりのイーダ』にみる異界への回路～	共著	2015年3月	小田原短期大学研究紀要　第45号pp.23～31	・松谷みよ子のファンタジー児童文学と現代民話との接点を追求した。その結果、アニミズムや憑依を源泉とする生命観、仏教における輪廻転生、能における生者と死者との交流という三つの柱を基盤とする回路を明らかにした。
5 山田太一氏へのインタビュー(1) ―怪談・不思議譚・怪異譚・霊験譚をめぐって―	共著	2015年12月	埼玉学園大学紀要人間学部篇　第15号pp.237～240	・山田太一氏は、生活感のある脚本を多数発表してきた一方で、『異人たちとの夏』等、異界や怪異を扱った小説も上梓している。それらの作品がどのような背景のもと、どのような経緯で作品化されていったのか、インタビューによって明らかになった。共著者:三浦正雄、馬見塚昭久
6 児童文学に描かれた告発と怪異　―『死の国からのバトン』（松谷みよ子）を支えるもの―	単著	2016年3月	小田原短期大学研究紀要　第46号pp.62～71	・従来、松谷みよ子のファンタジー児童文学『死の国からのバトン』は、公害の告発が主テーマと考えられてきた。本稿では、作品に描かれた怪異の意味を考察し、「祖先崇拝による救済」というもう一つの重要なメッセージが隠されていることを明らかにした。
7 山田太一氏へのインタビュー(2) ―怪談・不思議譚・怪異譚・霊験譚をめぐって―	共著	2016年12月	埼玉学園大学紀要人間学部篇　第16号pp.201～204	・山田太一氏の作品がどのような背景のもと、どのような経緯で作品化されていったのか、インタビューした記録の続編。共著者:三浦正雄、馬見塚昭久
8 松谷みよ子『まえがみ太郎』論　―民話の再創造としての価値をめぐって―	単著	2017年3月	小田原短期大学研究紀要　第47号pp.1～10	・『まえがみ太郎』は、松谷が心血を注いだ「太郎三部作」の一つであるが、1作目の『龍の子太郎』に比べると、あまり高く評価されてこなかった。本稿では、本作品を近代的なファンタジーではなく、「民話の再創造」として捉え直すことにより、民話の世界を通してしか語り得ない、時代を超えた価値観を読み解いた。
9 山田太一氏へのインタビュー(3) ―怪談・不思議譚・怪異譚・霊験譚をめぐって―	共著	2017年12月	埼玉学園大学紀要人間学部篇　第17号pp.359～362	・山田太一氏の作品がどのような背景のもと、どのような経緯で作品化されていったのか、インタビューした記録の最終編。共著者:三浦正雄、馬見塚昭久
（その他）				
1 保育士受験対策講座　実技対策DVD「言語表現に関する技術」	単独	2017年2月	日本教育クリエイト　三幸保育カレッジ	・通信講座を利用して保育士を目指す人のために編集された、言語表現技術に関する実技対策のDVD。脚本の作り方から語り方、試験の際の注意点等を網羅した。（監修・指導）
2 子育てと子どもの本①～⑤	単著	2017年12月～2018年4月	神静民報	・子育て中の親御さんに向けて、絵本や児童文学についての考え方や読み聞かせ方のヒントを5回にわたって紹介した。（寄稿）

その他　(表彰等)		特記事項なし		

専任教員教育研究業績

平成30 年 6月 6日

氏名	ふりがな	所属学科	職位	性別
望月　たけ美	もちづき　たけみ	保育学科	学科長 教授・准教授・[講師]・助教	男・(女)

担当科目名	学内委員会等（委員長）
音楽表現ⅠA、表現総合演習、卒業研究（ゼミナール）、サービスラーニング ピアノ弾き歌い、表現実践Ⅱ	マロニエ合同運営協議会、クラブ連絡会 EM委員会

学歴

和暦（西暦）年　月	事項	学位
H3（1991）年3　月	武蔵野音楽大学音楽学部作曲学科　卒業	芸術学士
H3（1991）年4　月	武蔵野音楽大学大学院音楽研究科修士課程作曲専攻入学	
H5（1993）年3　月	武蔵野音楽大学大学院音楽研究科修士課程作曲専攻修了	修士（音楽）

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
武蔵野楽器ヤマハ音楽教室	H2年4月～H11年3月	ピアノ科講師として勤務
常葉学園短期大学　音楽科	H8年4月～H15年3月	非常勤講師　「音楽理論」「和声学」「ソルフェージュ」
常葉学園短期大学　保育科および保育専攻科	H16年10月～H26年3月	非常勤講師「音楽とこども」 保育内容研究「音楽表現」
常葉学園短期大学　音楽科	H17年4月～H26年3月	非常勤講師　「音楽理論」「ソルフェージュ」
常葉大学　教育学部	H21年4月～現在	非常勤講師　「音楽理論」「音楽Ⅰ」
常葉学園橘高等学校音楽科	H22年4月～H26年3月	非常勤講師　「演奏法Ⅰ」「演奏法Ⅱ」
富士常葉大学　保育学部	H23年4月～H27年3月	非常勤講師　「幼児音楽表現」
小田原短期大学　保育学科	H26年4月～現在	専任講師として勤務。「音楽表現ⅠA」「ピアノ弾き歌い」「表現実践」「表現総合演習」「卒業研究（ゼミナール）」

所属学会等

名称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）
静岡県演奏家協会	H17 年 4月～現在	正会員、静岡第一支部（演奏部）
日本作曲家協議会	H18年11月～現在	正会員
日本音楽教育学会	H24年 6月～現在	正会員
日本音楽表現学会	H24年 6月～現在	正会員
日本保育学会	H26年 9月～現在	正会員
日本保育者養成教育学会	H27年4月～現在	正会員
日本音楽著作権協会	H29年6月～現在	会員
日本学校音楽教育実践学会	H30 年5月～現在	正会員

社会活動等

名称	活動期間	活動内容
四世代をつなぐ「みんなのコンサート」委嘱作曲・編曲家よび音楽指導教員	H16年1月～現在	四世代をつなぐ「みんなのコンサート」第1回～第13回における、コンサート企画スタッフ、コンサートのテーマに応じた楽曲の編曲・作曲、児童合唱音楽指導
河合楽器主催の音楽コンクール審査委員	H21年12月～ 現在	河合楽器主催音楽コンクール、こどもコンクール、歌のコンクール、ドリマトーン部門における、静岡東部・中部地区の審査委員長および審査講評
カワイ音楽研究会研修講師	H22年9月～現在	河合楽器主催カワイ音楽研究会研修講師として、カワイ音楽研究会所属ピアノ指導者に、「コンクール課題曲の作品分析と演奏解釈」を講演
カワイ音楽コンクール出場者ピアノ特別公開レッスン講師	H24年11月～H24年12月、H25年11月～H26年4月、H26 年 10 月～H26 年 11 月、H27年～H30年	カワイ音楽コンクール出場者(幼児～高校生)を対象としたピアノ特別公開レッスン特別講師（カワイ楽器静岡東事務所主催）

日本作曲家協議会主催「第 26 回こどもたちへ」楽譜出版応募作品選考委員	H23 年 6 月	日本作曲家協議会楽譜出版事業「こどもたちへ」2011 年版に楽譜出版される作品の選考
日本作曲家協議会主催「第 30 回こどもたちへ」楽譜出版応募作品選考委員	H26 年 7 月	日本作曲家協議会楽譜出版事業「こどもたちへ」2014 年版に楽譜出版される作品の選考
伊東西ロータリークラブ第 1682 回例会講師卓話	H25 年 5 月	「クラシック界における女性作曲家の存在」を講演 （於：伊東市暖香園会場）
教員免許更新講習講師	H27 年、H28 年、H29 年、H30 年	公益社団法人　神奈川県私立幼稚園連合会「教員免許更新講習」における講師
新採用教員研修講師	H29 年、H30 年	公益社団法人　神奈川県私立幼稚園連合会「新採用教員講習」における講師（於：鶴見大学）
日本ピアノ指導者協会（ピティナ）・日本作曲家協議会主催「作曲家から学ぶ！」マスタークラスの公開レッスン作曲家講師	H29 年 4 月 H30 年 4 月	全日本ピアノ指導者協会（ピティナ）と日本作曲家協議会の共同事業「作曲家から学ぶ！」マスタークラスにおける、作曲家としての講演。H29 年は、自作曲「キルギスの大地の踊り」を元に公開レッスンを行った。H30 年は、自作曲「ゆめのブランコ」を元に公開レクチャーを実施した。（於：東音ホール）
静岡交響楽団街角コンサート委嘱作曲家	H29 年 8 月～H30 年 3 月	静岡文化財団、静岡交響楽団委嘱作曲家として毎月衣作品を提供。全て静岡交響楽団によって初演された。

担当教科目に関する資格・免許等

名　称	取得年月	取得機関
中学校教諭専修免許（音楽）	H5 年 3 月	東京都教育委員会
高等学校教諭専修免許（音楽）	H5 年 3 月	東京都教育委員会

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概　要
（著書・CD） ①「こどもたちへメッセージ 2007」	共著	H19 年 12 月	編者： 日本作曲家協議会 発行所： 河合楽器製作所	ピアノ独奏曲『かえるくんからがまくんへ』 担当作曲部分：（pp14－15）CD：（truck10） 日本作曲家協議会が、音楽教育事業として力を入れている楽譜出版。公募作品の中から選曲された、作曲家が子供たちの為に書き下ろしたピアノ作品集。 小学校 2 年生の国語の教科書（光村図書）の教材、アーノルド・ローベルの『おてがみ』というお話をイメージして作曲。小学校での国語と音楽を連動させた授業の中で、鑑賞教材として使われた。
②「キッズBOX ピアノコンサート2008」（第1刷）	共著	H20 年 11 月	編者： 日本作曲家協議会 発行所： オンキョウパブリッシュ	ピアノ連弾曲『小鳥のアンニン』 担当作曲部分：（pp78－81）CD：（truck27） 自分のパートの役割を意識できるような構成で、ピアノ発表会連弾曲として、各地で演奏されている。
③「キッズBOX ピアノコンサート2010 」（第1刷）	共著	H22 年 3 月	編者： 日本作曲家協議会 発行所： オンキョウパブリッシュ	ピアノ連弾曲『笑顔いっぱい花いっぱい』 担当作曲部分：（pp88－90）CD：（truck26） 機能和声の特質や終止感、楽曲形式が分かりやすい作品。学習者が、音階構成音の各働きが感覚的に捉えやすいよう作曲した。

④「こどもたちへメッセージ2012」（第1刷）（第2刷）（第3刷）（第4刷）（第5刷）（第6刷）	共著	H24年3月	編者： 日本作曲家協議会 発行所： 河合楽器製作所	ピアノ連弾曲『小さな赤いライオン』 担当作曲部分：(pp32－35) マーク・ベロニカ作『ラチとらいおん』という物語をもとに作曲。楽曲中の動機は、現れる度に拡大され、強い子になっていくラチのように豊かに華やかに変化していく。学習者が、物語の展開をイメージしながら演奏できるようになっている。
⑤「こどもたちへメッセージ2013」（第1刷（第2刷）	共著	H25年3月	編者： 日本作曲家協議会 発行所： 河合楽器製作所	ピアノ独奏曲『セキセイインコがみた夢』 担当作曲部分：(pp8－10) CD；(truck３) テクニックの学習を兼ね備えた作品。多くの子どもたちのピアノ発表会のレパートリーになっている。
⑥「初等教育課程のための鍵盤ハーモニー入門」	共著	H25年3月	著者：山崎正嗣 望月たけ美 発行所：常葉学園大学初等教育課程	執筆内容：音階上の主要コードネーム、音階の調性が変わった時の考え方、小学校歌唱共通教材全 24 曲の曲目解説。担当執筆部分：(pp13、15、52－60) 幼稚園教諭や小学校教員を目指す学生のための、コードネーム付と伴奏法のテキスト。幼稚園教諭・小学校教員養成大学で、授業テキストとして使用されている。
⑦「フレーズ感と和声感を大切にした新しいソルフェージュ」	共著	H27年3月	著者：山崎正嗣 望月たけ美 発行所：篠原印刷出版部	執筆内容：リズムやメロディーモティーフによる創作や２声～４声までの視唱課題の実施を通して、音楽表現を感じ取り、真の新曲視唱の力を身につけることを目指したⅠ章から１０章の課題集。全37ページ。 幼稚園教諭や小学校教員を目指す学生の為のテキスト。 教員養成校の授業テキストとして使用されている。 常葉大学教育学部の山崎正嗣氏との共著。
⑧「ソルフェージュ実践ノート」	共著	H27年9月	著者：山崎正嗣 望月たけ美 発行所：篠原印刷出版部	執筆内容:「フレーズ感と和声感を大切にした新しいソルフェージュ」課題集のための実践ノート。創作課題、新曲重唱（２～４声）課題と、形式創作（一部形式～三部形式）課題および個人による旋律とリズム課題の実践ノート。全67ページ 常葉大学教育学部の山崎正嗣氏との共著。
⑨「こどもたちへ」メッセージ２０１６ 27人の作曲家による～世界のごちそう編第２巻（第１刷）	共著	H28年4月	編者： 日本作曲家協議会 発行所： 河合楽器製作所	ピアノ独奏曲『小龍包を召し上がれ！』 担当作曲部分：(pp14－16) CD（truck６） 世界のごちそう編として 27 人の作曲家によって作曲されたピアノ独奏曲、連弾曲集の第２巻。中国の音階であるペンタトニック・スケールを作曲。冒頭の左手部分から開始する主題が、曲全体にわたって活かされ、変容を遂げながらフィナーレ部分で拡大形となって登場する。対位法的要素と和声的要素を含む作品で、小さな手のピアノ学習者のフレーズ感や和声感を育むことを目指す。
⑩「こどもたちへ」メッセージ２０１７ 27人の作曲家による～世界のおどり編　第１巻（第１刷）	共著	H29年4月	編者： 日本作曲家協議会 発行所： 河合楽器製作所	ピアノ独奏曲『キルギスの大地の踊り』 担当作曲部分：(pp12－14) CD（truck　4） 世界の踊り編として 27 人の作曲家によって作曲されたピアノ独奏曲、連弾曲集の第１巻。キルギスの大地を舞台にした子どもの為のピアノ独奏曲を作曲、出版。 キルギスの民族音楽をヒントにキルギスの老若男女が踊る様を表現した。冒頭は２声の旋律の語りから始まり、徐々に音楽的要素が発展を繰り返し、終盤はキルギスの大地で、軽快なステップを踏み鳴らし踊る華やかで独特なアクセントを保持した作風になっている。多くの子ども達が、この作品レパートリーとし、キルギスの民族性に音楽を通して興味を抱き、キルギスという国にも関心を持つことをも目的としている。

⑪「子どものための音楽表現技術」感性と実践力豊かな保育者へ　(第1刷)	共著	H29 年 4 月	編者： 今泉明美、有村さやか 著者： 望月たけ美、宮川萬寿美、東元りか、高地誠子 発行所：萌文書林	担当執筆部分：(p2―75) 幼稚園教諭・保育士養成課程で保育者を間座して学ぶ人を対象に作成したテキスト。Part 1 「保育者の求められる感性・表現力・創造性」、Patt2「保育現場の子どもの音楽表現」の 2 つの内容を持つ。通学課程や通信教育課程のテキストとして使用。また、保育者全般を対象に執筆されている。H29 年度より本学の「音楽表現」のテキストとして使用。
⑫「初等教育課程のための鍵盤ハーモニー入門」(改訂版) 【理論編】	共著	H29 年 4 月	監修 ：山崎正嗣 編者：明和史佳 著者：望月たけ美 発行所：常葉大学初等教育課程 篠原印刷出版	執筆内容：音階上の主要コードネーム、音階の調性が変わった時の考え方、小学校歌唱共通教材全 24 曲のコード伴奏付けを修得する。改訂版は、理論編と実践編のテキスト 2 冊セットで学習を深める。 担当執筆部分：(pp13、15、52－60) 幼稚園教諭や小学校教員を目指す学生のための、コードネーム付と伴奏法のテキスト。H29 年度 4 月より幼稚園教諭・小学校教員養成大学で、授業テキストとして使用されている。
⑬「初等教育課程のための鍵盤ハーモニー入門」(改訂版) 【実践編】	共著	H29 年 4 月	監修：山崎正嗣 編者：明和史佳 著者：望月たけ美 発行所：常葉大学初等教育課程 篠原印刷出版	執筆内容：音階上の主要コードネーム、音階の調性が変わった時の考え方、小学校歌唱共通教材全 24 曲のコード伴奏付けを修得する。改訂版は、理論編と実践編のテキスト 2 冊セットで学習を深める。 担当執筆部分：(pp13、15、52－60) 幼稚園教諭や小学校教員を目指す学生のための、コードネーム付と伴奏法のテキスト。H29 年度 4 月より幼稚園教諭・小学校教員養成大学で、授業テキストとして使用されている。
⑭「こどものうた85」～優しい伴奏から素敵な伴奏まで～ 1学期編	共著	H29 年 4 月	編著：飯泉由美子 石橋裕子 著者：望月たけ美 須田三枝子、小池すみれ、松井晴美、角田玲奈、岡部絵実　発行所： 共同音楽出版	執筆内容：保育者養成課程や初等教育課程の音楽テキストとして、また保育者や教員が現場で活用できる楽譜集として幅広いニーズに応えられることを目的として企画された音楽テキスト。1 学期編。 担当執筆部分：1 学期編に記載の 19 曲中の C メロディーのない伴奏、D 素敵な伴奏部分を担当。
⑮「こどものうた85」～優しい伴奏から素敵な伴奏まで～ 2学期編	共著	H29 年 9 月	編著：飯泉由美子 石橋裕子 著者：望月たけ美 須田三枝子、小池すみれ、松井晴美、角田玲奈、岡部絵実 共同音楽出版	執筆内容：保育者養成課程や初等教育課程の音楽テキストとして、また保育者や教員が現場で活用できる楽譜集として幅広いニーズに応えられることを目的として作成された音楽テキスト。2 学期編。 担当執筆部分：2 学期編に記載の 27 曲中の C メロディーのない伴奏、D 素敵な伴奏部分を担当。
⑯「こどものうた85」～優しい伴奏から素敵な伴奏まで～ 3学期編	共著	H30 年 2 月	編著：飯泉由美子 石橋裕子 著者：望月たけ美 須田三枝子、小池すみれ、松井晴美、角田玲奈、岡部絵実 共同音楽出版	執筆内容：保育者養成課程や初等教育課程の音楽テキストとして、また保育者や教員が現場で活用できる楽譜集として幅広いニーズに応えられることを目的として作成された音楽テキスト。2 学期編。 担当執筆部分：2 学期編に記載の 31 曲中の C メロディーのない伴奏、D 素敵な伴奏部分を担当。
⑰保育内容 「言葉」指導法	共著	H30 年 3 月	編著：馬見塚昭久、小倉直子 著者：花岡清美、宮川萬寿美、安村由希子、三浦正雄、杉崎雅子、望月たけ美 ミネルヴァ書房	執筆内容：保育者養成校における「言葉指導法」テキストとして執筆。8 章立て、各章が 2 節（8 章のみ 1 節）構成。各章にアクティビティや演習課題が盛り込まれている。 担当執筆部分：第 8 章、演習課題⑤、アクティビティ⑤を担当　pp101－103、pp144－pp152

⑱「保育の計画と評価」―豊富な例で１からわかる	共著	H30 年 3 月	編著：宮川萬寿美 著者：野津直樹、内山絵美子、菊地篤子、東元りか、上野奈初美、吉田収、馬見塚昭久、内田由佳、望月たけ美、今泉明美 萌文書林	執筆内容：2017 年改訂の 3 法令に基づき、園での生活を想像しながら具体的に保育構想し実践展開できるテキストとして作成。指導計画案が示されている。 担当執筆部分: 7。総合的な展開「行事と指導計画」pp150－pp155
⑲教育・保育実習に役立つ「部分実習指導案集」	共著	H30 年 3 月	総監修：宮川萬寿美　著者、監修：小田原短期大学教員 萌文書林	執筆内容：部分実習指導の時に実習生が取り組みやすいような表現系の指導案集。 担当監修部分：２
⑳生活事例からはじめる一保育内容―「総論」	共著	H30 年 3 月	編著：神蔵幸子、宮川萬寿美 著者：佐野真弓、曽野麻紀、望月たけ美 発行所：青踏社	執筆内容：子どもの劇遊び～日々の活動のなかから生まれるごっこ遊びを発展させる～ 担当執筆部分：第 6 章―2　pp98－pp103
㉑「こどもたちへ」メッセージ２０１８ 27人の作曲家による～ゆめ編 第１巻 （第１刷）（第2刷）（第3刷）	共著	H30 年 4 月	編者： 日本作曲家協議会 発行所： 河合楽器製作所 カワイ出版	ピアノ独奏曲『ゆめのブランコ』 担当作曲部分：(pp14－16) CD（truck　6） ゆめ編として 27 人の作曲家によって作曲されたピアノ独奏曲、連弾曲集の第１巻。公募作品の中から、ピティナ・カワイ出版・日本作曲家協議会によって選曲されたピアノ曲集。各種コンクール課題曲、子どものためのピアノレパートリー曲として日本中の子ども達によって演奏されている。好評に付き、増版が続いている。
(学術論文) ①「日本の創作オペラの技法の研究」石桁真礼生きる作品『卒塔婆小町』をめぐって	単著	H5 年 3 月	武蔵野音楽大学	修士論文。日本語のオペラを作曲するに当たり、自分で物語から台本を起こすことを考えていたためテーマとした。三島由紀夫作『卒塔婆小町』を、作曲家石桁眞礼生が、大幅な改作をしてオペラ台本にまとめている事、また、現代のオペラとして登場人物に与えられた指導動機の扱いが見事である事から、考察の必要性を感じ研究論文とした。
（研究論文） ②「初等科教育課程における<音楽科>音楽実技の現状と模索」 ～音楽実技（ピアノ）における集団授業の試み～	共著	H24 年 12 月	常葉学園大学研究紀要 （第 33 号）	執筆者：山崎正嗣、望月たけ美 執筆内容：幼稚園、小学校で必要なピアノの技術とはなにか。現場で求められる音楽実技とは何かに視点を置き、「歌う」という活動に向けた確かな力をつけるための音楽実技の取り組みについて、授業実践を通して論じた。 担当執筆部分：(pp18-24)『授業実践による問題点と改善点』 ～平成 24 年度前期「音楽Ⅰ」15 回の授業を振り返って～
(ポスター発表) ③「地域力を活かした保育養成におけるピアノ技術の指導について」	共著	H27 年 5 月	日本保育学会 （第 68 回大会）	共同研究者：今泉明美、東元りか、望月たけ美 小田原短期大学保育学科で平成 26 年度より実施している、新カリキュラム「地域力を活かしたピアノ特別授業（課外授業）」について、H25 年度旧カリキュラムとの学習効果の比較分析を行い、新カリキュラムのによる保育者としての音楽実践力、その根底となる感性の育成への効果について検証した。

（研究論文） ④「保育者養成校における音楽科授業の取り組み～コード付けの学習を通して～」	共著	H28 年 3 月	小田原短期大学研究紀要（第 46 号）	執筆者：東元りか、望月たけ美 小田原短期大学の音楽科授業におけるコード付け学習における学生の達成状況と、授業アンケート調査をもとに授業の効果について検討。コード付け学習を通して見える近年の学生の特性や課題、授業の展開や取り組みについて考察した。
（ポスター発表） ⑤「コード付けの実践授業～保育者養成校の取り組み～」	共著	H28 年 8 月	保育者養成協議会研究大会	共同研究者：望月たけ美、東元りか 小田原短期大学「音楽表現Ⅱ」の授業で取り組みを進めているコード付け学習についての研究報告をポスター発表にて行った。今後の保育現場で求められる弾き歌いの力に視点を当てた継続研究の発表を行った。
（研究論文） ⑥「小学校教員養成課程における音楽技能習得の実践」	共著	H29 年 3 月	常葉大学教育学部研究紀要 （第 37 号）	共同研究者：望月たけ美、明和史佳 担当執筆部分：p180－190 小学校教員養成校である常葉大学教育学部での音楽科授業の取り組みと、履修学生へのアンケート結果に基づいた、伴奏付け学習の授業を通して育まれる指導者としての資質に視点当てた継続研究。先行研究は、H24 年に開始。H24 年度からの 4 年間の取り組みを追った。
（研究ノート） ⑦「幼児期における感性を育成する」表現遊びに関する考察（1）	共著	H29 年 3 月	小田原短期大学研究紀要（第 47 号）	共同研究者：今泉明美、宮川萬寿美、宇佐美かおる、望月たけ美、東元りか、高地誠子 担当執筆部分：p71－73、p77－81 小田原短期大学乳幼児研究所のおだたんくらぶ幼児教室における小グループの音楽遊びの分析をもとにした共同研究。おだたんくらぶ幼児教室での前期 3 回の取り組みをもとに、身体、造形、音楽における表現活動を体験していく子ども達の様子を見つめ、幼児の感性を育む表現活動の手がかりになる要素を得ていくことも目的とした継続研究。
（研究ノート） ⑧「子どもの音楽表現を育む為の必要な音楽基礎力～保育者養成校と教員養成校の音楽科授業を通して見つめる幼小連携」	共著	H29 年 3 月	常葉学園大学研究紀要 （第 33 号）	共同研究者：望月たけ美、明和史佳 担当執筆部分：p89－98、p106－108 小田原短期大学、常葉大学教育学部での音楽科の取り組みを通して、授業を通して出来る幼小連携について考察。各大学の取り組みを踏まえ、それぞれの課題を見出し、真の幼小連携とは何かを追った。現役の小学校教員（理科、社会、国語、英語、音楽、算数、体育）へのアンケートを実施し、他教科を専門としながら担任教員として幅広く授業を実施している先生方の、幼児保育への関わりや意識についてアンケート調査を実施した。
（ポスター発表） ⑨「小学校歌唱共通教材」を用いたコード付け願総学習の授業実践～授業テキスト改訂の背景と現状～	共著	H29 年 10 月	日本音楽教育学会 第 48 回研究大会 （愛知教育大学）	共同研究者：望月たけ美、明和史佳 小学校教員養成校である常葉大学教育学部での音楽科授業の取り組みと、履修学生へのアンケート結果に基づいた、伴奏付け学習の授業を通して育まれる指導者としての資質に視点当てた継続研究。2017 年度の改訂版・新授業テキストの作成に至った要因と小学校の音楽授業を担当する可能性のある初等教育専攻学生の現状を分析。
（ポスター発表） ⑩「保育者養成校における音楽教育に関する一考察～楽典とピアノ弾き歌いの総合的な取り組み」	単著	H30 年 3 月	日本保育者養成教育学会 第 2 回研究大会 （共立女子大学）	研究者：望月たけ美 音楽基礎知識の学びが学生の音楽表現にどのように反映されているのか、学生へのアンケート調査を元に分析し、今後の取り組みと学生のニーズについて考察した。
（研究論文） ⑪2歳児の聴く力を育てる「お返事遊び」についての考察（1）	共著	H30 年 3 月	小田原短期大学研究紀要（第 48 号）	共同研究者：今泉明美、高地誠子、望月たけ美 小田原短期大学の幼児教室で毎時実施している音楽あそびが、2 歳児の聴く力を育てる遊びとなっているのか、子どもの動きや声を DVD によって分析した。

（ポスター発表） ⑫「実習現場での音楽表現活動について～保育者養成校に求められる音楽授業～」	共著	H30 年 5 月	日本保育学会 第 71 回大会	共同研究者：望月たけ美、今泉明美、有村さやか、山本華子 H22 来の継続研究である。H29 年度に実習現場で活用されていた楽曲を学生へのアンケートによって調査し、本学の音楽授業や音楽教材、今後の取り組みについて分析した。
（教育活動における活動・編曲・作曲作品） ① 「みんなのコンサート」～四世代をつなぐ歌～真理ヨシコと共に～」第1回～第14回	自作曲作品の提供	H17 年 1 月 ～ H30 年 7 月	みんなのコンサート実行委員会	望月たけ美編曲・作曲担当。みんなのコンサート児童合唱団の音楽指導スタッフ。初代 NHK 歌のおねえさんの眞理ヨシコ氏と共に、四世代をつなぐ歌で子供の心を育てようという企画のもと活動。地域一体となって毎年 5 月 5 日または 7 月にコンサートを実施。 （於：静岡清水マリナート大ホール） 第 1 回のテーマ「静岡ゆかりの歌」 第 2 回のテーマ「静岡と子供の歌」 第 3 回のテーマ「おばあさんのお母さんの歌」 第 4 回のテーマ「子どもの心 12 か月」 第 5 回のテーマ　「手紙～童謡 90 年赤い鳥から～あなたへの手紙」 第 6 回のテーマ「歌でつなぐ『青い鳥』チルチルミチルの旅」 第 7 回のテーマ「行ってみよう！歌のある町へ」 第 8 回のテーマ「大好き！私の富士山～あっちこっちから見る～」 第 9 回のテーマ「あくしゅでコンニチハ」 第 10 回のテーマ「羽衣」 第 11 回のテーマ「徳川家康公顕彰 400 年」 第 12 回のテーマ「清見潟～海の日～」 第 13 回のテーマ「井上馨公」 第 14 回のテーマ「神の国　いほはら」
②静岡市立三番町小学校閉校記念コンサート	自作曲作品の提供	H18 年 3 月	静岡三番町小学校	望月たけ美編曲 「静岡フィルハーモニー交響楽団と共に未来を歌う」コンサートにおけるオーケストラ編曲 （於：静岡文化会館大ホール）
③静岡市立安東小学校創立記念コンサート	自作曲作品の提供	H19 年 3 月	静岡市立安東小学校	望月たけ美編曲 静岡市立安東小学校全児童による合唱編曲・室内オーケストラ編曲 （於：安東小学校体育館）
④静岡市立東源台小、浜田小学校音楽発表会	自作曲作品の提供	H19 年 11 月 H20 年 11 月	静岡市立東源台小学校、浜田小学校	望月たけ美作曲編曲 全 16 曲のわらべ歌が挿入された、児童合唱と身体表現のための作品。 （於：東源台小学校、浜田小学校体育館）
⑤富士リズム幼稚園・富士見台リズム幼稚園・青木リズム幼稚舎 音楽発表会	自作曲作品の提供	H21 年 12 月 H22 年 12 月	富士リズム幼稚園・富士見台リズム幼稚園・青木リズム幼稚舎	望月たけ美編曲 井沢学園グループの幼稚園、幼稚舎の音楽発表会における二部合唱の編曲。井沢学園より編曲依頼された。 演奏：富士リズム、富士見台リズム、青木リズム幼稚園年中。年長児。 （於：富士ロゼシアター大ホール）
⑥静岡市立清水浜田小学校音楽発表会	自作曲作品の提供	H25 年 11 月	静岡市立浜田小学校	望月たけ美作曲 「清水三保」にまつわるわらべ歌の合唱作品。 （於：浜田小学校体育館）

⑦静岡市立清水船越小学校	自作曲作品の提供	H27 年 11 月	静岡市立清水船越小学校	望月たけ美編曲 小学校の音楽発表会における合奏曲「夕やけこやけ」の作品提供。静岡市立清水船越小学校 2 年生の合奏演奏のために編作曲を行った。 （於：船越小学校体育館）
⑧静岡市立由比北小学校	自作曲作品の提供	H28 年 11 月	静岡市立由比北小学校	望月たけ美編曲 低学年から中学年の児童における「わらべ歌メドレー」の作品提供。由比北小学校音楽発表会にて児童が身体表現を伴って発表した。（於：由比北小学校体育館）
⑨NHAテーマの歌	自作曲作品の提供	H28 年 9 月	NHA	望月たけ美作曲、 NHA（心を育てるアプローチ）企画の NHA のテーマソングの作曲（委嘱作曲作品）
⑩保育者養成シリーズDVD	DVD 作成への協力と出演	H29 年 2 月	三幸学園教育クリエイト	保育者養成シリーズにおける保育士試験対策 DVD への作成協力と出演。
⑪「まるごと元気の歌」	自作曲作品の提供	H29 年 3 月	小田原短期大学 神奈川県西共同事業	望月たけ美作曲、宮川萬寿美作詞 もったいないを推奨する、まるごとなんでも食べようをテーマにした子どもの歌の作曲
⑫「手洗いシュシュシュの歌」	自作曲作品の提供	H29 年 3 月	小田原短期大学 神奈川県西共同事業	望月たけ美作詞、作曲 手を洗う行程を歌にした。教育現場で使用できる歌として作曲
（作品発表、 ピアノ演奏、 指揮　等） ①オペラ『きつねの窓』	作品発表	H8 年 2 月 （初演） H8 年 10 月 （再演）	東京室内歌劇場 27 期第 85 回公演 常葉学園橘高等学校音楽科卒業生	望月たけ美作曲 第 17 回文化庁舞台芸術奨励特別賞受賞作品初演 （於：六本木　俳優座劇場） 常葉学園橘高等学校音楽科創立記念コンサート （於：静岡文化会館中ホール）
②ピアノ変奏曲『さくらさくらの主題による変奏曲　in　上海』	作品発表 ピアノ演奏	H15 年 12 月	上海ふたば幼稚園	望月たけ美作曲、ピアノ演奏 上海ふたば幼稚園クリスマスファミリーコンサートにおける自作品の発表とピアノ演奏。世界初演。 （於：中国上海市建国賓館）
③オペラ『猫の踊り場』（初演）	作品発表	H11 年 4 月	横浜市泉区オペラ研究会	望月たけ美作曲 横浜市泉区に伝わる民話をオペラ化。委嘱作品。世界初演。（於：横浜泉区民センターテアトルフォンテ）
④オペラ　『猫の踊り場』（再演）	作品発表	H13 年 8 月	MEC	望月たけ美作曲 コンサート形式によるオペラ作品の再演。 （於：王子ホール）
⑤fl&pボラン『組曲：第1番』	ピアノ伴奏	H18 年 12 月	静岡県演奏家協会	静岡県演奏家協会定期演奏会にフルートのピアノ伴奏で出演。（静岡音楽館 AOI）
⑥子ども遊び歌『おばあさんのお母さんの歌』	作品発表	H19 年 5 月	第 2 回みんなのコンサート実行委員会	望月たけ美作曲 ピアノ・ヴァイオリン・チェロ・児童合唱の為に。 （於：静岡清水文化会館大ホール）
⑦オペラ『猫の踊り場』（改作版初演）	作品発表 指揮	H19 年 7 月	静岡県演奏家協会	静岡演奏家協会定期演奏会にて改作版初演。 （於：静岡音楽館 AOI）
⑧ピアノ独奏曲『がまくんからかえるくんへ』	作品発表・ピアノ演奏	H19 年 11 月	日本作曲家協議会	第 23 回「こどもたちへ」にて新作初演。自作自演。 （於：紀尾井ホール）
⑨『明治唱歌童謡アルバム』	作品発表	H20 年 11 月	静岡演奏家協会	グランシップ提携公演事業「洋楽事始め」～モダンの風

⑩『舞踏への勧誘』	編曲 指揮			～初演。先人たちの輝き。室内オーケストラの指揮 （於：グランシップ）
⑪ピアノ連弾曲 『小鳥のアンニン』	作品発表 ・ピアノ演奏	H20 年 11 月	日本作曲家協議会	第 24 回「こどもたちへ」にて新作初演。自作自演。 （於：紀尾井ホール）
⑫ラフマニノフ 『幻想的絵画』	ピアノ演奏	H21 年 12 月	静岡演奏家協会	静岡演奏家協会「音楽の贈り物コンサート」出演。 （於：静岡音楽館 AOI）
⑬ピアノ連弾曲 『笑顔いっぱい花いっぱい』	作品発表 ・ピアノ演奏	H22 年 3 月	日本作曲家協議会	第 25 回「こどもたちへ」にて新作初演。自作自演。 （於：紀尾井ホール）
⑭混声合唱曲 『登呂の木』 『森が荒れる』	作品発表	H22 年 5 月	みんなのコンサート実行委員会	第 6 回「みんなのコンサート」にて初演。 （於：静岡清水文化センター）
⑮ジュナン『椿姫』による幻想曲	ピアノ伴奏	H22 年 10 月	静岡演奏家協会	静岡演奏家協会定期演奏会にフルートのピアノ伴奏で出演。（於：静岡音楽館 AOI ）
⑯混声合唱曲 『茶っきりぶしの主題によるコンポジション』	作品発表	H23 年 2 月 H23 年 7 月	東京都大田区民コーラス・伊東混声合唱団	「大田区民コーラス 2011 年演奏会」にて初演。 （於：大田区アプリコホール）
⑰サンカン 『ソナチネ』	ピアノ伴奏	H23 年 10 月	静岡演奏家協会	静岡演奏家協会定期演奏会「世界音楽の旅」にフルートのピアノ伴奏で出演。（静岡音楽館 AOI）
⑱ピアノ連弾曲 『小さな赤いライオン』	作品発表 ・ピアノ演奏	H24 年 3 月	日本作曲家協議会	第 28 回「こどもたちへ」にて新作初演。自作自演。 （於：紀尾井ホール）
⑲声楽アンサンブルとVL, Piano 『春の輪舞曲』	作品発表	H25 年 3 月	ふじのくに文化芸術振興補助金事業	「春を呼ぶコンサート 2013」委嘱作品の初演。 （静岡音楽館 AOI）
⑳ピアノ独奏曲 『セキセイインコがみた夢』	作品発表	H25 年 3 月	日本作曲家協議会	第 28 回「こどもたちへ」にて新作初演。自作自演。 （於：紀尾井ホール）
㉑ライネッケ 『ソナタ』	ピアノ伴奏	H25 年 10 月	静岡演奏家協会議会	静岡演奏家協会定期演奏会「響秋」にフルートのピアノ伴奏で出演
㉒オペラ『猫の踊り場』（再演）	作品発表	H25 年 12 月	MEC	MEC「25 年 th 記念演奏会」にて自作オペラの再演。 （於：東京　王子ホール）
㉓バートン 『ソナチネ』	ピアノ伴奏	H26 年 4 月	浜松笛の会	浜松フルートフェスタにピアノ伴奏で出演 （於：浜松ヤマハホール）
㉔バートン 『ソナチネ』	ピアノ伴奏	H26 年 4 月	静岡演奏家協会	2014「瞬間の贈り物」にフルートのピアノ伴奏で出演 （静岡清水マリナート）
㉕マルティヌー 『ファースト・ソナタ』	ピアノ伴奏	H26 年 10 月	静岡演奏家協会	静岡演奏家協会定期演奏会「響秋」にフルートのピアノ伴奏で出演 （静岡音楽館 AOI）
㉖木管アンサンブル『富士山の主題によるコンポジション』 『羽衣幻想曲』	作品発表 ピアノ演奏	H27 2 月	静岡県文化財団 ふじのくに芸術祭 2015	ふじのくに芸術祭 2015 オープニングセレモニー開催の為に静岡文化財団より委嘱され、ふじのくにに関連する富士山、羽衣をテーマに作曲。自作自演。 （静岡県立美術館ホール）
㉗第11回みんなのコンサート混声合唱曲 『久能山』	作品発表	H27 年 5 月	みんなのコンサート実行委員会	第 11 回「みんなのコンサート」にて初演。 （於：静岡清水マリナート大ホール） 徳川家康公顕彰 400 年記念コンサートにおける編曲。 演奏：みんなのコンサート児童合唱団、みんなのコンサート混声合唱団
㉘『羽衣幻想曲』 改作板	作品発表 ・ピアノ演奏	H27 年 10 月	静岡県演奏家協会	静岡演奏家協会定期演奏会「響秋」にて改作初演 フルート、クラリネット、ピアノのために書かれた作品。 （静岡音楽館 AOI）

㉙木管アンサンブル『富士山』混声合唱付き	作品発表・ピアノ演奏	H28 年 2 月	静岡県演奏家協会	0 歳からの音楽コンサートの企画と出演。 0 歳～入場できる『第 2 回　演奏会に行ってみよう』コンサートにおける作品発表。ワンコインコンサートとして企画。
㉚ピアノ独奏曲『小龍包を召し上がれ』	作品発表・ピアノ演奏	H28 年 3 月	日本作曲家協議会	第 31 回「こどもたちへ」にて新作初演。自作自演。（於：紀尾井ホール）
㉛フルートソナタ	ピアノ演奏	H28 年 11 月	静岡県演奏家協会	（静岡音楽館 AOI）静岡演奏家協会定期演奏会「響秋」にてピアノ伴奏
㉜ピアノ独奏曲『キルギスの大地の踊り』	作品発表・ピアノ演奏	H29 年 3 月	日本作曲家協議会	第 32 回「こどもたちへ」にて新作初演。自作自演。（於：紀尾井ホール）
㉝フルートとピアノのための「グランドポロネーズ	ピアノ演奏	H29 年 12 月	静岡県演奏家協会	静岡音楽館 AOI）静岡演奏家協会定期演奏会「響秋」にてピアノ伴奏
㉞ピアノ独奏曲『ゆめのブランコ』	作品発表・ピアノ演奏	H30 年 2 月	日本作曲家協議会	第 33 回「こどもたちへ」にて新作初演。自作自演。（於：紀尾井ホール）
㉟ピアノ独奏曲『シベリア幻想曲』	作品発表	H30 年 6 月	ムジか・ベラ	望月たけ美作曲 第 30 回「音楽の夕べ」にて新作初演。「シベリア幻想曲」同タイトルの小説の出版に伴い、作家より作品を委嘱された。（静岡 AOI 音楽館）
（表彰等）	H6 年 3 月		第 17 回　文化庁舞台芸術創作奨励賞および特別賞受賞 オペラ作曲部門　第 1 位　　台本・作曲：望月たけ美	

専任教員教育研究業績

平成30年4月30日

氏名	ふりがな	所属学科	職位	性別
上野　文枝	うえの　ふみえ	保育学科	学科長 教授・准教授・(講師)・助教	男・(女)

担当科目名	学内委員会等（委員長）
社会的養護・社会的養護内容・相談援助・保育実習指導Ⅰ・保育実習指導Ⅲ・保育実習Ⅰ（施設）・保育実習Ⅲ・生活実践Ⅰ（保育グッズ手作り講座）・生活実践Ⅱ（女性のライフデザイン）・ゼミナール・サービスラーニング	おだたん人間成長講座運営委員 「短大通信」編集委員

学歴

和暦（西暦）年　月	事項	学位
昭和53年4月	奈良女子大学家政部被服学科　入学	
昭和57年3月	奈良女子大学家政部被服学科　卒業	
昭和58年4月	奈良女子大学大学院家政学研究科（修士課程）被服学専攻入学	
昭和60年3月	奈良女子大学大学院家政学研究科（修士課程）被服学専攻修了	家政学修士
平成11年4月	東京福祉商経専門学校社会福祉士養成通信課程入学	
平成13年3月	東京福祉商経専門学校社会福祉士養成通信課程修了	
平成14年4月	大正大学大学院人間学研究科（博士前期課程）社会福祉学専攻入学	
平成17年3月	大正大学大学院人間学研究科（博士前期課程）社会福祉学専攻修了	社会福祉学修士
平成22年4月	奈良女子大学大学院人間文化研究科社会生活環境学講座（博士後期課程）入学	

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
社会福祉法人東京都福祉事業協会母子生活支援施設スタルト方南	平成10年4月～平成17年2月	母子指導員
学校法人小池学園東萌保育専門学校　専任講師	平成17年4月～平成19年3月	「児童福祉論」「保育実習指導」「障害児保育」「社会福祉」「養護内容」「養護原理」等担当
皇學館大学社会福祉学部助手	平成19年4月～平成20年9月	社会福祉士/保育士/介護福祉士/教育実習等の実習事務・相談・学生支援
皇學館大学社会福祉学部助教	平成20年10月～平成25年3月	社会福祉援助技術現場実習・実習指導 平成23年度より「現代と福祉」「児童・家庭福祉論」「公的扶助論」等担当
皇学館大学現代日本社会学部　助教	平成25年4月～平成27年3月	担当科目：「現代と福祉」「児童・家庭福祉論」「公的扶助論」「社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ・Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」「スクールソーシャルワーク論」「現代日本演習Ⅱ」「リーダーシップ・セミナー」「介護等体験」
小田原短期大学保育学科講師	平成27年4月～現在	担当科目：「社会的養護」「社会的養護内容」「相談援助」「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習Ⅲ」
静岡福祉大学子ども学部子ども学科　非常勤講師	平成28年4月1日～現在	担当科目：「社会的養護」「社会的養護内容」

所属学会等

名称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）
日本社会福祉士会会員	平成13年5月～現在	会員
日本社会福祉学会	平成19年7月～現在	会員
日本学校ソーシャルワーク学会会員	平成20年4月～現在	会員
日本子ども虐待防止学会	平成21年11月～現在	会員

日本家政学会家族関係学部会会員	平成22年7月～現在	会員
日本ジェンダー学会会員（～現在に至る）	平成22年12月～現在	会員
日本保育者養成教育学会会員	平成29年2月～現在	会員

社 会 活 動 等		
名　称	活動期間	活 動　内 容
東京都社会福祉協議会母子福祉部会調査研究委員会委員	平成13年4月 ～平成15年3月	2 年毎に実施する東京都内の母子生活支援施設の調査研究と報告書の作成
皇学館大学地域福祉文化研究所「ちょっとちょっと講義」	平成22年5月26日	研究所主催の地域住民向け講座において、「「現代日本でご飯を食べられない子どもたち―子どもの貧困と世代間連鎖の問題を考えるー」のテーマで講座を行なった。
皇学館大学社会福祉学部月例文化講座	平成22年10月16日	「現代日本でご飯を食べられない子どもたち―子どもの貧困と世代間連鎖の問題を考えるー」のテーマで講座を行なった。
高大連携授業	平成22年11月16日	三重県立名張高校における高大連携授業にて、「母子及び寡婦福祉法」 1コマ（90分）を担当する。
社会福祉法人明照浄済会理事	平成24年4月～現在	児童養護施設、母子生活支援施設、児童館、児童家庭支援センター等を運営する社会福祉法人の理事
名張市要保護児童対策及びDV対策地域協議会代表者会議	平成24年5月 ～平成27年3月	名張市の要対協において、大学を代表して出席
社会福祉法人青松園評議員	平成25年5月 ～平成27年4月	特別養護老人ホームを運営する社会福祉法人の評議員
伊勢市男女共同参画事業	平成26年11月14日	伊勢市人権施策推進協議会（事務局：伊勢市人権政策課）のセミナーにて講演を行った。テーマは「働く場における女性の人権について」、対象は伊勢市内の関係官庁、市民団体、学校関係、市職員、40名程度。
学校法人三幸学園　階層別研修　STEP３ 講師	平成28年9月28日	「子育て支援　①虐待・気になる子への対応」のテーマにて、保育所の中堅保育士対象の研修を行った。
公益財団法人神奈川県立私立幼稚園連合会教員免許状更新講習講師	平成27年10月25日	「子どもを取り巻く家庭環境と保育者の視点―児童虐待、DV,貧困などへの理解と対応―」 講師として免許更新対象の幼稚園教諭等の講習を行った。
公益財団法人神奈川県立私立幼稚園連合会教員免許状更新講習講師	平成28年10月30日	「子どもを巡る家庭の諸問題と相談援助」 講師として免許更新対象の幼稚園教諭等の講習を行った。
学校法人三幸学園名古屋こども専門学校　保育課教育課程編成委員会委員	平成29年2月1日 ～平成31年3月31日	名古屋こども専門学校における保育士養成課程教育に関する助言等を行う委員会委員となる。
伊勢原市立石田小学校３年生総合学習：福祉授業	平成29年6月29日	3年生3クラス対象に、社会福祉を理解する授業を行う。テーマ「福祉を学ぼう―ノーマライゼーションの世界―」
小田原市子育て支援研修講師	平成29年8月28日	小田原市で子育て支援に携わるスタッフ、民生・児童委員を対象とした研修を行った。テーマ「社会的養護が必要な子ども・親」

学校法人三幸学園　階層別研修　STEP3 講師	平成 29 年 10 月 3 日	「子育て支援　①虐待・気になる子への対応」のテーマにて、保育所の中堅保育士対象の研修を行った。
平成 29 年度神奈川県社会福祉協議会施設部会研修会～若者世代にとっての“福祉”とは。働くことへの意識と関心～シンポジウム	平成 30 年 2 月 8 日	社会福祉施設の運営者を対象とした人材育成に関するシンポジウムにシンポジストとして、小田原短期大学の施設実習と就職傾向について紹介した。

担当教科目に関する資格・免許等

名称	取得年月	取得機関
中学校教諭一級普通免許家庭　昭和五六高二普第一二七八号	昭和 57 年 3 月	奈良教育委員会
高等学校教諭二級普通免許家庭　昭和五六中一普第一二三九号	昭和 57 年 3 月	奈良教育委員会
高等学校教諭一級普通免許家庭　昭和五九高一普第九八号	昭和 60 年 3 月	奈良教育委員会　公益財団法人社会福祉振興・試験センター
社会福祉士（登録番号第 29098 号）	平成 13 年 5 月	公益財団法人社会福祉振興・試験センター
訪問介護員養成研修 2 級課程修了	平成 17 年 3 月	ベネッセ

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 1.社会福祉施設の理解を深めるために―これからの実習教育のあり方―	共著	平成 18 年 3 月	樹村房	福祉関係の人材養成においては、施設実習のあり方が重要であると考え、養成機関・受け入れ施設双方の視点を踏まえて論述されている。また、一般の地域住民とのかかわりについても視野に入れて、広く人材養成を目指す視点を盛り込んでいる。特に、具体的な事例を交えている点で、学生や一般住民にもわかりやすく、実習の果たすべき役割を明確にしている。吉澤英子・吉田眞理編著
2．平成22年度社会福祉学部月例文化講座13「開かれた時代の開かれた福祉」スクールソーシャルワークの可能性―福祉と教育の協働―	共著	平成 23 年 4 月	皇學館大学出版部	平成 22 年度社会福祉学部月例文化講座 13「開かれた時代の開かれた福祉」において、講演を担当し、その後、同名の書籍として出版した。最近クローズアップされてきているスクールソーシャルワークについて一般市民にわかりやすく紹介した。スクールソーシャルワーカー活用事業の経緯と国内外の取り組み、今後の課題と可能性について示した。
3.現場のエピソードに学ぶ保育士受験対策講座　社会的養護	単著	平成 28 年 10 月	株式会社クリエイト	保育士試験の対策講座として、社会的養護の過去問を踏まえ、読みやすくわかりやすいテキストである。特に、事例を多く挿入し、社会的養護の現場に即した理解しやすいものとなっている。 吉田眞理監修
4．よくわかる、心にひびく、はじ	共著	平成 29 年 6 月	萌文書林	小田原短期代が鵜保育学科の教員の合同執筆による、保育者を目指す方達への入門書。

めの一歩　保育入門テキスト				
5.実習生の日誌事例から考察する社会的養護内容	共著	平成 29 年 9 月	大学図書出版	学生の実習日誌に記された多くの事例の考察を通して、保育士を目指して「社会的養護内容」を学ぶ学生が、実際の施設実習などの体験を再考し深めていくための学習の書である。様々な施設実習の疑似体験を通して、今後のキャリアアップに大きな力をつけていけるような内容である。 雨宮由紀枝・下尾直子他
6．保育する力	共著	平成 30 年 3 月	ﾐﾈﾙｳﾞｧ書房	「保育」の仕事全般への理解を深めるためのテキスト的な内容。指導計画の立て方や行事の進め方、食育の指導のコツ、保護者への対応、園の運営など、子どのを健康、安全に預かるということの他にも子どもの成長を手助けする役割が求められる保育士にとって、あらかじめ知っておきたい保育士の仕事の中身をイラストや図表で分かりやすく紹介している。吉田眞理監修学校法人三幸学園子ども未来会議逼
（学術論文） 1．DV・PTSD・虐待など精神的ケアを必要とする母親に対するケースワークを考える―母子生活支援施設における日常生活支援を通して―	単著	平成 20 年 2 月	皇學館大学社会福祉論集　第 10 号（皇學館大学社会福祉学会）	母子生活支援施設に入所した精神的課題を抱えた母子のケースに対する援助のあり方をケースワークの原則に沿って分析・考察した。さらに、日常の生活場面を通して、如何に効果的な支援を行うか、それによりクライエントのエンパワメント促し、問題解決に向かう課程を分析・考察した。
2．子どもの健やかな成長を保障する社会の実現に向けて　―母子生活支援施設におけるマルトリートメントからの考察―	単著	平成 20 年 3 月	皇學館大学会福祉学部紀要　№10（皇學館大学社会福祉学部）	母子生活支援施設に入所する母子について、家庭崩壊の要因をまとめるとともに、それらによって子どもの養育環境にも大きな影響を及ぼしていることを事例を元に考察した。児童虐待として見える以前の問題をマルトリートメントの観点で述べ、予防対策の必要性を示した。
3．母子家庭の自立支援の現状と課題―元母子生活支援施設利用者へのインタビュー調査から―	単著	平成 21 年 3 月	皇學館大学社会福祉論集　第 11 号（皇學館大学社会福祉学会）	母子生活支援施設を利用したことのある母子世帯の母親にインタビュー調査を行い、利用者としての視点から、施設を利用したことをどのように捉えているか、また、退所後の施設との関係や現在の生活について、子育てや自立の問題を中心に聞き取りを行い、そこからアフターケアのあり方や地域資源の活用や連携について考察した。
4．母子家庭の就労支援について―母子生活支援施設における就労支援からの考察―	単著	平成 21 年 3 月	皇學館大学社会福祉学部紀要　№11（皇學館大学社会福祉学部）	母子家庭の置かれている現状と施策について、ある母子生活支援施設における就労支援と経済的自立の状況を 80 例から分析した。学歴、就労支援の効果、DV 等の影響、職業訓練の効果の有無との関係を検証し、自立支援のあり方について考察した。さらに、効果的な就労支援のためには生活全体の総合的支援が必要であることを示した。

５．生育上の家族関係と生活困難の世代間連鎖について―A 母子生活支援施設における事例からの考察―	単著	平成 22 年 3 月	皇學館大学社会福祉学部紀要　№12（皇學館大学社会福祉学部）	母子生活支援施設では、様々な生活困難を抱えた母子の支援を行っているが、困難を抱える要因として母親の成育歴や家族関係が影響している点に焦点を当て、A 母子生活支援施設の事例を分析し、現状を示した。また、その結果と平成 21 年に実施された（財）こども未来財団による全国調査の結果を比較検討することで、母子生活支援施設入所者に対する支援のあり方を考察した。さらに、生活困難を抱えたひとり親家庭において、世代間で問題が引き継がれていく可能性について論じた。
６．現代日本における教育と福祉の協働―スクールソーシャルワーカー活用事業の経緯と今後の展望―	単著	平成 23 年 3 月	皇學館大学社会福祉学部紀要　№13（皇學館大学社会福祉学部）	スクールソーシャルワーカー活用事業の導入の経緯と導入後の各自治体の取り組みについて、文献、調査研究結果を元にまとめた。学校における福祉的な支援の必要性が高まる今日、教育と福祉の協働を如何に進めていくか、課題は多い。2008 年度の活用事業の創設までの経緯と、その後の運営の状況、政策や制度の経緯を踏まえた上で、現在の問題点を明らかにし、今後に向けての課題について論じた。
７．母子生活支援施設利用者の家族関係と社会資源の活用に関する事例研究―元利用者に対する聞き取り調査から―	単著	平成 24 年 3 月	皇學館大学紀要　第五十輯（皇學館大学）	母子生活支援施設を退所した母子家庭の母親に対し、施設利用前、利用中、退所後の生活と人間関係について聞き取り調査を行い、語られた内容からそれぞれの時期における人間関係や社会資源の活用について抽出し、分析したものである。
８．日本の母子家庭に対する福祉政策の現状と課題	単著	平成 25 年 3 月	皇學館大学紀要　第五十一輯（皇學館大学）　107 頁～129 頁	"日本の母子家庭の 8 割以上の母親は働いているにも関わらず、貧困状態にある。この現状について、日本政府がどのような取り組みを行ってきたか、特に平成 14 年度以降の政策を中心に考察を行った。児童扶養手当支給額を抑える一方で、就労支援に力を入れるとされた政策は母子家庭全体の所得を底上げするだけの効果は見られていない。女性の就労全体を視野に入れて対策を立てる必要があると考えられる。
９．高等学校における教科「福祉」のあり方について―福祉科の動向と課題	単著	平成 26 年 3 月	皇學館大学紀要第五十二輯(皇學館大学)	高等学校において、1999 年告示の学習指導要領に教科「福祉」が新設され、2009 年に改定が実施されたが、これにより体制を整えるために苦慮している状況が見られる。本研究では、これまでの高等学校における教科「福祉」の導入と改訂の経緯をたどりながら、高等学校における福祉教育と人材養成についての現状と課題について考察した。
10．母子生活支援施設の歴史と DV 被害母子への支援～明治から現代のニーズの変遷を踏まえて～	単著	平成 26 年 3 月	現代日本論叢第 4 号(皇學館大学現代日本社会学部)	母子生活支援施設は、明治期から今日まで母子家庭のおかれている時代的背景に左右されながら変遷してきた。そして、高度経済成長期からその数は減少の一途を辿っている。本稿では、その背景に母子生活支援施設が「かけこみ寺」と称される緊急保護を要する母子への対応を担ってきたことに注目し、現代の日本社会における存在意義を論じた。今後も DV 対応や生活困難母子に関してニーズが見込まれるが、地域的偏在や運営上の課題がある。

11．母子寮及び父子寮に関する研究―ひとり親家庭に対する施策の変遷について―	単著	平成 26 年 8 月	日本ジェンダー研究（日本ジェンダー学） 第 17 号	母子寮と父子寮の変遷と存在意義を比較しながら、時代背景との関係も含めて考察した。ジェンダーの視点から、母子家庭には法制化された支援が充実してきた一方で、父子に対する福祉的支援は必要とされながらも最近まで置き去りにされてきた状況を明らかにした。
12．イギリスの NHS におけるバースセンターの役割―出産と子育ての連続性の視点から―	単著	平成 27 年 3 月	皇學館大学紀要第 53 輯	2014 年 3 月 22 日～25 日、ロンドン市を中心に 5 箇所のバースセンターを訪問し、助産師から設立の経緯や病院とセンターの関係、出産と子育てと助産師の役割等について聞き取り調査を行った。イギリスのマタニティ政策の中で、出産がどのように扱われ、助産師の役割と意識を明らかにした。出産の脱医療化、NHS 制度によるすべての国民に平等な出産の場の提供、女性が主体的に出産の場を選ぶことと産後ケアと子育てとの連続性など、現地で直接調査し、施設設備を見学することで、イギリスの出産と子育てについての実情把握を行い、日本の現状との比較検討を行った。
13. 英国の NHS 管轄のマタニティケア・システムとバースセンターの実態	共著	平成 27 年 3 月	愛知県立大学看護学部紀要 Vol.21	英国 NHS 管轄のマタニティケア・システムとバースセンターの実態把握のためにロンドン市内と周辺の 6 か所のセンターにて、助産師へのインタビュー調査を行った。助産師がどのように妊産婦のケアを行っているかを調べ、日本の助産師の意識との違いを明らかにした。
（その他） (学会発表) １．新カリキュラムにむけた社会福祉援助技術現場実習の現状と課題―近畿･東海地域アンケート調査の結果を参考にして―	共同	平成 20 年 10 月	日本社会福祉学会（大会名：日本社会福祉学会全国大会 開催場所：岡山県立大学)	社会福祉士養成が新カリキュラムに対応するにあたり、実習施設・機関に対するアンケート調査を実施、その内容を報告するとともに、問題点が明らかになった。新しい体制を求められる実習受け入れ側の混乱と情報不足、今後の課題について報告を行った。
２．母子生活支援施設入所者の家族関係について―入所前から退所後の変化に関する考察―	単独	平成 22 年 10 月	(社)日本家政学会家族関係学部会（大会名：第 30 回家族関係学セミナー　開催場所：ピアザ淡海滋賀県立県民交流センター)	母子生活支援施設の元利用者に対する聞き取り調査によって得られたデータから、家族関係を中心にまとめ、入所直前と退所後の変化について考察した。また、インフォーマルな社会資源とフォーマルな社会資源についても、家族の変化とどのような関係があるか、考察した内容を発表した。
３．母子寮および父子寮に関する研究―ひとり親家庭に対する施策の変遷について―	単独	平成 26 年 11 月 30 日 平成 14 年 5 月	日本社会福祉学会（大会名：日本社会福祉学会第 62 回秋季大会　開催場所：早稲田大学)	明治以降に設立された母子寮は法的に規定されながら変遷し今日に至っているが、父子家庭のための施設はない。日本においてひとり親を対象とする法律は、1937 年に制定された母子保護法が最初だが、父子福祉については、法律の外にあったと言える。本研究では、母子寮と父子寮の存在意義と施策が時代背景の中でどのように変遷してきたのか、特に父子寮の存在に注目しながら、今日のひとり親家庭支援につながる点を中心に調査研究した結果を発表した。

４．イギリスの助産師を通してみる出産と子育ての連続性―バースセンターの助産師への聞き取り調査から―	単独	平成 27 年 9 月 20 日	日本社会福祉学会（大会名：日本社会福祉学会第 63 回秋季大会　開催場所：久留米大学）	英国ロンドンにある NHS が運営するバースセンターで働く助産師に対し、出産と医療の関係、妊娠期から産後の子育て支援の現状について聞き取り調査を行った。ハイリスク出産や産後の子育て支援への引き継ぎの状況について、ポスターによる発表を行った。
(報告書) １．平成 14 年度東京の母子生活支援施設実態調査	共著	平成 15 年 3 月	社会福祉法人東京都社会福祉協議会母子福祉部会	東京都内 37 か所の母子生活支援施設とその利用者を対象として質問紙による調査を行い、利用者サービス、施設機能の向上に寄与すべく報告書として出版した。植山つる児童福祉研究奨励基金対象研究。
２．板橋区の子育て支援サービスに対する利用者側からの評価～板橋区との共同調査を通じて～	共著	平成 16 年 3 月	大正大学大学院人間科学研究科	大正大学大学院児童家庭福祉研究班において、板橋区と共同調査を実施、区内の子育て世帯 1001 通の調査票より、地方自治体の子育て支援システムのあり方を考察した。
３．板橋区における子育て支援事業のあり方に関する研究～板橋区との共同調査を通じて～	共著	平成 17 年 3 月	大正大学大学院人間科学研究科	前年度に実施した板橋区における子育て世帯に対する調査において、クロス集計と自由記述の分析を実施し、質的分析についてまとめた。
４．児童家庭福祉における母子生活支援施設の役割と今後の展望―事例研究からのアプローチ―	共著	平成 17 年 3 月	大正大学社会福祉学会　鴨台社会福祉学論集第 14 号	母子生活支援施設における 72 の事例について、入所前・入所中・退所時・退所後の時系列で支援内容、その時の状況を分析した。修士論文の要旨として掲載。
５．世界のお産紀行　英国バースセンター訪問記	共著	平成 26 年 12 月 26 日	助産雑誌第 68 巻第 12 号	平成 26 年 3 月にロンドン市を中心に NHS が運営するバースセンター6 箇所を訪問、助産師への聞き取り調査と参与観察を行った。他国のお産事情を紹介する内容として助産雑誌に寄稿し、施設紹介として掲載された。調査研究はユニベール財団による助成金により実施された。 【共著】編者名及び共著者名：山名香奈美・神谷摂子・上野文枝・松岡悦子　掲載頁：1094 頁～1098 頁
６．女性の生き方と妊娠・出産･子育て―イギリスのバースセンターを調査して	共著	平成 27 年 3 月	ユニベール財団助成事業	2014 年 3 月に実施したイギリスのロンドン市を中心としたバースセンターの助産師への聞き取り調査の報告書。NHS 制度における脱医療化の出産の現状について助産師の語りを通して調査、そこから女性の働き方や生き方を探り、日本社会との比較を試みた。　ユニベール財団の助成金を活用した共同研究であり、報告分担の中で、本件を取り扱った。 編者名及び共著者名：松岡悦子、山名香奈美、神谷摂子、上野文枝
(教材) １．福祉のたね	共著	平成 21 年 2 月	皇學館大学出版部	皇學館大学社会福祉学部 10 周年の記念出版として、高校生に配布する冊子を作成。「スクールソーシャルワーク」「福祉社会」の項目を執筆した。
２．実習の手引き	共著	平成 22 年 3 月	皇學館大学社会福祉学部実習支援室	社会福祉士及び介護福祉士法の改定により、実習が新カリキュラムとなった。これに伴い、実習指導で使用する実習の手引と日誌を作成した。

３．免許状更新講習テキスト	単著	平成27年10月25日	公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会	「児童家庭福祉の視点から見た子どもの今日」 児童虐待、DV、子どもの貧困、ひとり親家庭など、子どもを取り巻く家庭環境から来る様々な福祉課題を紹介し、児童家庭福祉の視点から幼児教育・保育の場面でどのような対応が必要かを考える。
４．免許状更新講習テキスト	単著	平成28年10月30日	公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会	「子どもを巡る家庭の諸問題と相談援助」 児童虐待、DV,子どもの貧困、子どもを巡る家庭の問題を取り上げ、社会的視点で現状を捉えるとともに幼稚園での保護者対応に必要な相談援助の方法を考える。

その他　(表彰等) 奨励賞	平成17年3月	大正大学社会福祉学会より修士論文に対する奨励賞

専任教員教育研究業績

平成 30 年 4 月 1 日

氏名	ふりがな	所属学科	職位	性別
小倉　直子	おぐら　なおこ	保育学科	講師	女

担当科目名	学内委員会等
障害児保育Ⅰ、障害児保育Ⅱ、言葉指導法、生活実践Ⅱ「子どもの発達と遊び」、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ（施設）、卒業研究（ゼミナール）、サービスラーニング、おだたん人間成長講座Ｃコース地域グループ	おだたん人間成長講座運営員会、マロニエ合同運営協議会、Ｉプロジェクト

学歴

和暦（西暦）年　月	事項	学位
平成 2(1990)年 4 月	京都大学 教育学部 入学	
平成 7(1995)年 3 月	京都大学 教育学部 教育学科 卒業	学士（教育学） 第 2420 号
平成 7(1995)年 4 月 ～平成 9(1997)年 3 月	東京都立大学 人文科学研究科 修士課程 科目等履修生	
平成 10(1998)年 4 月	龍谷大学 文学研究科 教育学専攻（教育心理学）修士課程 入学	
平成 12(2000)年 3 月	龍谷大学 文学研究科 教育学専攻（教育心理学）修士課程 終了	修士（文学）
平成 12(2000)年 4 月	龍谷大学 文学研究科 教育学専攻（教育心理学）博士後期課程 入学	
平成 15(2003)年 3 月	龍谷大学 文学研究科 教育学専攻（教育心理学）博士後期課程 単位取得満期退学	

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
横田小児科医院 「発達と育児の相談室」	平成 12(2000)年 9 月 ～平成 28(2016)年 2 月	発達相談員（非常勤）、ペアレント・トレーニング
南足柄市 障害児童デイサービス「くまさん教室」	平成 16(2004).年 4 月 ～平成 21(2009)年 2 月	心理相談員（非常勤）（市内保育園・幼稚園巡回相談を含む）
藤沢市 母子保健事業	平成 16(2004)年 4 月 ～平成 17(2005)年 3 月	乳幼児健診 心理相談員（非常勤）
三島市 母子保健事業	平成 16(2004)年 4 月 ～平成 18(2006)年 3 月	乳幼児健診 心理相談員（非常勤）
熱海市 母子保健事業	平成 16(2004)年 4 月 ～平成 21(2009)年 3 月	乳幼児健診、親子教室、園巡回等 心理相談員（非常勤）
伊東市 母子保健事業 他	平成 17(2005)年 4 月 ～平成 21(2009)年 3 月	乳幼児健診、親子教室、園巡回、児童発達支援事業「さくら保育園」、幼稚園等 心理相談員（非常勤）＊単発で現在に至る
常葉学園短期大学	平成 17(2005)年 4 月 ～平成 23(2011)年 3 月	保育科　非常勤講師 2005 年「カウンセリング」、2006～2011 年「年齢と子どもの発達」
南足柄市 教育委員会	平成 20(2008)年 4 月 ～平成 26(2014)年 3 月	就学相談　心理判定員（非常勤）
足柄上郡 中井町 母子保健事業	平成 21(2009)年 4 月 ～平成 22(2010)年 3 月	乳幼児健診、園巡回、子育て支援センター 等　心理相談員（非常勤）
南足柄市 母子保健事業	平成 21(2009)年 4 月 ～平成 24(2012)年 6 月	乳幼児健診 心理相談員（非常勤）
足柄上郡5町 障害乳幼児地域訓練会「ひまわり教室」	平成 22(2010)年 4 月 ～平成 26(2014)年 3 月	心理相談員（非常勤）、ペアレント・トレーニング
小田原市 教育委員会	平成 22(2010)年 4 月 ～平成 28 年(2016)年 3 月	就学相談　心理判定員（非常勤）
小田原市 早期発達支援事業	＊平成 22(2010)年 4 月～ 平成 24(2012)年 4 月～現在	＊2010～12 年はモデル事業（公立保育園巡回相談） 市内保育園・幼稚園巡回相談 心理相談員　（非常勤）
足柄上郡 大井町 母子保健事業	平成 23(2011)年 4 月 ～平成 24(2012)年 3 月	乳幼児健診 心理相談員（非常勤）

小田原市 母子保健事業	平成 23(2011)年 4 月～ ～平成 28(2016)年 3 月	心理相談員（非常勤）
小田原市「子ども発達相談」	平成 24(2012)年 4 月 ～平成 28(2016)年 3 月	心理相談員（非常勤）
小田原短期大学	平成 26(2014)年 4 月～ 平成 27(2015)年 4 月～ 平成 28(2016)年 4 月～	保育学科 非常勤講師 「障害児保育Ⅰ」「障害児保育Ⅱ」 保育学科 特任講師 保育学科 講師（現職）

所 属 学 会 等		
名 称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）
日本応用心理学会	平成 10(1998)年～	平成 10 年、11 年、12 年 学会発表、平成 22 年 大会企画シンポジウム話題提供
心理科学研究会	平成 11(1999)年～	平成 17 年 ミニシンポジウム話題提供
日本発達心理学会	平成 11(1999)年～	平成 22 年 自主シンポジウム話題提供
日本教育心理学会	平成 15(2003)年～	
日本臨床心理士会	平成 19(2007)年～	
日本外来小児科学会	（学会員ではない）	平成 17 年 学会発表、21 年 シンポジウム話題提供、22 年 セミナー話題提供、24 年 ワークショップ開催
日本特殊教育学会	平成 26(2014)年～	
日本保育学会	平成 27(2015)年～	
＜研究会、ほか＞		
全国障害者問題研究会	平成 3(1991)年～	
京都保育問題研究会	平成 10(1998)年～17(2005)年	
人間発達研究所	平成 10(1998)年～	平成 16 年 発達診断セミナー シンポジウム話題提供
全国保育団体合同研究会	平成 29 年～	0 歳児分科会世話人

社 会 活 動 等		
名 称	活動期間	活 動 内 容
湘南心理研究会 「コスモスの会」	平成 12(2000)年 9 月~	平成 21(2009)年より世話人（運営委員）
社会福祉法人泉会	平成 17(2005)年 7 月 ~20(2008)年 3 月 平成 29(2017)年 6 月～	評議員（平成 22(2010)年 10 月~24(2012)年 1 月も） 理事
小田原市教育委員会就学支援委員会	平成 21(2009)年 4 月～	就学支援委員
小田原市いじめ防止対策調査会	平成 27(2015)年 4 月～	いじめ防止対策調査委員
小田原市総合計画審議会	平成 28(2016)年 8 月 ～11 月	審議会委員
＜小田原短期大学 乳幼児研究所での活動＞		
西湘子ども発達研究会 （「新版 K 式発達検査勉強会」より H26 年名称変更）	平成 19(2007)年 6 月～	主催・SV 平成 27 年～ 小田原短期大学 乳幼児研究所にて主催 平成 29 年～臨床心理士の資格取得者のためのポイント申請が可能な定例型研修会として承認
ペアレント・トレーニング	平成 22(2010)年～	10 回講座 主催 （小田原市教育委員会後援） （平成 27 年～小田原短期大学乳幼児研究所にて主催） フォローアップグループ「つばさの会」
親と子どものための発達相談	平成 27(2015)年～	発達相談（予約制）
支援教育実践研究会	平成 28(2016)年～	定例研究会・「キミヤーズ塾@小田短」主催
現職保育者研修会	平成 29(2018)年 3 月～	定例研修会、年数回のオープン研修
＜三幸学園グループでの活動＞		
こども未来会議	平成 28(2016)年～	アドバイザーとして参加

ぽけっとらんど 研修	平成 28(2016)年～	研修講師　「障害児・気になるこども」、「月齢ごとの保育 0, 1, 2 歳」、「T トレ」 ＊平成 30 年度は「キャリアアップ研修」

担当教科目に関する資格・免許等

名　称	取得年月	取　得　機　関
応用心理士　第 222 号	平成 16 年 1 月	応用心理学会
臨床心理士　第17834号	平成 19 年 4 月	日本臨床心理士資格認定協会（平成 24 年 3 月、平成 29 年 3 月　資格更新）

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 1.　応用心理学辞典	共著	平成 19 年 1 月	丸善	応用心理学における学問的知見を、身近な事実から具体的に説明した辞典。3.発達心理学分野「そこで笑ってくれるからー乳児期前半の赤ちゃん」、「こどもの発達を支える仕事」を執筆。
2.　厳選　保育用語集	共著	平成 19 年 7 月	創成社	保育士試験に対応した保育の基礎用語集。発達心理学領域「発達検査と発達指数」「レディネス」「原始反射」「粗大・微細運動の発達過程」の項目、精神保健領域「精神遅滞」「ダウン症」「プラダー・ウィリィ症候群」「フェニールケトン尿症、クレチン症」「発達障害」「染色体異常」「統合保育」の項目を執筆。
3.　生活事例から始める保育の心理学	共著	平成 27 年 4 月	青踏社	「保育の心理学」テキスト、保育の中の生活事例を豊富にとりあげつつ、基礎編で心理学の基礎を、実践編で保育実践における事例を扱う。基礎編・第 5 章「子どもの発達評価」、実践編・第 3 章「保育における発達援助」第 4 章「発達援助における共働」を執筆。　宮川萬寿美・神蔵幸子編著、宇佐美かおる、金澤久美子、片山伸子、小倉直子
4.　保育者のための障害児保育―理解と実践	共著	平成 28 年 3 月	萌文書林	「障害児保育」テキスト。第 4 章（1）障害受容について　の部分を執筆協力。尾野明美 編著。
5.　生活事例から始める保育の心理学（改訂版）	共著	平成 30 年 3 月	青踏社	「保育の心理学」テキスト大幅改定版。第 2 章、「乳児期の発達」「幼児期（1～3歳）の発達」「幼児期（4～6歳）の発達」、第 3 章 第 5 節「発達の評価」、実践編事例。乳児から幼児の発達をコミュニケーションや言葉の発達、指導にも留意しまとめた。宮川萬寿美・神蔵幸子編著、宇佐美かおる、金澤久美子、片山伸子、杉﨑雅子、小倉直子
6.　保育内容「言葉」指導法	共著(編著)	平成 30 年 3 月	ミネルヴァ書房	「言葉指導法」テキスト。領域「言葉」のねらい及び内容についての理解を深めるだけでなく、具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身につけられるように配慮して作成した。執筆担当は第 2 章「子どもの発達と言葉」。馬見塚昭久・小倉直子 編著、宮川萬寿美、望月たけ美、杉﨑雅子、花岡清美、三浦正雄、安村由希子。
7.　保育する力	共著	平成 30 年 3 月	ミネルヴァ書房	現職保育士対象の研修テキストとして作成。Ⅰ-1-3「子どもとの関わりの原則とは」で適切なかかわりについて 、Ⅱ-2「月齢ごとの保育」ではそれぞれの発達段階における子どもの心の発達と指導上の留意点について、Ⅱ－5「個別性への支援」では配慮が必要な子どもへの支援と個別支援の実例について、Ⅳ-2「ティーチ

				ャーズ・トレーニング」子どもへの具体的な対応方法を、保育者対象の6回コースのプログラムとして構成。
（学術論文） 1. 1歳前半における発達連関の検討とコミュニケーション形態の変化―1次元可逆操作の獲得における「きざしの時期」の導入―	単著	平成17年9月	人間発達研究所 紀要 第17号 P2-25	1歳前半の7名の子どもの縦断調査から、運動面、認知面、対人言語面、自我の育ちにおける発達連関を分析。発達の質的転換期における各領域がどのように連関し、統合されていくのかについての、理論仮説モデルを作成した。発達心理学の理論において、同じ課題であっても、質的転換の前後でまったく別の意味を持つことについての論考。
2. 地域における非常勤心理職の連携の試みー「ひとりぼっち」の仕事は、もうしない！	単著	平成22年10月	発達 No.124 Vol.31 [特集]発達の早期支援に向けて　Ⅱ連携による早期支援の実践　ミネルヴァ書房 p27-34	自治体における非常勤の心理専門職として何をなすべきか、自身はこの神奈川西部の2市8町でどんな連携の仕組みを作ってきたか、の実践レポート。孤立しがちな非常勤専門職が、連携して顔の見える関係を作っていくことの困難さと重要性を示唆し、各地で奮闘する非常勤心理専門職へのエールとした。
（その他） 1.　カリフォルニア教育事情①～④	単著	平成16年3月～17年3月	人間発達研究所通信 No.95 、 No.96 、 No.99、No. 100	渡米生活で体験した現地保育園、小学校、語学クラスにおけるカリフォルニア教育事情をレポート。住むところ探しから始まり、保育園探し、現地の学校教育、土曜日の日本語学校、大人向けの語学クラス、サマースクール、子育て文化などについての報告。
2. 発達相談室の窓からー　発達の道すじ編	単著	平成20年1月～21年2月	横田小児科医院　院内報「こあら通信」第117～130号	横田小児科の院内報に、誕生前から青年期までの子どもの発達の道すじを、イラスト付きで保護者向けに分かりやすく解説。子育ての見通しを持ち、子どもたちの健やかな発達への心からの驚きと興味、敬意と共感を持ってもらえるよう、解説。
3.　発達相談室の窓からー　Q&A編	共著	平成23年5月～25年12月	横田小児科医院　院内報「こあら通信」第157～187号	「言葉が遅い」「指しゃぶり」「落ち着きがない」「園や学校に行きたがらない」など、子育ての様々な悩みに答えるQ&A。て安心して見守っていてよいことと、専門家に相談すべきポイントの両方を押さえた。執筆、杉崎雅子、小倉直子
4. ほめて育てる！子育てのコツ　はじめてのペアレント・トレーニング	単著	平成27年3月	小田原短期大学（平成27年度　神奈川県地方創生大学連携事業）	平成27年度神奈川県の地方創生大学連携事業において、小田原市教育委員会との協力で実施したペアレント・トレーニング8回講座の講座内容と報告をまとめた冊子。
5. ほめて育てる！子育てのコツ　コーナー連載	単著	平成28年5月～29年9月(予定)	小田原法人会機関紙「with」おだたん子育て支援ページ内 No. 275～283	「行動に注目する」「ほめ方のコツ」「指示の出し方」「スルー」「見て分かる表」などの、ペアレント・トレーニングに学ぶ子育てのコツを紹介。
その他　(表彰等)				

専任教員教育研究業績

平成 30年 6月 10日現在

氏名	ふりがな	所属学科	職位	性別
内山　絵美子	うちやま　えみこ	保育学科	学科長 教授・准教授・(講師)・助教	男・(女)

担当科目名	学内委員会等（委員長）
【通学】教育制度論／保育課程論／教育実習／教育実習指導／保育教職実践演習／職業と社会Ⅰ／ 【通信】教育原理／教育制度論／教育制度論・日本国憲法（特例）	通信学務委員会 EM（エンロール・マネジメント）委員会

学歴

和暦（西暦）年　月	事項	学位
平成15（2003）年4月	中央大学法学部政治学科　入学	
平成19（2007）年3月	中央大学法学部政治学科　卒業	学士（法学）
平成21（2009）年4月	筑波大学人間総合科学研究科教育学専攻（博士前期課程）入学	
平成23（2011）年3月	筑波大学人間総合科学研究科教育学専攻（博士前期課程）修了	修士（教育学）
平成23（2011）年4月	筑波大学人間総合科学研究科教育基礎学専攻（博士後期課程）入学	
平成29（2017）年3月	筑波大学人間総合科学研究科教育基礎学専攻（博士後期課程）単位取得退学	

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
㈱ジェイネット・コーポレーション	平成19年4月 ～平成20年1月	教材販売・営業
㈱パソナ・フォスター	平成20年2月 ～平成21年3月	渋谷区放課後子ども事業スタッフとして、渋谷区笹塚小学校内に設置された放課後子どもクラブで勤務。
筑波大学人間総合科学研究科ティーチング・フェロー（TF）	平成24年4月 ～平成26年3月	教員の授業を補佐する業務を行いながら、授業の組み立て方、講義や討論の技術、学生との接し方などを学ぶとともに、授業の一部を担当する。担当した授業は「教育法制論」。
共栄大学教職アカデミー特別研究員	平成25年4月 ～平成26年3月	毎週、学生の教員採用試験合格に向けた学習支援の相談員（職名：教育学部センター特別研究員）として勤務。
土浦協同病院附属看護専門学校非常勤講師	平成25年4月 ～平成26年3月	教育学を担当。
慈恵柏看護専門学校 非常勤講師	平成25年4月 ～平成26年3月	同上
日本大学文理学部 臨時職員	平成25年7月 ～平成25年12月	研究補助業務（データ入力、分析補助）
小田原短期大学専任講師	平成26年4月 ～（現在に至る）	教育制度論、教育実習、保育実習指導などを担当。
東京学芸大学教育学部 非常勤講師	平成27年9月 ～平成29年3月	教育経営学演習
國學院大學栃木短期大学人間教育学科非常勤講師	平成27年12月 ～平成29年3月	教育制度論
日本教育大学院大学 非常勤講師	平成27年4月 ～平成29年3月	教育法規特論、学校と地域連携特論 ※平成29年度より星槎大学大学院教育実践研究科へ
星槎大学大学院教育実践研究科　非常勤講師	平成28年4月 ～（現在に至る）	教育法規特論
玉川大学教育学部 非常勤講師	平成28年9月 ～平成30年3月	教育の制度と経営

所属学会等

名称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）
筑波大学教育学会	平成23年3月 ～（現在に至る）	編集委員会幹事（平成25年3月まで）

日本教育政策学会	平成23年5月 ～（現在に至る）	大会参加、学会発表、論文投稿など
日本教育行政学会	平成23年7月 ～（現在に至る）	大会参加、学会発表、論文投稿など 年報編集委員会幹事（平成28年10月～現在に至る）
日本教育制度学会	平成26年1月 ～（現在に至る）	大会参加、学会発表、論文投稿など
日本教育経営学会	平成26年1月 ～（現在に至る）	大会参加、学会発表、論文投稿など 選挙管理委員（平成30年月～平成30年6月）
日本スクールコンプライアンス学会	平成27年5月 ～（現在に至る）	理事推薦委員会委員（平成29年3月まで）
日本教師教育学会	平成27年9月 ～（現在に至る）	大会参加、学会発表、論文投稿など

社 会 活 動 等

名 称	活動期間	活 動 内 容
時事通信出版局『教員養成セミナー』	平成23年5月 ～（現在に至る）	連載全 12 回で採用試験の頻出領域を網羅した得点力アップのための問題演習を執筆。毎号「教育の基本理念」や「教育の目的・目標」、「学校と就学」」「教職員の服務と処分」などのテーマを設定。内容構成は、「一目でわかる」要点事項、練習問題、解答解説となっている。
協同出版『月刊　教職課程』	平成25年8月 ～平成28年3月	「合格力育成セミナー」のページでは教員採用試験の頻出領域について、知識の定着はかるために、「教育に関する法規」や「学校に関する法規」「教員に関する法規」など内容ごとに分けて練習問題の解答・解説、出題傾向と対策などを監修。
協同出版・協同教育研究会　公開講座（教員採用試験対策）	平成25年1月 ～（現在に至る）	教員採用試験の教職教養のうち「教育法規」「教育時事」に関して、基本的な用語、教育法規や教育政策の全体像、全国的な出題傾向について講義を行う。自治体ごとの出題傾向も踏まえ、関東の各自治体別の対策講座も行っている。
科学研究費助成事業基盤研究（C）「若手教員の育成プログラム開発および支援システム構築に関する総合的研究」（研究代表：共栄大学　和井田節子）	平成25年6月 ～平成28年3月	研究協力者
科学研究費助成事業基盤研究（B）「効果的な学校運営のための学校財務の実証的研究」（研究代表：日本大学　末冨芳）	平成25年7月 ～平成28年3月	研究協力者として、自治体へのアンケート調査、ヒアリング調査に参加。平成 26 年 6 月の日本教育経営学会では、主に海外の研究動向について報告を行う予定。
科学研究費助成事業基盤研究（B）「単位学校を超えた教育資源活用の実証的研究―学校横断型人的リソースを中心に－」（研究代表：日本大学　末冨芳）	平成28年4月 ～現在に至る	研究分担者

担 当 教 科 目 に 関 す る 資 格・免 許 等

名 称	取得年月	取 得 機 関
	年 月	

研究実績に関する事項				
代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 1.『教育委員会改革5つのポイント―「地方教育行政法」のどこが変わったのか』	共著	平成26年12月	学事出版	本書は、2013年に地方教委育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、60年ぶりに大きく変わる教育委員会制度について、何がどのように変わるのか、教育現場にはどのような変化が生じるのか、わかりやすく解説したものである。
2.『よくわかる、心にひびく、はじめの一歩 保育入門テキスト』	共著	平成27年3月	萌文書林	子どもたちの健やかな育ちを支える保育の仕事をわかりやすく紐解いたものである。Chapter1「仕事としての保育」（6～9頁）、Chapter9「保育者への道」（38頁~41頁）を執筆。
3.『生徒指導とスクール・コンプライアンス―法律・判例を理解し実践に活かす』	共著	平成27年12月	学事出版	本書は、いじめ防止対策推進法の成立や少年法の改正など、生徒指導にかかわる法や社会的背景が大きく変わるなか、その理解と対応について、具体的な判例などから解説している。「第5章　児童虐待の防止と学校の役割―予防から自立支援まで―」を分担執筆している。
4.『予算財務で学校マネジメントが変わる』	共著	平成28年4月	学事出版	本書は、どのような学校予算、財務のシステムが効果的なマネジメントを可能にするのか、ケーススタディや海外の事例を交えて検討したものである。（担当「第2章　学校マネジメント研究の国際的潮流」）
5.『JSCP双書4 教育課程論』	共著	平成28年5月	教育開発研究所	本書は、授業を計画的に組織していくために必要な「教育課程」についてその意義や編成の方法を学ぶことのできるものである。学習指導要領の意義、変遷や教育課程の編成における留意点など基本事項をわかりやすく解説している。（担当「第6章　幼稚園・小学校における教育課程の編成」）
6.『未来をつかむ学級経営―学級経営のリアル・ロマン・キボウ』	共著	平成28年9月	学文社	本書は、学級経営の実践と理論について、現代の具体的な課題と取り組みを分析・検討したものである。たとえば、学級づくりの現代的な課題とそれに応じる先進的な取り組みとアイデア、学級経営についての歴史・理論・視点、諸外国の動向（特徴、課題、取り組み）、学級経営論の将来的な指針と展望など、学級経営を深く理解することを目的とした。（担当「第7章学級の制度と歴史―学級の未来を考える」）。
7.『JSCP双書3 保育者・幼稚園教諭のための教育制度論』	共著	平成29年3月	教育開発研究所	本書は、できるだけ平易な表現を用いて教育制度わかりやすく解説するともに、その背後ある理念や社会状況、最新の改革動向を丁寧に論じこと試みています 。第1章から第9章までは基本的な制度について扱う総論内容、第10章から第14章までは具体的な教育課題に迫る各論的な内である。（担当：「第1章 教育制度とは何か 教育制度とは何か 教育制度とは何か」、「第14章　幼児期の教育をめぐる課題」を執筆。
8.『JSCP双書若手教師の成長をどう支援するか―養成・研修に生かす教職の基礎―』	共著	平成29年4月	教育開発研究所	本書は、若手教師をとりまく課題を念頭に置きながら、教職をめぐる課題を多角的な視点から考察したものである。教職の意義や、教師像からはじまり、学習指導、生徒指導、学校運営への参加や、教員の力量形成などさまざまなテーマについて深められる内容となっている（担当「第4章　児童生徒を伸ばす学習指導」）。

9.『保育の計画と評価―豊富な例で一からわかる』	共著	平成30年3月	萌文書林	本書は、幼稚園における教育課程、保育所における全体的な計画と評価に関する理論、作成と実践についてのテキストである。(担当:「第1章　教育・保育の計画と評価の基本」1頁～17頁、「第2章　幼稚園、保育所、認定こども園における教育・保育の計画」19頁～34頁、「第8章　教育・保育の評価と改善　2．カリキュラム・マネジメント」180頁～181頁)
10.『保育する力』	共著	平成30年3月	ミネルヴァ書房	本書は、幼稚園・保育施設における保育の質の向上を図るため、現場の管理職、教職員の研修テキストとして刊行されたものである。個人の能力向上だけでなく、組織的な保育力の向上、マネジメントに関する内容などが分かりやすく示されている。(担当:「第3章　運営管理　第3節 (2) 関係法令の理解」110頁～115頁)
(学術論文等)				
1.「文部科学省の学校教育の多様化政策――『専門性』と『参加』による教育の機会均等保障」(研究ノート:査読有)	単著	平成25年3月	筑波大学人間総合科学研究科教育基礎学専攻『教育学論集』第9集、131頁～154頁	本稿は、1980年代以降、教育の多様化の政策原理を、文部科学省と内閣や内閣設置審議会教育の政策を対比しながらその特徴と意義を明らかにした。文部科学省による多様化政策の特徴として、①内閣側が民間企業の参入と親の選択を重視したのに対し、教育委員会や教員など「専門性」による教育の提供と意思決定を重視したこと、②内閣側が「選択」のための多様化を求めたのに対し、文科省は「参加」による多様化を推進したことを明らかにした。
2.「義務教育費国庫負担制度改革における文部科学省の対応とその論理――地方分権と教育の機会均等保障との調整」(研究ノート:査読有)	単著	平成25年3月	筑波大学人間系教育学域『教育学系論集』第37巻、13頁～25頁	本稿は、地方分権改革の一環として2001年に始まった義務教育費国庫負担制度改革において、文部科学省が、分権化と教育の機会均等とをどう調整したのか、その論理を明らかにした。文科省は制度を維持したうえで、教員給与の水準と配分を地方に委ねるとした。そこでは制度という大枠だけでなく、標準法と人材確保法という一定の枠付けを維持し、さらに教員の評価と教育の成果の検証を行うことで、機会均等を維持することとした。
3.「ソーシャル・キャピタルの研究的・政策的課題――「自発的協力」の観点から」(査読無)	単著	平成25年3月	筑波大学学校経営研究会『学校経営学論集』第1号、1頁～11頁	本稿は、近年ガバナンスの文脈でも注目されているソーシャル・キャピタル (SC) 論について、「自発的協力」に着目し、研究上、政策上の課題を明らかにした。研究上の課題としては、SCの影響過程への着目あげられる。SCの存在の関係はブラックボックス化されている。また政策上の課題としては、対等な関係性の構築があげられる。エリートと一般市民の選好との乖離を回避するためには両者の対等関係が必要となるのである。
4.「教育政策形成における政府間関係の分析枠組み―動的相互依存モデルの可能性―」(査読有)	単著	平成26年3月	筑波大学人間系教育学域『教育学系論集』第38巻、1頁～13	本稿は、新たな教育政策形成における国と地方及び地方同士の相互影響関係を捉えるモデルとして、伊藤修一郎の動態的相互依存モデルの可能性を検討したものである。地方分権改革が推進され、地方が地域や学校の実情に応じた政策を実施するようになっており、特に特例的な仕組みをもつ教育分野において新たな取り組みを可能にする条件や、他の政府に与える影響を考察する枠組みとして有効であることを述べた。
5.「教育経営・行政に関する研究動向」	単著	平成26年11月	日本教育制度学会『教育制度学研究』第21号、238頁～244頁	本稿は、2013年度以降に公表された論文・書籍を対象とし、教育経営・教育行政に関する研究動向を整理するものである。近年の研究動向の大きな流れの一つは、「ガバナンス」や「政治」といったキーワードに代表されるように公教育における意思決定の在り方を再検討する流れである。もう一つは、人口減少や少子化・高齢化によって教育に関する財政的な制約が増す中での、教育活動を支える資源の確保や配分についての研究である。こうした研究を概観している。
6.「学校マネジメント研究の国際動向～学校財務に焦	単著	平成27年3月	小田原短期大学『小田原短期大学研究紀要』第45号、71頁～77頁	本稿は、学校マネジメントに関する研究の国際的な動向をあきらかにすることを目的としている。特に学校分権の先進国である英米では、①学校予算財務と児童生徒の教育達成に関

点を当てて〜」(研究ノート:査読有)				する研究、②予算権限のある校長・学校理事会の役割や能力に関する研究、③School Business Manager など事務スタッフに関する研究、④教員の財務マネジメントに関する能力育成に関する研究などが行われていた。
7.「A 県の取り組みにみる若手教員育成支援の現状と課題」	単著	平成 27 年 9 月	「初任期教員の育成プログラム開発および支援システム構築に関する総合的研究（科学研究費報告書)」、97 頁〜108 頁	本稿では、初任期教員の成長支援の観点から、育成プログラム及び支援システムについて A 県の取り組みを調査しまとめた。
（その他）				
1.「規制改革における学校の多様化政策への文部科学省の対応――コミュニティ・スクールの法制化に焦点を当てて」(口頭発表)	単著	平成 23 年 7 月	日本教育政策学会 第 18 回大会	本発表では、学校多様化政策のひとつであるコミュニティ・スクールが法制化されるまでの政策過程に焦点をあて、文部科学省の多様化政策の政策原理について報告を行った。具体的には、文部科学省があくまでも教育委員会など教育の「専門性」を前提とした学校の多様化を目指したことで、競争と選択ではなく保護者や地域住民の参加によって学校の多様化を図ったことは、新自由主義的改革から教育の原理を守ることにつながったことを指摘した。
2.「義務教育費国庫負担制度改革における文部科学省の対応とその論理――地方分権と教育の機会均等との整合性」（口頭発表)	単著	平成 24 年 3 月	筑波大学教育学会 第 10 回大会	本発表では、2001 年以降の義務教育費国庫負担制度改革の政策過程に焦点をあて、文部科学省の地方分権改革への対応とその論理について報告を行った。文部科学省は、国庫負担制度の本質である教育の機会均等＝教員給与の保障による「優秀な教員の確保」を維持するため、総額裁量制の導入及び国庫負担の減額と地方へ財源移譲を行うことで地方分権を図る一方、制度の維持と教員評価と給与の連動などによって、教員の質保証を行おうとしたことを明らかにした。
3．自治体発教育政策の国による採用とその影響――教育の機会均等保障の視点から」	単著	平成 24 年 10 月	日本教育行政学会 第 47 回大会	本発表は、自治体が独自に取り組み始めた教育政策が国によって採用され全国的に展開された事例のいくつかを取り上げ、その過程の特徴を抽出するとともに、その採用の背景と影響を検討することを目的とした。結果として動的相互依存モデルによって、自治体発教育政策が国によって採用されるプロセスを検討することで、地方分権と教育の機会均等との調整を観察できた。自治体での新たな政策の採用の中で、国では特例や例外として位置づける対応が行われること、その後、国での制度化によって例外が普遍化される（例外でなくする）ことなどが指摘できた。
4.「地方独自政策の波及における国の「介入」とその影響―少人数学級編制の導入を事例に―」（口頭発表)	単著	平成 25 年 10 月	日本教育行政学会 第 48 回大会	本発表では、少人数学級編制の導入と展開を事例に、各都道府県における導入と国の「介入」（＝政策採用）との関係について考察した。それを通じて地方が地域のニーズに応じた政策形成を行うための政府間関係の在り方について示唆を得ることが目的である。都道府県教育委員会への質問紙調査の結果から以下のことを指摘した。第 1 に、財政的支援がないと政策波及が促進されない可能性である。第 2 に、しかし一方で財政的支援を伴う介入は、地域のニーズに基づかいない政策採用も促すことである。
5.「効果的な学校運営のための学校財務の実証的研究(1)-学校レベルでの予算・財務の実態と課題を中心に-」	共著	平成 26 年 6 月	日本教育経営学会 第 54 回大会	効果的な学校運営のためには、学校の予算・財務面での自律性の拡大が不可欠であることから、本研究では(1)公立小中学校における効果的な学校運営のための学校予算の運用手法と組織体制の在り方、(2)学校運営に要するフルコスト(教職員給与やサポートスタッフ、運営経費を含めた総予算額)の算出し、学校へ委譲されるべき予算額や財務権限、アカウンタビリティの遂行体制の検討、(3)スクールリーダーや学校事務職員の専門性の向上について国内外の理論や専門職養成・研修の先進事例の検証を行う。今回の報告では（1）を中心に報告した。

6．Book Review『ゆとり教育』批判に根拠はあったのか？（雑誌記事）	単著	平成27年4月	『教職研修』521 号 p.112	「ゆとり」批判は、教育制度・政策批判か若者批判か、その複雑さを紐解いた書である、佐藤博志・岡本智周著『「ゆとり」批判はどうつくられたのか―世代論を解きほぐす』の書評。
7.「効果的な学校運営のための学校財務の実証的研究(2)-国内外の自治体・政府による学校支援体制を中心に-」	共著	平成27年6月	日本教育経営学会第55回大会	前年度に引き続き「学校のマネジメント空間の矮小化」に陥らない学校予算・財務制度の在り方を考えていく。スクールリーダーや学校事務職員の財務面での専門性の検証およびその向上策の検討、日本の学校運営、学校財務の課題・改善策を明確化するための国際比較分析を行うことで、学校単位でのマネジメントに影響を与える、自治体による予算制度設計、予算・権限委譲を含め、学校支援体制のインパクトや望ましいあり方を模索した。
8.『三幸保育カレッジテキスト　教育原理』	単著	平成 28 年 12 月	青踏社	保育士試験で保育士資格の取得を目指す人のための通信教育用教材である。保育士資格の取得に必要な教育原理の知識を事例を交えながらわかりやすく学ぶことができる。
9.「教育経営とクロススクール―理論の整理と日本・オーストラリアの先進事例の検討」	共著	平成29年6月	日本教育経営学会第56回大会	子どもや保護者の抱える課題の複雑化により単位学校組織での対応に限界がある一方、学校に対する児童生徒のアウトカムの拡張と向上がの期待が高まっており、何らかのイノベーションを引き起こし、学校改善を図っていくことが求められている。その方策としてクロススクール型教育経営（＝単位学校を越えた教育資源の共有と配分の仕組み）の有効性を探る研究である。（担当「A 市における学校間連携の検討」）
10.「教育経営とクロススクール（2）―日本とイギリスのケーススタディを中心に」	共著	平成30年6月	日本教育経営学会第57回大会	前年度に引き続き、クロススクール型教育経営について、日本の2自治体およびイギリスの Multi Academy Trust のケーススタディを発表した。（担当「C 市における学校間連携」）

その他　（表彰等）	平成26年　2月	筑波大学人間総合科学研究科ティーチング・フェロー（TF）優秀賞

専任教員教育研究業績

平成30年4月10日

氏名	ふりがな	所属学科	職位	性別
杉﨑　雅子	すぎざき　まさこ	保育学科	講師	女

担当科目名	学内委員会等（委員長）
保育の心理学Ⅰ、教育相談、保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱ、おだたん人間成長講座Ｂ（心理）コース、ボランティア活動、卒業研究（ゼミナール）	おだたん人間成長講座運営委員会 Ｉプロジェクト

学歴

和暦（西暦）年　月	事項	学位
平成　4（1992）年4月	早稲田大学　教育学部　教育学科　教育心理学専修　入学	
平成　8（1996）年3月	早稲田大学　教育学部　教育学科　教育心理学専修　卒業	学士（心理学）
平成　8（1996）年4月	早稲田大学大学院　教育学研究科　学校教育専攻　入学	
平成10（1998）年3月	早稲田大学大学院　教育学研究科　学校教育専攻　修了	修士（教育学）

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
小田原市　心の教室相談員	平成10（1998）年11月 ～平成13（2001）年3月	児童生徒・保護者・教職員のカウンセリング・コンサルテーション等
平塚市子ども教育相談センター　スクールカウンセラー	平成12（2000）年4月 ～平成14（2002）年3月	生徒・保護者・教職員のカウンセリング・コンサルテーション等
横浜市　スクールカウンセラー	平成14（2002）年4月 ～平成16（2004）年3月	生徒・保護者・教職員のカウンセリング・コンサルテーション等
小田原市　スクールカウンセラー	平成14（2002）年4月 ～平成29（2017）年3月	児童生徒・保護者・教職員のカウンセリング・コンサルテーション等
児童養護施設ゆりかご園心理療法士	平成14（2002）年7月 ～平成19（2007）年4月	施設内での子どものケア、職員とのコンサルテーション、機関連携等
不登校支援事業きんたろうキャンプ　心理支援員	平成15（2003）年4月 ～平成17（2005）年3月	職員とのコンサルテーション、保護者グループのファシリテーター等
東海大学課程資格教育センター　非常勤講師	平成16（2004）年9月 ～平成29（2017）年3月	担当科目：「教育心理学」「学習指導論」「教育相談」
板橋中央総合病院グループ　ほっとらいん相談員	平成16（2004）年4月 ～平成19（2007）年3月	新任看護師のメンタルケア
新名学園旭丘高等学校スクールカウンセラー	平成19（2007）年4月 ～平成21（2009）年3月	生徒・保護者・教職員のカウンセリング・コンサルテーション等
小田原市乳幼児健診　心理判定員	平成20（2008）年4月 ～平成25（2013）年3月	1歳半健診、3歳児健診、親子教室等での心理判定
発達障害児者支援事業巡回相談員	平成21（2009）年4月 ～平成25（2013）年3月	教員のコンサルテーション、ケース会議や教員研修の実施等
横田小児科医院発達と育児の相談室　心理相談員	平成22（2010）年6月 ～平成27（2015）年3月	来所相談、心理判定、機関との連携等
中井町乳幼児健診　心理判定員	平成23（2011）年4月 ～現在	1歳半健診、3歳児健診等での心理判定、3歳児親子セミナーでの保護者グループのファシリテーター等
中井町保育園巡回訪問相談　相談員	平成23（2011）年4月 ～平成27（2015）年3月	教職員へのコンサルテーション、ケース会議の実施等
箱根町就学相談　心理判定員	平成23（2011）年4月 ～平成24（2012）年3月	就学に関する心理判定の実施
小田原市早期発達支援事業（保育園・幼稚園巡回相談）　相談員	平成24（2012）年4月 ～平成25（2013）年3月	教職員へのコンサルテーション、ケース会議の実施等

小田原市支援教育相談支援チーム　巡回相談員	平成26（2014）年6月 ～平成29（2017）年3月	教職員へのコンサルテーション、ケース会議の実施
大磯町教育研究所　スクールアドバイザー	平成27（2015）年4月 ～平成29（2017）年3月	来所相談、学校訪問相談、就学相談、心理判定、教職員研修の実施等
小田原短期大学　特別講師	平成27（2015）年9月 ～平成29（2017）年3月	担当科目：「おだたん人間成長講座B（心理）コース」
小田原短期大学保育学科　講師	平成29（2017）年4月～	

所　属　学　会　等

名　称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）
日本発達心理学会	平成8（1996）年11月 ～現在	大会参加、発表（H23）、自主シンポジウム企画・司会（H22）
日本教育心理学会	平成10（1998）年5月 ～現在	大会参加、発表（H14、H21）
神奈川県臨床心理士会	平成10（1998）年8月 ～現在	学校臨床担当幹事（H17～H20）、子育て支援担当幹事（H21）
日本ブリーフサイコセラピー学会	平成13（2001）年3月 ～現在	研修会参加
日本心理臨床学会	平成13（2001）年4月 ～現在	大会参加、発表（H26）、自主シンポジウム（H17）
日本学校心理士会	平成13（2001）年10月 ～現在	研修会参加
日本臨床心理士会	平成14（2002）年4月 ～現在	研修会参加
日本保育者養成教育学会	平成29（2017）年11月 ～現在	大会参加
保育教諭養成課程研究会	平成29（2017）年11月 ～現在	

社　会　活　動　等

名　称	活動期間	活　動　内　容
（NPO活動） NPO法人　神奈川県スクールカウンセラー協会	平成18（2006）年6月 ～現在	設立発起人、理事、事務局長（H18～22）
NPO法人　あらたまスクールカウンセリングセンター	平成21（2009）年6月 ～現在	理事
（委員等） 小田原市不登校対策委員会	平成18（2006）年4月 ～平成19（2007）年3月	委員
小田原市社会教育委員会議	平成22（2010）年4月 ～平成24（2012）年3月	委員
湘南心理研究会 「コスモスの会」	平成24（2012）年4月 ～現在	世話人（運営委員）
花王株式会社　ヒト試験研究倫理委員会	平成30年（2018）年2月 ～現在	研究倫理委員

担当教科目に関する資格・免許等

名　称	取得年月	取　得　機　関
認定心理士	平成11（1999）年2月	日本心理学会（登録番号3055）
学校心理士	平成13（2001）年10月	学校心理士認定運営機構（登録番号51596）
臨床心理士	平成14（2002）年4月	日本臨床心理士資格認定協会（登録番号09259） H29年資格更新

心理学検定１級	平成 21（2009）年 10 月	日本心理学諸学会連合認定（登録番号 091180）
学校心理士スーパーバイザー	平成 27（2015）年１月	学校心理士認定運営機構（登録番号 SV0145）

研 究 実 績 に 関 す る 事 項

代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） よくわかる、心にひびく、はじめの一歩　保育入門テキスト	共著	平成 29（2017）年６月	萌文書林	保育者を目指す人のために保育の仕事について解説した書。Chapter6「子どもの心の発達」を執筆。 監修：吉田眞理 著者：内山絵美子、吉田収、上野奈初美、有村さやか、馬見塚昭久、野津直樹、上野文枝、杉﨑雅子
「保育内容「言葉」指導法」	共著	平成 30（2018）年３月	ミネルヴァ書房	「言葉指導法」のテキスト。第７章「言葉に関して配慮を必要とする子どもへの支援」を執筆。 編著者：馬見塚昭久、小倉直子 著者：花岡清美、宮川萬寿美、安村由希子、三浦正雄、望月たけ美、杉﨑雅子
生活事例からはじめる「保育の心理学」	共著	平成 30（2018）年３月	青鞜社	改訂版作成に当たり、第７章「支援するということ」第８章「発達援助における協働」を担当。 編著者：宮川萬寿美、神蔵幸子 著者：宇佐美かおる、片山伸子、小倉直子、金澤久美子、杉﨑雅子
（学術論文） 「支援教育におけるスクールカウンセラーの役割」	単著	平成 25（2013）年３月	東海大学課程資格教育センター論集　第 11 号	小中連携におけるＳＣの役割について実践報告から整理を行った。
「中高連携におけるスクールカウンセラーのかかわり」	単著	平成 26（2014）年３月	東海大学課程資格教育センター論集　第 12 号	中高連携におけるＳＣのかかわりの実際を質的研究にて考察した。
「学習障害のある児童生徒への学習指導についての研究動向－2009 年～2013 年の研究を対象として－」	単著	平成 27（2015）年３月	東海大学課程資格教育センター論集　第 13 号	近年の学習障害児童生徒に向けての学習指導の研究を概観、課題を明らかにした。
「「学習指導論」における授業内容の検討―「ＩＣＴを活用した教育」をテーマとして－」	単著	平成 28（2016）年３月	東海大学課程資格教育センター論集　第 14 号	ＩＣＴを活用した教育について、教職課程履修学生がいかに学習しておくべきかについて提言をまとめた。
「新任教育相談コーディネーターはどのように役割を果たしていくのか－直面する困難と役割遂行に役立つ要因の検討から－」	単著	平成 29（2017）年３月	東海大学課程資格教育センター論集　第 15 号	新任教育相談コーディネーターの困り感と、役割を果たす上で役立ったものについて質的分析を行った。また活動を通して役割イメージがどのように変化するかについて考察を行った。

「特別支援教育における就学相談－10年間の研究動向からみる現状と課題－」	単著	平成30(2018)年3月	小田原短期大学研究紀要第48号	特別支援教育が開始されてから 10 年が経過したことをふまえ、その間に就学相談はどのように実践、研究されてきたのか、変化してきた点はあるのか等、現状と課題を整理した。
（その他） 発達相談室の窓から～Q＆A編	共著	平成23(2011)年 5 月～平成25（2013）年12月	横田小児科医院院内報第157～187号	「言葉が遅い」「吃音がある」等の子育てに関する悩みに答えるQ＆Aを作成した。 執筆：小倉直子、杉﨑雅子
不登校と友人関係「ありのままを受け止められる体験」	単著	平成26(2014)年5月	日々輝学園高等学校学園報「ほっとLine」vol.36 p2～3	不登校経験者が通うクラスがある技能連携校の学園報に掲載。当事者や保護者が参考になるように、不登校の子どもにとって友人関係が与える影響やどのように支えになるかについて、架空事例をもとに解説した。
（口頭発表） 児童養護施設におけるケースワーク機能－プレイの中で母親イメージの変容を示した事例から－	単独	平成18(2006)年9月	日本心理臨床学会第25回大会	児童養護施設の心理職の役割として、治療的プレイセラピーにおける子どもの変容と合わせて、現実的な母子交流に向けてどのようにケースワークを行ったかについて報告した。

その他　(表彰等)	平成20（2008）年9月	東海大学ティーチングアワード優秀賞

専任教員教育研究業績

平成30年6月1日

氏名	ふりがな	所属学科	職位	性別
中山　貴太	なかやま　たかひろ	保育学科	学科長 教授・准教授・講師・助教	㊚・女

担当科目名	学内委員会等（委員長）
【通学】「教育実習指導」「教育実習」「ボランティア活動」「卒業研究」「サービスラーニング」「健康・スポーツ実技」「健康・スポーツ理論」 【通信】「健康・スポーツ実技」「健康・スポーツ理論」「子どもの保健ⅠA」「子どもの保健1B」「保健と食と栄養」	安全衛生委員会 防災・減災委員会 オリンピック・プロジェクト（委員長）

学歴

和暦（西暦）年　月	事項	学位
平成18（2006）年4月	大阪大谷大学人間社会学部人間社会学学科　入学	
平成22（2010）年3月	大阪大谷大学人間社会学部人間社会学学科　卒業	学士（人間社会学）
平成22（2010）年4月	順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科　スポーツ社会科学領域 スポーツマネジメント学専門分野　博士前期課程　入学	
平成24（2012）年3月	順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科　スポーツ社会科学領域 スポーツマネジメント学専門分野　博士前期課程　修了	修士（スポーツ健康科学）

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
順天堂大学 スポーツ健康科学部	H.23年4月～H.25年3月まで	ティーチング・アシスタント 担当科目「総合講座（前期）」、「組織開発実習」
医療法人誠心会 神奈川病院	H.24年4月～H.27年3月まで	外来治療の一環としたデイケアにおけるプログラム講師（スポーツ担当）（非常勤）。
医療法人清和会 浅井病院	H.24年4月～H.27年3月まで	精神科医療における運動療法（非常勤）
順天堂大学スポーツ健康科学部	H.24年5月～現在	非常勤助手として研究、実験の補助
社会福祉法人ゆりの木会 ゆりの木苑	H.24年6月～H.27年3月まで	特別養護老人ホームにおける運動療法（非常勤）。
東京未来大学子ども心理学部	H.25年7月～現在	非常勤講師　担当：「子ども体育」（通信教育課程）
東洋学園大学	H.25年9月～現在	非常勤講師　担当：「スポーツ2（H25年9月～）」「スポーツ1（H26年～）」「身体とウェルネス（H26年～28年）」「人間のセクシュアリティ/保健学（H.27年）」
小田原短期大学	H.27年4月～現在	保育学科　助教

所属学会等

名称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）
人類働態学会	H.22年4月～現在	会員
日本スポーツ心理学会	H.22年4月～現在	会員
日本体育学会	H.23年5月～現在	会員
日本幼児体育学会	H.28年1月～現在	会員　第12回大会実行員
アジア幼児体育学会	H.28年1月～現在	会員

社会活動等

名称	活動期間	活動内容
神奈川県地方創生大学連携事業「子育て世帯が住みたい魅力ある地域を創る ～保育と食育を通じた地方創生～」	H.27年9月～H.28年3月迄	神奈川県地方創生大学連携事業として幼稚園に通っていない2～3歳児とその親に対して音楽、造形、身体表現の面から教育支援を行った。

ジェフユナイテッド市原・千葉 U-18　チームビルディング研修	H.29 年 4 月～現在	J リーグに属するトップチームの下部組織にあたる 18 歳以下のチームに所属する選手に対して定期的に行われるチームビルディング研修にスタッフとして参加・帯同している。

担当教科目に関する資格・免許等

名　称	取得年月	取　得　機　関
健康運動実践指導者	H.21 年 5 月	健康・体力づくり事業財団（第 90900882 号）
中学校教諭一種免許状	H.22 年 3 月	大阪府教育委員会（平 21 中一第 787 号）
高等学校教諭一種免許状	H.22 年 3 月	大阪府教育委員会（平 21 高一第 1044 号）
中学校教諭専修免許状	H.24 年 3 月	千葉県教育委員会（平 23 中専第 62 号）
高等学校教諭専修免許状	H.24 年 3 月	千葉県教育委員会（平 23 高専第 71 号）
日本サッカー協会公認C級コーチ（日本体育協会公認指導員）	H.24 年 12 月	（公財）日本サッカー協会（C000542347）
日本サッカー協会公認キッズリーダー（ALL）	H.29 年 3 月	（公財）日本サッカー協会

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
1.『楽しく学ぶ運動遊びのすすめ　ポートフォリオを活用した保育実践力の探求』	共著	2017 年 5 月	みらい	編者：柴田卓、石森真由子 幼稚園教諭、保育士を目指すものに対して、運動遊びにおける実践力の修得を目指した書き込み型のワークブックである。Lesson2-2 をスポーツ心理、発達心理の視点から幼児期の運動遊びを説明した。（担当：97-98 頁） ISBN 9784860154110
2.『保育する力』	共著	2018 年 3 月	ミネルヴァ書房	監修：吉田眞理 理論と実践を幼児教育や保育現場で役立つ視点や考え方を示した著書である。第 3 章 1 節（1）、（7）において、園や保育者に対しマネジメントの重要性や理論を説明した。
3.『教育実習・保育実習　幼稚園・保育所の実習にそなえて』	共著	2018 年 3 月	青踏社	編著者：吉田眞理 幼稚園教諭や保育士資格を目指す者に対して実習準備や実習中の学びの姿勢などが書かれたテキストである。第 3 章 2 を現場の危機管理を学ぶ際の視点を説明し、第 4 章 2、3 では実習日誌やお礼状で用いる文章表現や実習園への事前事後対応について事例を交えて説明した。
（学術論文）				
1. アクティブラーニング学習効果尺度の作成の試み－音楽・造形・身体表現系科目と演習科目に着目して－	共著	2017 年 3 月	小田原短期大学紀要第 47 号、56-63 頁	共著者：尾野明美、佐藤みどり、高地誠子、齋藤史夫、水野道子、中山貴太 本研究では保育者養成課程の授業に対してアクティブラーニング型に授業を展開した際に、学生の学習効果を測るための尺度の開発を試みた。その結果、「自己成長」「学習意欲」「学習意欲」「専門知識の探求」の 4 因子が見いだされ、その信頼性と妥当性を確認した。
2. 保育者養成課程の学生のレジリエンスの検討 ―自己教育力と職業レディネスとの関連に着目して―	共著	2017 年 3 月	小田原短期大学紀要第 47 号、125-128 頁	共著者：尾野明美、中山貴太 本研究では、保育者養成系大学の学生に対して、レジリエンス、自己教育力、職業レディネスの視点から調査した。結果、職業レディネスについて差が見られなかったが、レジリエンスと自己教育力については関連性があることが明らかになった。
3. アクティブラーニング型授業の学習効果に関する	共著	2018 年 3 月	小田原短期大学紀要第 48 号、1-8 頁	共著者：尾野明美、佐藤みどり、齋藤史夫、水野道子、高地誠子、中山貴太 主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニングの視点か

基礎的研究～短縮版尺度の作成と信頼性と妥当性の検討				らの授業改善）の実現が求められるなかで、4 因子構造の短縮版アクティブラーニング授業評価尺度を作成した。12 項目で構成されていることから、簡便に測定が可能となった。「学習行動の拡大」「課題の発見」「能動的応答」「保育実践力の形成」の 4 因子の構造方程式モデリングを検討し、アクティブラーニングによる授業展開が学習効果につながる経路を示すことができた。
（その他：学会発表） 1.日本におけるチーム効力感尺度開発の試み －大学スポーツチームを対象に－	共著	2010 年 11 月	人類働態学会東日本地方会「人類働態学会会報」第 93 号、10-11 頁	共著者：芳地 泰幸、中山 貴太、山田 泰行、水野 基樹 本研究では、米国で開発された Collective Efficacy Questionnaire for Sports（CEQS）を翻訳し、日本の大学生スポーツチームにおけるチーム効力感の開発を試みた。その結果、一連の手続きを踏襲し、日本におけるチーム効力感尺度が開発された。
2.日本の大学生スポーツチームにおける CEQS の有効性に関する研究	共著	2010 年 11 月	日本スポーツ心理学会「日本スポーツ心理学会第 37 回大会研究発表抄録集」114-115 頁	共著者：芳地泰幸、中山貴太、山田泰行、水野基樹 本研究では、欧米で開発された Collective Efficacy Questionnaire for Sports(CEQS)を日本語に翻訳し、翻訳された尺度が日本人大学生スポーツチームの目標達成に向けた動機づけの指標となりえるのかを、結果期待の視点から検討した。その結果、翻訳された CEQS は目標達成にむけた結果期待を十分にとらえており、日本の大学生スポーツチームにおける目標達成に向けた動機づけの指標となり得る可能性が示された。
3.チームビルディングの実践とその効果の検討―大学生スポーツチームを対象に―	共著	2011 年 6 月	人類働態学会全国大会「人類働態学会会報」第 94 号、57-60 頁	共著者：芳地泰幸、中山貴太、水野基樹、北村薫 本研究では、首都圏の大学に所属する大学生スポーツチーム 2 チームを対象に 2 日間のチームビルディング（TB）を実施し、その効果を TB 実施直後におこなった自由記述式アンケートに基づき検討した。その結果、TB を実施することでチームが活性化すること、TB の効果は少なくとも 3 つの段階および 5 つの側面の 2 軸から捉える事が出来る事が示された。
4.大学生スポーツチームにおける集団効力感と文脈的パフォーマンスの関連	共著	2011 年 9 月	産業・組織心理学会「第 27 回大会発表論文集」151-154 頁	共著者：芳地泰幸、水野基樹、中山貴太、北村薫 本研究では、首都圏及び関西圏の大学スポーツチーム（14 チーム）を対象に集団効力感と文脈的パフォーマンスの関連を検討した。その結果、文脈的パフォーマンスと集団効力感には有意な正の相関関係が存在することが確認された。さらに、文脈的パフォーマンスの実行レベルは集団効力感に直接的な正の影響を与える事が明らかになった。
5.選手が抱く指導者に対する信頼の要因について	共著	2011 年 9 月	日本体育学会「日本体育学会第 62 回大会予稿集」101 頁	共著者：中山貴太、芳地泰幸、水野基樹 本研究では選手が抱く指導者への信頼に着目し、その要因を構造化した。その結果、信頼につながる要因として「経験」や「人間性」など 11 の要因が、非信頼につながる要因として「専門知識の欠如」、「一貫性のない指導」など 7 要因が抽出された。さらに本研究の特出すべき点は、指導者は信頼するものだという盲目的に信頼する選手が存在することが確認できた点である。これは、多くの権限が指導者に集中している結果であると考えられる。
6.チームビルディングの実践とチーム活性化に関する研究―大学生野球部を事例に―	共著	2011 年 10 月	日本体育学会「日本体育学会第 62 回大会予稿集」103 頁	共著者：芳地泰幸、水野基樹、中山貴太、北村薫 本研究では、大学生野球部を対象に 2 日間のチームビルディング（TB）を実施し、その効果をチーム活性化の視点から検討した。その結果、TB を通じて大学生野球部が活性化すること、3 か月後には若干低下するが、再度 TB（フォローアップ研修）を実施すると再び向上することが確認できた。以上から、TB の継続的実施が重要であるという実践的知見が得られただけでなく、縦断的な検証の必要性も明らかになった。
7.チームビルディ	共著	2011 年 10 月	日本スポーツ心理学会	共著者：芳地泰幸、水野基樹、中山貴太、北村薫

ングの実施が集団効力感およびチーム活性化に及ぼす効果に関する研究―大学生野球部を事例に―			「第 38 回大会研究発表抄録集」48-49 頁	本研究では、首都圏の大学に所属する大学生運動部うち野球部を本研究の調査対象に、2011 年 1 月から 9 月まで約 8 カ月間、横断的な調査を実施した。その結果、TB を通じて大学生野球部が活性化すること、3 か月後以降には活性度は若干低下するが、再度 TB（フォローアップ研修）を実施すると再び向上することが明らかになった。また、近年注目されている、集団効力感が 2 日間の TB のトレーニングよって向上する可能性が示唆されたことは大きな発見と考えられる。
8.大学生のアルバイト従事がもたらす葛藤と恩恵―多重役割マップの特徴から―	共著	2011 年 11 月	人類働態学会東日本地方会「人類働態学会会報」第 95 号、15 頁	共著者：山田泰行、芳地泰幸、中山貴太、榎原毅、広沢正孝、水野基樹 本研究では、多重役割マップを用いてアルバイトに従事する大学生を対象に、彼らが担う様々な役割間の関係明らかにした。その結果、アルバイトは大学、人間関係、家庭といった役割にネガティブな影響（NSP）を及ぼす一方、人間関係と家庭にポジティブな影響（PSP）も及ぼしている事が明らかになった。つまり、現代の大学生にとってアルバイトに従事することは、様々な葛藤と恩恵を伴うものであるということが明らかになった。
9.大学生スポーツチームにおけるチームビルディングの導入とその効果の検討Ⅰ－内省報告を分析対象とした定性的調査の視点から－	共著	2012 年 8 月	日本体育学会『日本体育学会第 36 回大会予稿集』113 頁	共著者：水野基樹、芳地泰幸、中山貴太、藤井啓嗣、山田泰行 本研究は、効果的なチームづくりやチーム変革の一環として多くの組織に導入されているチームビルディング（以下、TB）に注目し、TB 導入がもたらす効果を得られた内省報告（質的データ）から明らかすることを目的とした。その結果、以下の結論を得た。1. TB の導入は、TB を体験した参加者に様々な効果をもたらす。2. それらの効果の背景には、TB プログラムを通じ、参加者間で互いに自己開示と傾聴を繰り返すことによる、多くの気付きと、新たな発見がある。3. TB の効果は大きく「自分自身に関すること」、「他者との関係に関すること」、「所属組織（チーム）に関すること」の大きく三つの側面から捉えられる。
10.大学生スポーツチームにおけるチームビルディングの導入とその効果の検討Ⅱ－構造化を目指した定量的調査の視点から－	共著	2012 年 8 月	日本体育学会『日本体育学会第 36 回大会予稿集』120 頁	共著者：芳地泰幸、水野基樹、山田泰行、中山貴太、藤井啓嗣、北村薫 本研究は、大学生スポーツチームへのチームビルディング（以下 TB）の導入がもたらす効果を定量的調査から明らかにし、その効果の構造化を目指したものである。その結果、1. 大学生スポーツチームに TB を導入することで少なくとも選手の自己理解、他者理解、さらには組織理解の促進・向上がもたらされる。2. TB を通して認められた効果のうち自己理解および、他者理解の側面はそれぞれ二つの要因から、さらに組織理解の側面は三つの要因から理解することができる。3. 各側面における効果の各要因は同時に体験される（生起する）傾向にある。以上の結論を得た。
11.首都圏における自転車利用の実態把握Ⅰ－自転車利用時の行動特性と意識に関する質問紙調査からのアプローチ－	共著	2013 年 6 月	人類働態学会会報第 98 号 21-22 頁	共著者：川田裕次郎、藤井啓嗣、中山貴太、芳地泰幸、水野基樹 本研究は自転車利用者における利用時の行動特性と意識に関する基礎データを得ることを目的とした。結果、1. 自転車利用時の行動特性と意識には、少なくとも 4 つの因子（種類）が存在すること。2. 自転車利用時の行動特性と意識は、男女別に見ると、男性の方が女性よりも不良であること。3. 自転車利用時の行動特性と意識は、年齢との関連性を見ると、年齢の低い者ほど不良であること。4. 自転車利用時の行動特性と意識は、職業別に見ると、「学生」が「主婦」よりも不良であること。5. 自転車利用時の行動特性と意識は、運転免許の有無別に見ると、関連性が示されないこと。以上が確認された。

12.首都圏における自転車利用の実態把握Ⅱ－事故およびヒヤリ・ハット体験レポートからのアプローチ－	共著	2013年6月	人類働態学会会報第98号23-24頁	共著者：芳地泰幸、藤井啓嗣、中山貴太、川田裕次郎、水野基樹 本研究は千葉県における自転車利用の実態を把握することを目的とした。事故およびヒヤリ・ハット体験レポートから体験場所として最も多いのは「交差点」であった。相手として最も多いのは「車」であり、それらの要因として最も多いのは「飛び出し・一時不停止」であった。
13.フィットネスクラブ従業員のレジリエンス向上のための組織的支援	共著	2013年6月	人類働態学会会報第98号43-44頁	共著者：庄司直人、藤井啓嗣、森口博充、中山貴太、芳地泰幸、水野基樹 本研究はフィットネスクラブ従業員のレジリエンス向上のプロセスを質的データをもとに解明することを目的とした。結果、レジリエンス向上のプロセスを構成する要素として、「組織的サポート戦略」、「レジリエンスに寄与する個人資源」、「困難、失敗に起因するポジティブ作用」、「困難による弊害、成功体験、考え方の変化」、「レジリエンスに寄与する望ましい心理状態」、の8項目に分類された。
14.国内の主要学会における自転車研究の研究動向の把握	共著	2013年6月	人類働態学会会報第98号58頁	共著者：中山貴太、芳地泰幸、藤井啓嗣、川田裕次郎、水野基樹 本研究は日本人間工学会、日本交通心理学会、人類働態学会において自転車研究がどのように展開されてきたのか調査した。結果、過去50年間で自転車に関する研究が計49編確認され、「身体的側面に焦点をあてた研究」、「工学的側面に焦点をあてた研究」、「心理的側面に焦点をあてた研究」に分類された。
15.体育系大学における AO・推薦入学予定者を対象とした入学前教育の導入効果Ⅰ－プログラム体験後の心理的変容の視点から－	共著	2013年8月	日本体育学会『日本体育学会第 64 回大会予稿集』122頁	共著者：水野基樹、芳地泰幸、中山貴太、北村茉衣、野川春夫 体育系大学における AO・推薦入学予定者を対象に 2012 年と 2013 年に導入された入学前教育プログラムの効果を導入前後の心理的変容の視点から検証し、効果的な入学前教育プログラムの展開に向けた資料を得ることを目的とした。その結果、プログラムを体験した学生の多くに「自己理解」、「他者理解」、「学校理解」の高揚が確認され、「ふりかえりレポート」からは、「入学後への期待」、「卒業後のビジョンの明確化（再確認）」、「仲間づくり」に関する記述が数多く確認された
16.体育系大学における AO・推薦入学予定者を対象とした入学前教育の導入効果Ⅱ－プログラムを体験した学生の入学後の追跡調査の視点から－	共著	2013年8月	日本体育学会『日本体育学会第 64 回大会予稿集』137頁	共著者：芳地泰幸、水野基樹、中山貴太、藤井啓嗣、野川春夫 本研究では、体育系大学における AO・推薦入学予定者を対象に2012年および2013年に導入された入学前教育プログラムを体験した学生の入学後の実態を把握することで、入学前教育の効果と、今後の入学前教育プログラムの展開に向けた資料を得ることを目指したものである。そのため本研究では、「成績調査」、「授業態度の観察」、「インタビュー調査」の３つの調査から学生の実態把握に努めた。３つの調査結果を統合すると入学前教育の導入には一定の効果がある傾向が示された。
17.フィットネスクラブ従業員におけるスポーツ経験がレジリエンスに影響を及ぼすプロセスに関する研究	共著	2013年8月	日本体育学会『日本体育学会第 64 回大会予稿集』135頁	共著者：庄司直人、芳地泰幸、中山貴太、藤井啓嗣、水野基樹 本研究では、首都圏のフィットネスクラブで勤務する従業員 26 名を対象に、過去から現在にわたるスポーツ実施経験が、レジリエンスの獲得・向上に影響を与えるプロセスをインタビュー調査から明らかにした。その結果、スポーツでの経験が、思考様式や認知の変化に影響を与え、そして、レジリエンスの獲得・向上につながることが示された。

18.対「自転車」における事故及びヒヤリ・ハットの実態把握	共著	2013年11月	『人類働態学会会報』、第99号、7-8頁	共著者：中山貴太、庄司直人、芳地泰幸、藤井啓嗣、川田裕次郎、水野基樹 日本の政令指定都市（千葉市、横浜市、相模原市、さいたま市、大阪市）において対自転車における事故およびヒヤリ・ハット体験に関する実態を明らかにするために街頭調査を実施した。その結果、交通構成員が対「自転車」に対して事故及びヒヤリ・ハットを経験する状況は、自転車運転者のスマートフォンや音楽再生機器の使用等の「電子機器の使用時」、「右側走行時」、「スピード超過時」である。そして、それらは「歩道」、「交差点」、「狭い道」、「坂道」において発生する傾向があることが明らかにされた。
19.自転車運転者の不安全行動を引き起こす心理的要因に関する研究―政令指定都市の事故およびヒヤリ・ハットレポートからのアプローチ―	共著	2013年11月	『人類働態学会会報』、第99号、9-10頁	共著者：庄司直人、中山貴太、芳地泰幸、藤井啓嗣、川田裕次郎、水野基樹、北村薫 政令指定都市（千葉市、横浜市、相模原市、さいたま市、浜松市、大阪市）に在住の189名（男性118名、女性71名、平均年齢=39.69歳）を対象に危険を予見しながらも事故やヒヤリ・ハットに至ったと運転者が認知する事例を用いて、不安全行動に至る心理的要因を検証した。その結果、不安全行動が誘発されやすいと推測される環境は、①時間的切迫とリスク受容量の増大やリスクの過小評価が重なるとき、②目的地到着直前や通勤経路など慣れ親しんだ場所で慢心に近い感覚に陥ったとき、③交通他者と交錯する場所で、交通他者の動向を決めつけたとき、であることが明らかになった。
20.A Study on the Effects of Team Building for University Baseball Team in Japan : Focused on Morale and Belief in Cooperation	共著	2014年8月	The 7th Asian-South Pacific Association of Sport Psychology International Congress in Tokyo, CD-ROM The 7th Asian-South Pacific Association of Sport Psychology International Congress (ASPASP_2014) 於:National Olympics Memorial Youth Center (NYC), Tokyo, JAPAN	共著者：Yasuyuki Hochi, Motoki Mizuno, Takahiro Nakayama,Mai Kitamura, Riyako Honda, Kaoru Kitamura The purpose of this study was to examine the effects of the experience of TB among university baseball team from the view point of Morale and Belief in Cooperation. We carried out TB designed by Kitamori (2008) to one university baseball team (69 players) in 2013. The average age of the 69 participants was 20.15 years (SD=.87). We use Scale to Measure Belief in Cooperation (Nagahama, et al. 2009) and Morale (Tsuruyama, 2011) to examine the effects of TB. The answers of this investigation were collected from the participants before and immediately after the intervention of TB. The paired t-test showed that the score of moral of university baseball team was higher than before TB experience ($t=2.56$, $p< .05$). The practical implication of these findings suggested that implementation of TB is effective from the viewpoint of morale.
（その他：雑誌記事）				
21.人類働態学会第46回全国大会におけるワークショップの報告（シンポジウム「働態学会らしい生活の見直しから考える自転車の新しい役割～若手研究者育成支援による科研費申請のためのロードマップの一環として～」）	共著	2011年11月	人類働態学会東日本地方会「人類働態学会会報」第95号、39頁「第1班：子育て時の交通手段（三人乗り、転落事故）」を担当	共著者：中山貴太、水澤隆、本田勇輝、稲葉健太郎、川田裕次郎、芳地泰幸、菅又雄太郎、庄司直人 「第1班：子育て時の交通手段（三人乗り、転落事故）」のグループワークでの議論やプレゼンテーションを振り返り、まとめたレポート

（その他：舞踊） 22.Oh!Dance2016	群舞（合同）	2016 年 12 月	恵比寿・エコー劇場	Sun Arts produce 作品：「東京～止まない雨～」 出演（12 月 10）
その他　(表彰等)		特記事項なし		

専任教員教育研究業績

平成30年 4月 27日

氏名	ふりがな	所属学科	職位	性別
奥田　訓子	おくた　のりこ	保育学科	准教授(特任)	女

担当科目名	学内委員会等（委員長）
【通学】家庭支援論 【通信】保育相談支援	

学歴

和暦（西暦）年　月	事項	学位
平成 2(1990)年 4月	桜美林大学　国際学部 国際学科　入学	
平成 6(1994)年 3月	桜美林大学　国際学部 国際学科　卒業	学士（国際学）
平成 17(2005)年 4月	桜美林大学大学院　国際学研究科人間科学専攻健康心理学専修入学	
平成 19(2007)年 3月	桜美林大学大学院　国際学研究科人間科学専攻健康心理学専修修了	修士（健康心理学）
平成 20(2008)年 4月	桜美林大学大学院　国際学研究科環太平洋地域文化専攻健康心理学専修(博士後期課程)　入学	
平成 23(2011)年 3月	桜美林大学大学院　国際学研究科環太平洋地域文化専攻健康心理学専修(博士後期課程)満期退学	
平成 24(2012)年 9月	桜美林大学大学院	博士（学術）

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
横浜 YMCA	平成 6年 4月～ 平成 14 年 3 月	こどもへの運動指導、顧客管理業務
YMCA 福祉専門学校	平成 14 年 4月～ 平成 17 年 3 月	学務一般
YMCA 健康福祉専門学校	平成 19 年 4月～ 平成 30 年 3 月	こども総合科　専任講師(2013 年より学科長)
相模原看護専門学校	平成 22 年 4月～ 現在に至る	非常勤講師　「人間関係論」
桜美林大学	平成 22 年 9 月～ 平成 23 年 3 月	リベラルアーツ学群　非常勤講師「障害児者の心理学」
亜細亜大学	平成 29 年 4 月～ 現在に至る	都市創造学部　非常勤講師　「コミュニティ心理学」「福祉社会論」「少子高齢化社会論」
田園調布学園大学	平成 29 年 4 月～ 現在に至る	人間福祉学部　非常勤講師「心理統計法」
大原記念労働科学研究所	平成 29 年 4 月～ 現在に至る	協力研究員　「障がい者の雇用拡大と労働の質向上を目指す研究」
実践女子大学	平成 29 年 9 月～ 現在に至る	生活文化学部　非常勤講師「パーソナリティ心理学」（平成 30 年 3 月まで)、「家庭教育論」「家族と生涯発達各論 b(青年・成人期)」(平成 30 年 4 月~)
小田原短期大学	平成 29 年 9 月～ 現在に至る	保育学科　准教授「保育相談支援」

所属学会等

名称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）
日本ヒューマンケア心理学会	平成 17 年 9 月	学会参加、発表
日本健康心理学会	平成 18 年 4 月	学会参加、発表
日本心理学会入会	平成 19 年 4 月	学会参加、発表
日本福祉心理学学会	平成 21 年 4 月	学会参加、発表
日本健康心理学会第28回大会　学会準備委員	平成 26 年 6 月 ～平成 27 年 9 月まで	学会大会準備

社 会 活 動 等		
名　称	活動期間	活 動 内 容
横浜市社会福祉協議会　福祉職の人材確保における作業部会	平成 25 年 4 月 ~平成 30 年 3 月まで	横浜市の福祉職員の人材確保、人材育成における研修や各職能団体との関係をコーディネートする方法を検討する作業部会の委員として活動した。
文部科学省「女性の再就職支援」プロジェクト認定公財)横浜市男女共同参画推進協会主催の女性のための学び直しプログラム	平成 26 年 7 月 ～平成 30 年 3 月まで	結婚、出産、育児などのため職を離れた女性の再就職支援プログラムの企画運営を支える検討委員として活動した。特に、保健、医療、福祉、保育分野への再就職を目指した就労支援プログラムの検討を行った。
横浜市社会福祉協議会　市民研究　あり方検討会	平成 28 年 4 月 ～平成 30 年 3 月まで	横浜市の市民活動団体の研究支援活動をするためのあり方を検討する委員会の委員として活動した。

担 当 教 科 目 に 関 す る 資 格・免 許 等		
名称	取得年月	取　得　機　関
指導健康心理士(第 890 号)	平成 19 年 4 月	日本健康心理学会

研 究 実 績 に 関 す る 事 項				
代表的な著書､論文等の名称	単 著 共 著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概　　要
(著書) 1.スクールソーシャルワーク実習･演習テキスト	共著	平成 22 年 3 月 (2010 年)	北大路書房 (214 ページ)	福祉制度上の措置、教育に関わる法律・制度などの解説と、児童の健康上の問題、学校不適応(いじめ・不登校)の問題、非行問題、発達障害者の教育、就職の問題を文献、資料から解説した。(pp175-201) 著者：米川和雄、奥田訓子　他
2.よくわかる健康心理学	章担当	平成 24 年 8 月 (2012 年)	ミネルヴァ書房 (214 ページ)	福祉職の健康問題、特に、腰痛やうつ病、バーンアウトの要因とされている職業上の特徴や福祉職パーソナリティを紹介し、バーンアウトの予防など、福祉職の健康を維持促進するための方法を紹介した。(pp188-189) 編者：森和代　石川利江　茂木俊彦 コラム 15「福祉職の健康」奥田訓子
3.障害児保育	共著	平成 28 年 3 月 (2016 年)	萌文書林 (159 ページ)	障害児保育における福祉の法律や制度を概観し、保育現場における問題や課題を整理した。児の発達支援を阻害するチーム連携上の問題点や保育士認知バイヤス、また、当事者をエンパワーするレスパイト支援を紹介した。(pp118-121、pp137-147) 著者：尾野明美、奥田訓子　他
4.ライフコースの健康心理学	章担当	平成 29 年 3 月 (2017 年)	晃洋書房 (188 ページ)	子どもの貧困と女性の自立支援について論説した。子どもの貧困では、経済格差と貧困に直面する子どもの実態、貧困の連鎖の問題とこども食堂や学習支援などの取り組みを紹介した。女性の自立支援では、子育て、介護に従事しながら、再就職を目指す支援を、また非正規シングル女性の再就職の困難さや課題について概観し、女性の生活経験に即した就労支援プログラムと再就職への自己効力感を向上させる取り組みを紹介した。 監修　森　和代 編集者　石川利江　松田与理子 第 7 章　コラム　子どもの貧困　奥田訓子(p100) 第 9 章　コラム　女性の再就職　奥田訓子(p138)

5.シリーズ心理学と仕事　健康心理学	章担当	平成29年9月 (2017年)	北大路書房 (197ページ)	再就職、転職を目指す女性への介護、保健、保育領域への就労支援プログラムを紹介した。健康心理士としてキャリアプランニング講座内のコミュニケーション(コーチングスキル)講座や目標とする資格取得に向けた計画を作成する講座を担当した。また、適宜カウンセリングを行いながら、参加者の再就職、転職自己効力感を支える活動を紹介した。(p128) 編集者　竹中晃二 第4章4節　現場の声 「女性の再就職支援」　奥田訓子
(学術論文) 1.感情共有コミュニケーション尺度開発の試み	共著	平成27年3月 (2017年)	桜美林大学心理学研究 ： 健康心理学専攻・臨床心理学専攻 (3), (13ページ)	本稿ではチーム内活動における様々な感情をチームメンバー間で共有するためのコミュニケーションの尺度を開発した。その結果、共有努力、といった下位尺度を有する感情共有コミュニケーション尺度が確立した。(pp73-86.) 著者：奥田訓子　尾野明未　荒木みさこ　茂木俊彦
2.子育てコーチングの効果の検討：幼児の母親を対象とした入門ワークショップの実践報告	共著	平成29年3月 (2017年)	桜美林論考. 心理・教育学研究 (8) (9ページ)	本稿では未就学児の子育てをしている母親に対しコーチングコミュニケーション研修の効果を報告した。その結果、参加者の母親たちが、現状の自分をありのままに受け止め、自身をポジティブに捉えるきっかけとなった。母親をエンパワメントし、主体的に自分らしく子育てをする意欲を喚起する方法を論じた。(pp31-40.) 著者：森和代　奥田訓子　鈴木文子　松田チャップマン与理子　石川利江
3.チームコミュニケーション研修の効果評価 ー福祉専門職を対象としたチーム作り体験からの検討ー	共著	平成29年3月 (2017年)	桜美林大学心理学研究 ： 健康心理学専攻・臨床心理学専攻 (7) (10ページ)	本稿では、福祉施設職員を対象に行ったチームコミュニケーション研修の効果評価を報告した。教育福祉現場で働く専門職者は、園児、利用者の問題を解決するために異なる専門職や機関と連携して教育、支援に携わらねばならない。そこで、さまざまな課題をチームで協力して課題解決に取り組むチーム活動体験を目的としたワークショップ形式の職員研修を実施した。その結果、チームワークが向上したことが明らかになった。(pp95-105.) 著者：奥田訓子　石川利江　森和代　松田チャップマン与理子
4.女性のための就労支援プログラムの開発と効果評価について ～保健・福祉・保育分野への再就職・転職を目指す女性を対象として～	共著	平成29年9月 (2017年)	「Journal of Health Psychology Research」vol.30. Special Issue号 (9ページ)	本稿では、結婚、出産、育児、介護などさまざまなライフイベントで離職した女性と正規雇用での就労経験のない若年層の女性に対し、女性のための就労促進学び直しプログラムを実施し、その効果評価を報告した。このプログラムには子育てや介護、家事に従事していた時期のスキルが活きるよう、保育・介護・看護分野での専門職を目指すものとし、22人の女性が参加した。参加後には再就職・転職自己効力感が有意に上がったことが明らかになった。(pp123-131) 著者：奥田訓子　森和代　代島奈穂子　石川利江
(その他) 1.チームワーク向上を目的とした福祉専門職への研修 チームワークモデルにもとづいた介入実践の報告	共著	平成27年9月 (2015年)	日本健康心理学会第28回大会	本発表では、福祉職のチームワーク向上を目的とし開発した研修プログラムの効果評価を報告した。我が国の福祉職を対象としたチームワークとパフォーマンスとの検討は十分になされていない。チームワークを向上し、ケア目標を達成するコミュニケーションを組織的に検討する必要もあるといえる。そこでよいケアの提供のために、メンバー一人ひとりがチームで機能することを考えながら体験的にチーム活動を行う研修を実施した。その結果、研修後にチームコミュニケーション得点が有意に上がったことが明らかになった。 著者：奥田訓子　石川利江　森和代 茂木俊彦
2.障害児者のエンパワメントを促進するための健康心理学的アプローチを考える	共著	平成27年9月 (2015年)	日本健康心理学会第28回大会	本シンポジウムでは、障害児者の健康に着目し、健康心理学的案支援アプローチの方法を検討した。 障害児者の支援は、保健医療・福祉・教育・心理等様々な専門職がそれぞれの専門スキルを発揮しながら行っている。日常の関わりの中では、たびたび障害児者を支援している者たちが、当事者である障害児者から学びを得ながらともに育ち

				あう語りが示されている(茂木,2012)。ストレスや負担ばかりが注目されるこの支援領域で介入事例を通して当事者を取り巻く人々が健康に生き生きと生活することを強めているポジティブな要素を捉えなおした。 企画/話題提供　奥田訓子 話題提供　尾野明美　萩原可那子　成田和子 指定討論　三谷英子
3.女性の再就職を支える自己効力感について	共著	平成 27 年 9 月(2015 年)	日本ヒューマンケア心理学会第 17 回大会	本発表では、結婚や出産によってブランクのある女性が再び就労への動機づけを持つために、就労への自己効力感を高める研修を開発しその効果評価を報告した。研修に参加した女性は、就労に必要な知識や情報を得る学び直し講座を受講し、インターン、ボランティア体験などの実地体験を踏まえ、就労への準備をした。その結果、講座終了後に有意に自己効力感得点が上がったため、このプログラムが効果的であったことが明らかになった。 著者：奥田訓子　森和代　石川利江
4.Revisiting social roles, self-actualization and well-being of Japanese women in the era of new economic reforms.	共著	平成 28 年 7 月(2016 年)	31th International Congress of Psychology.	本シンポジウムでは、日本の女性の健康をアイデンティティの強化、就労支援、更年期といった切り口から支援するための方略を検討した。 そのうちの著者の担当分である就労支援では、結婚や育児のために退職した日本の女性の再就職プログラムを紹介した。ブランクがある女性が、自分らしい自立した人生を送るためには就労選択の自信を支援していく必要がある。そこでこれらの女性を支援するためのキャリア支援プログラムと、その効果評価を測定するための再就職転職の自己効力感尺度を開発した。その結果 22 項目の尺度が得られた。講座後の効果をこの尺度を用いて検討したところ、有意に得点が上がったため、このプログラムが効果的であったことが明らかになった。 企画　森和代 話題提供者　森和代　石川利江　松田与理子　奥田訓子
5.子どもの心の安定を促進するための活動支援　－2 泊 3 日のキャンプ活動を通した取り組み　－	共著	平成 28 年 11 月(2016 年)	日本健康心理学会第 29 回大会	本発表では児童養護施設へ入所している子どもたち、職員のためのレスパイとプログラムとして、キャンプを実施したことの様子を報告した。児童養護施設に入所している子どもたちは、様々な心身の問題を抱えている。それゆえに活動が制限されることも多い。そこで制限されている一つである海水浴を実施できるよう、子どもたちをマンツーマンでサポートするボランティアスタッフを備えた海でのキャンプを実施した。その結果、子どもたちのポジティブな関わりが増え、感情が豊かになったことを報告した。 著者：奥田訓子　森和代　石川利江
6.非正規職のシングル女性を対象とした就労支援プログラムについて	共著	平成 29 年 9 月(2017 年)	日本健康心理学会第 30 回大会	本発表では非正規職シングル女性を対象とした就労支援プログラムの効果を報告した。 正規雇用を目指しながらも、非正規雇用を希望する女性は多い。女性がライフイベントの中で直面する家事や育児，介護と就労との両立を困難に感じている女性が多いからとされている。また一方で，非正規職シングル女性の問題も着目されている．そこで非正規シングル女性を対象とした就労支援プログラムの効果評価を女性のための再就職転職自己効力感尺度を用いて検討した。その結果、プログラム後に自己効力感尺度得点が有意に上がったため、このプログラムが効果的であったことが明らかになった。 著者：奥田訓子　森和代　石川利江
その他（表彰等）		特記事項なし		

専任教員教育研究業績

平成30年6月8日

氏名	ふりがな	所属学科	職位	性別
山本　華子	やまもと　はなこ	保育学科	講師	男・女

担当科目名	学内委員会等（委員長）
「音楽表現ＩＢ」「「音楽表現Ⅱ」「ピアノ弾き歌い」「表現実践」「おだたん人間成長講座」	

学歴

和暦（西暦）年　月	事項	学位
平成02年03月	東京藝術大学音楽学部楽理科卒業	芸術学士
平成04年09月～平成05年08月	大韓民国政府奨学生としてソウル大学校語学研究所、ソウル大学校大学院国楽科に留学	
平成06年03月	東京藝術大学大学院音楽研究科(修士課程) 修了	修士(音楽)
平成20年03月	東京藝術大学大学院音楽研究科(博士課程) 修了	博士(音楽学)

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
帝京大学福祉保育専門学校	平成06年04月～平成15年3月	非常勤講師（保育・幼稚園コース「ピアノ」介護福祉コース「音楽」担当）
大妻女子大学	平成16年04月～現在に至る	非常勤講師（「児童音楽Ⅱ」「保育芸術」「韓国語研究」「韓国・朝鮮文化演習」「音楽の世界」担当）
日本大学	平成17年04月～平成22年02月	日本大学藝術学部ORCNANA(オープン・リサーチ・センター整備事業:日本舞踊の教育システムの文理融合型基盤研究並びにアジアの伝統舞踊との比較研究)　研究員
洗足学園音楽大学	平成20年04月～現在に至る	兼任講師(「東洋音楽史」「日本の伝統芸能と音楽」「邦楽サウンド論」「副論文作成研究」担当)
尚美ミュージックカレッジ専門学校	平成22年04月～現在に至る	非常勤講師（「民族音楽研究」「邦楽研究」「基礎音楽史Ⅰ」「基礎音楽史II」担当）
タイケン学園日本ウェルネススポーツ専門学校	平成28年04月～平成29年03月	非常勤講師（「日本語とコミュニケーション」担当）
小田原短期大学	平成29年04月～現在に至る	専任講師（「音楽表現ＩＢ」「「音楽表現Ⅱ」「表現実践」「おだたん人間成長講座」担当）

所属学会等

名称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）
東洋音楽学会	平成02年03月～現在に至る	会員（参事、RILM音楽文献目録委員会出向委員）
日本音楽学会	平成16年07月～現在に至る	会員
韓国音楽史学会	平成16年09月～現在に至る	会員
日本音楽教育学会	平成19年09月～現在に至る	会員（日韓合同ゼミナール委員）
日本保育学会	平成29年09月～現在に至る	会員
日本学校音楽教育実践学会	平成30年04月～現在に至る	会員
小田原短期大学乳幼児研究所	平成30年04月～現在に至る	研究員

社会活動等

名称	活動期間	活動内容
『月刊韓国文化』	平成09年～16年	駐日韓国大使館文化院監修『月刊韓国文化』の編集業務（企画、

		取材、執筆など)。読者対象の観光旅行随行。
文化交流コーディネート	平成15年～現在に至る	日韓交流のための伝統音楽公演のコーディネート業務。人間国宝（韓国の演奏家）を日本に招き、日本の演奏家に同行し韓国公演を行う。アメリカ・コロンビア大学の学生が日本で和楽器を学ぶ際のコーディネータも務めている。
コンサート企画・制作	平成06年～現在に至る	文京シビックホール、上野奏楽堂、成増アクトホールなどで、アジアの伝統音楽による国際交流公演を企画・制作。
韓国語通訳	平成20年～現在に至る	チョ・ソンジン(ショパンコンクール優勝)、シン・ヒョンス(ロンティボー国際コンクール優勝)、キム・ジュンヒ(ロンティボー国際コンクール2位)、チョン・キュサン（ドイツ在住クラリネット奏者）などの通訳業務（コンサート、インタビュー、講演会など)。
韓国語翻訳	平成21年～現在に至る	韓国国立国楽院の日本向けパンフレット、「日韓伝統音楽交流」公演（紀尾井ホール）などのプログラム翻訳。 科研（北海道教育大学、成城大学など）の委託を受け、韓国の音楽関連資料（教育課程含む）を日本語に翻訳。

担当教科目に関する資格・免許等

名称	取得年月	取得機関
中学校教諭一種免許(音楽)	平成02年　02月	東京都教育委員会
高等学校教諭一種免許(音楽)	平成02年　02月	東京都教育委員会

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1『越境する雅楽文化』	共著	平成21年09月	書肆フローラ	様々な「雅楽」像を立体的に描いた一冊。A5判変・231頁。担当部分「韓国近現代の雅楽―李王職雅楽部を中心に―」(193-211頁)において、近現代の韓国の宮廷音楽を具体的に紹介した。
2『李王職雅楽部の研究－植民地時代朝鮮の宮廷音楽伝承』	単著	平成23年12月	書肆フローラ	「平成23年度科学研究費助成事業学術図書」として博士論文を出版化。現在の韓国の伝統音楽の状況を把握するのに必要な植民地期の宮廷音楽機関、李王職雅楽部に多角的にアプローチした。A5判上製、全528頁。
(学術論文) 1「朝鮮植民地時代の学校唱歌研究―初等教育用唱歌集およびその所収唱歌の分析を中心に」	単著	平成05年03月	東京藝術大学 修士論文	明治43年から昭和20年までの朝鮮における唱歌の官製教科書21冊を対象とし、音楽と歌詞の面から分析を行った。その結果、植民地化の時期を追うごとに、歌詞は朝鮮語から日本語へ、内容も徐々に軍事色の強いものや日本的なものが多く占めるようになり、末期においては日本の教科書と同一のものが用いられ、日本と同様の教育が施されていたことが明らかになった。
2「李王職雅楽部に関する研究―『職員録』と聞き取り調査を中心に」	単著	平成14年03月	『青丘学術論集』第20集（韓国文化研究振興財団助成研究）	戦後50年以上過ぎた調査時点において、被支配者である李王職雅楽部所属の演奏家たちが語った植民地期の記憶を改めて検討し、植民地化を新たな視覚から捉えることを試みた。107-154頁。
3「宗廟における李王職雅楽部の活動－一九二〇、三〇年代を中心に」	単著	平成17年08月	『東洋音楽研究』第70号（東洋音楽学会）	韓国のユネスコ世界遺産に指定された宗廟祭礼楽と佾舞は、植民地期を経て現在に引き継がれた。1920、30年代の資料をもとに当時の宗廟祭礼楽の実態を探り、現行のものとの違いを明らかにした。73-84頁。
4「李王職雅楽部の研究―植民地時代朝鮮の宮廷音楽伝承」	単著	平成20年03月	東京藝術大学 博士論文	植民地期(明治44～昭和20)の李王職雅楽部は韓国国立音楽機関である国楽院に継承された。本機関の様相を多角的に分析することにより、組織としての全体像と近代の宮廷音楽伝承の実態が明らかになった。

5「近現代における日韓伝統音楽の専門家養成比較～雅楽を中心に」	共著	平成20年06月	『第9回日本音楽教育学会音楽教育ゼミナール　日韓合同ゼミナール報告書』(日本音楽教育学会)	日韓の伝統音楽の専門家養成システムの中で、宮廷楽師養成に焦点を当てた比較研究。両国の所属機関の特質とその変遷に伴う楽師養成システムについて、日本は塚原康子、韓国（近代）は筆者、韓国（現代）は徐仁華が分担執筆した。20-27頁。
6「田辺尚雄の朝鮮雅楽調査がもたらしたもの」	単著	平成21年05月	『翰林日本學』第14輯(韓国・翰林大学校日本學研究所)	東洋の伝統音楽を研究した音楽学者、田辺尚雄（明治16～昭和59）が大正10年に行った朝鮮雅楽調査を現在の視点から振り返り、検討を加えた。25-48頁。
7「伝統音楽を通した国際文化交流―文化庁文化交流使、常磐津文字兵衛の韓国派遣を例に」	単著	平成22年02月	『洗足論叢38』(洗足学園音楽大学)	伝統音楽による国際文化交流の方策を模索するための一例として、常磐津文字兵衛（三味線奏者）が文化庁文化交流使として韓国に派遣されたケースを検証した。77-84頁。
8「李王職雅楽部の日本公演（一九二四年）が意味するもの―「都をどり」との関わりから」	単著	平成23年02月	『洗足論叢39』(洗足学園音楽大学)	博士論文の継続研究。大正13年、李王職雅楽部が朝鮮から京都に赴き公演した史実を、日韓の第一次資料から明らかにした。その背景にある植民地化との関わりについても検討した。139-152頁
9「1910年代朝鮮における日本伝統音楽事情1－1915年-1917年前半期の『京城日報』記事を中心に－」	共著	平成24年02月	『日本研究』32(韓国中央大学校日本研究所)	植民地期の朝鮮で日本の伝統音楽が伝承された実態を当事の新聞『京城日報』の記事から浮き彫りにした。対象種目は、能楽、浄瑠璃、尺八、近代琵琶などであり、分析により全体的な傾向を探った。李知宣（韓国の日本音楽研究者）と共著。573-595頁。
10「1910年代朝鮮における日本伝統音楽事情1－1917年後半-1919年の『京城日報』記事を中心に－」	共著	平成25年12月	『国楽教育』36(韓国国楽教育学会)	論文9の継続研究。1917年後半-1919年の『京城日報』の記事内容を概観し、論文9と同様の手法で研究した。李知宣（韓国の日本音楽研究者）と共著。105-126頁。
11「韓国国立国楽院の伝統音楽普及と音楽教育の試みについて」	共著	平成27年02月	『洗足論叢43』(洗足学園音楽大学)	伝統音楽の普及を目指す韓国の状況を探るために、国家機関である国立国楽院の役割と活動に焦点を当てた。特に学校教育に携わる音楽教師研修を実地調査し、その内容をまとめた。金奎道（韓国の音楽教育研究者）と共著。29-43頁。
12「韓国地方国楽院における国楽振興の役割と実状について－国立民俗国楽院、国立南道国楽院、国立釜山国楽院を例に」	共著	平成28年02月	『洗足論叢44』(洗足学園音楽大学)	韓国はソウルの国立国楽院を中心に3つの地方国楽院を擁し、伝統音楽の振興に注力している。地方国楽院の実地調査により、ソウルの国楽院との連携により伝統音楽の普及と教育を行っている地方国楽院の実態が明らかになった。金奎道（韓国の音楽教育研究者）と共著。15-29頁。
13「運営面から見た外国人のための和楽器教習―コロンビア大学MPプログラムを例に―」	単著	平成29年02月	『洗足論叢45』(洗足学園音楽大学)	外国人が和楽器を身につけるためのプログラムは、日本の幼児教育に伝統音楽を導入する際の参考事例にもなり得る。アメリカ・コロンビア大学の日本における和楽器研修を、コーディネータの立場から運営面に焦点を当てて分析した。93-104頁。
14「武蔵野東第一・第二幼稚園を参観して」	単著	平成29年07月	『クロストーク5号』(芸術メディア研究会)	自閉症児と健常児がともに過ごす「混合教育」で知られる武蔵野東第一・第二幼稚園を、発表会、音楽活動、自閉症児クラスと3回に分けて参観した記録。2-7頁。

15「和楽器と日本伝統音楽の普及の一施策として：コロンビア大学 MP プログラム音楽専攻者による活動に焦点を当てて」	単著	平成 30 年 02 月	『洗足論叢 46』(洗足学園音楽大学)	外国人が和楽器を身につけるためのプログラムは、日本の幼児教育に伝統音楽を導入する際の参考事例にもなり得る。アメリカ・コロンビア大学の日本における和楽器研修の参加者（音楽専攻者）による活動を取り上げ、日本伝統音楽と和楽器の普及の一施策として提示した。355-363 頁。
16「幼児教育における「わらべうた」と「伝統的な遊び」の導入に関する一考察～新旧幼稚園教育要領と日韓音楽教育の比較より～」	共著	平成 30 年 03 月	『小田原短期大学研究紀要第 48 号』(小田原短期大学)	平成 29 年に幼稚園教育要領が改正され、「環境」の領域において「わらべうた」「伝統的な遊び」という用語が新たに追記された。そこで、新旧要領の比較により保育者養成校で今後どのような取り組みが必要となるか検討し、さらに日韓音楽教育の比較により今後の日本の幼児教育の方向性について探った。9-18 頁。
（その他・科研） 日本の伝統音楽文化の特質に根ざした音楽科教材開発と授業プログラム作成	共同	平成 24 年 04 月～平成 27 年 03 月	科学研究費助成による研究	研究代表者：澤田篤子。研究分担者として参加。授業プログラムの作成にあたり伝統音楽が指導内容の 30～40%を占める韓国の実践状況を調査し参考にした。特に伝統音楽を用いた韓国の幼稚園やその教育課程の調査を担当した。
（その他・口頭発表など） 1「アジアの伝統芸能にみる運動表現の民族的特性－韓国仮面劇「固城五広大」の様式性と運動表現の特徴」	共同	平成 09 年 10 月	日本体育学会 第 50 回記念大会 体育・スポーツ関連学会連合大会	韓国の仮面劇「固城五広大」について、朝鮮王朝後期の民衆文化の芸能様式と表現内容および運動表現の特徴を分析した。舞踊動作においては三拍子系のステップと腕を水平に保持する動作が特徴的であった。島内敏子、車玉秀、北野啓子、中村恭子、多田五月と共同発表。
2「宗廟における李王職雅楽部の活動－1920、30 年代を中心に」	単独	平成 16 年 10 月	東洋音楽学会 第 55 回大会	ユネスコの世界遺産に指定されている宗廟祭礼楽と佾舞を、植民地期の第一次資料から調査し、その実態について発表した。
3「日本の公文書類に残された「李王職雅楽部」関係記録－『職員録』と『宮内省省報』を中心に」	単独	平成 16 年 11 月	日本音楽学会 第 55 回大会	植民地期朝鮮の李王職雅楽部の楽師は日本の宮内省に属し、日本の公務員として活動したため、日本の『職員録』と『宮内省省報』に個人情報が記されている。彼らの氏名、創氏改名、生没年、所属機関などを抽出して整理した。
4「李王職雅楽部関連資料に関する検討―肄習会プログラムを例にとって」	単独	平成 17 年	韓国国楽学会・ICTM 韓国支部共催国際会議(韓国ソウル市)	李王職雅楽部がレベル向上のために毎月開いていた「肄習会」のレパートリー研究。プログラムはオリジナルと復刻版２種類が存在する。内容を精査した上で復刻版の問題点を指摘した。
5「近現代における日刊伝統音楽の専門家養成比較－雅楽を中心にー」	共同	平成 20 年 01 月	第９回日本音楽教育学会ゼミナール 日韓合同ゼミナール	日韓の伝統音楽の専門家養成システムの中で、宮廷楽師に関する変化は著しい。両国の所属機関の特質とその変遷に伴う楽師養成システムを検討するために塚原康子、徐仁華と共同発表した。
6「李王職雅楽部の日本公演(1924 年)が意味するもの―「都を	単独	平成 21 年 10 月	東洋音楽学会 第 60 回大会	博論の継続研究として発表。大正 13 年、李王職雅楽部が朝鮮から京都に赴き公演した史実を日韓の第一次資料から明らかにした。その背景にある植民地化との関わりを検討した。

どり」との関わりから―」				
7「日本音楽研究における在外資料をめぐる諸課題と可能性」	共同	平成26年11月	日本音楽学会 第65回大会	日本の伝統音楽の研究における一次資料については、国外資料の中に大きな手がかりが期待できる例も少なくないため、在外資料の諸課題や可能性について議論した。山本百合子、深堀彩香、前原恵美、茂手木潔子と共同発表。
8「韓国国立国楽院の伝統音楽普及と音楽教育の試みについて」	単独	平成26年11月	東洋音楽学会 第65回大会	伝統音楽の普及に国を挙げている韓国の状況について国立国楽院の役割と活動に焦点を当てた発表。特に学校教育に携わる音楽教師研修を実地調査し、その内容をまとめた。日本の伝統音楽への取り組みについても検討した。
9「韓国地方国楽院における国楽振興の役割と実状について－国立民俗国楽院、国立南道国楽院、国立釜山国楽院を例に－」	共同	平成27年10月	東洋音楽学会 第66回大会	韓国はソウルの国立国楽院を中心に３つの地方国楽院を擁し、伝統音楽の振興に注力している。地方国楽院の実地調査を行い、韓国の音楽教育と伝統音楽の普及の側面について金奎道と共同発表した。
10「日本の雅楽における復元と創造―芝祐靖と伶楽舎の活動を中心に」	単独	平成27年11月	東アジア音楽考古学国際学術会議（韓国ソウル市）	すでに失われてしまった古代音楽の復元は洋の東西を問わず大きな課題である。様々な立場から試みられている日本の雅楽の復元について検討しながら、芝祐靖と伶楽舎の活動を主に紹介した。
11「日韓における伝統音楽の海外普及－韓国国立国楽院「国際国楽研修」とコロンビア大学「MP プログラム」の比較による提言－」	単独	平成28年08月	第 10 回クロスメディア研究会（韓国ソウル市）	日韓の伝統音楽を外国人に教習するプログラムとして、韓国音楽では国際国楽研修を、日本音楽ではコロンビア大学MPプログラムを取り上げ比較した。
12「コロンビア大学MPプログラムについて－日本伝統音楽の海外普及の一事例として」	単独	平成28年10月	日本音楽教育学会 第47回大会	コーディネータの立場から、日本の和楽器を学ぶ MP プログラムの概要をまとめ、外国人が日本の和楽器を学ぶ際の方法論、課題、意義などを明らかにした。
13「実習現場での音楽表現活動について～保育者養成校に求められる音楽授業～」	共同	平成30年05月	日本保育学会 第71回大会	小田原短期大学平成28年度入学生保育学科2年生必修科目「ピアノ弾き歌い」「音楽表現Ⅰ、Ⅱ」 履修学生に実習に関するアンケートを行い、保育現場の楽曲の活用状況を調査した。既習曲・未習曲を活用状況に分けて分析した結果、今後の課題として授業での学びが活かせる教材選択や音楽授業の工夫や連携した取り組みが指摘された。
14「新しい楽器やリズムとの出会い - 伝統音楽や民族楽器を導入した授業の展開」	共同	平成30年05月	日本保育学会 第71回大会	小田原短期大学平成28年度入学生保育学科2年生選択科目「表現実践」において、新しい試みとして伝統音楽、民族楽器を実践した。授業内容の報告に加え、アンケート調査及び記録映像により履修学生の反応を分析し、今後の課題を明らかにした。
（その他・報告書） 日本舞踊の教育システムの文理	共著	平成20年09月	ORCNANA プロジェクト	日本大学藝術学部 ORCNANA(オープン・リサーチ・センター整備事業の報告書。編集担当・一部執筆。全７部からなり、公開講座、シンポジウム、研究発表会

融合型基盤研究並びにアジアの伝統舞踊との比較研究				などの成果をまとめ、日本舞踊教育の調査内容を報告した。そのうち保育園・幼稚園あわせて 24 校にアンケートを実施し、その内容を集計した。
その他　(表彰等)		特記事項なし		

専任教員教育研究業績

平成 30 年 5 月 1 日

氏名	ふりがな	所属学科	職位	性別
佐藤　みどり	さとう　みどり	保育学科	学科長 (教授) 准教授・講師・助教	男・(女)

担当科目名	学内委員会等（委員長）
身体表現Ⅰ　身体表現Ⅱ　表現総合演習（身体）　健康・スポーツ実技	

学歴

和暦（西暦）年　月	事項	学位
昭和 52（1977）年　3 月	秋田大学教育学部中学高校教員養成課程保健体育専攻　卒業	学士（教育学）
昭和 56（1981）年　3 月	お茶の水女子大学大学院人文科学研究科修士課程 （舞踊教育学専攻）修了	修士（文学）
昭和 60（1985）年　4 月	千葉大学医学部第 2 生理学研究室・研究生　（～昭和 61 年 3 月）	
平成 26（2014）年　4 月	放送大学 大学院修士課程（人間発達科学）　入学	
平成 28（2016）年 10 月	放送大学 大学院修士課程（人間発達科学）　在学中	

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
埼玉大学教育学部 （非常勤講師）	平成 7 年 4 月 ～平成 7 年 9 月	「ダンスⅠ」担当
群馬大学教育学部 （非常勤講師）	平成 11 年 4 月 ～平成 13 年 3 月	「ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ・ダンス」担当
国際武道大学体育学部 教授	平成 12 年 4 月 ～平成 24 年 3 月	「基礎ダンス指導法」「身体表現論」「卒業演習」担当 （大学院）平成 20 年 4 月～「身体表現論特講・特演」担当
国際武道大学体育学部 （非常勤講師）	平成 24 年 4 月 ～平成 30 年 3 月	（大学院）「身体表現論特講」担当
田園調布学園大学子ども 未来学部（非常勤講師）	平成 27 年 4 月 ～平成 30 年 3 月	「子どもと身体表現Ⅰ・Ⅱ」担当
淑徳短期大学こども学科 （非常勤講師）	平成 29 年 4 月 ～現在に至る	「身体表現」担当
小田原短期大学保育学科	平成 27 年 4 月 ～現在に至る	教授

所属学会等

名称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）
日本体育学会	昭和 55 年　4 月～現在	大会参加・口頭発表
舞踊学会	平成　4 年 10 月～現在	大会参加
日本教育大学協会	平成 12 年 10 月～現在	大会参加・口頭発表

社会活動等

名称	活動期間	活動内容
（社）現代舞踊協会会員	昭和 59 年 4 月　～現在	舞踊情報センター副部長（平成 20 年 8 月～22 年 3 月）
舞踊作家協会	平成 28 年 9 月　～現在	協会員（出演・出品等）
（社）日本女子体育連盟 授業研究グループ	平成 3 年 4 月 ～平成 10 年 3 月	研究員 （平成 8 年 4 月～10 年 3 月本部役員）
夏期講座 C コース （中学校・高等学校）	平成 17 年 8 月 ～18 年 8 月	（社）日本女子体育連盟主催 平成 17 年度・18 年度　ダンス実技講習講師
小学校体育授業に役立つ研修会「表現運動」	平成 19 年 8 月	神奈川県立体育センター主催 平成 19 年度　実技講習講師
ジュニア舞踊公演 明日の新人公演	平成 20 年 8 月	(社)現代舞踊協会主催 ジュニア賞および明日の新人賞選考委員
保健師対象実技講習（高齢者のための健康づくり）	平成 24 年 12 月	千葉県いすみ市役所健康高齢者支援課健康づくり班主催 実技講習講師

平成 22 年度教員免許状更新講習「小学校教諭および中学・高校保健体育教諭」	平成 22 年 8 月	【選択領域】「表現運動・創作ダンス授業に対応できる指導力の養成」を担当【認定番号：平 22-30111-63572 号】 対象：小学校教諭および中学・高校保健体育教諭 ＜於：国際武道大学＞
平成 27 年度教員免許状更新講習（10 年経験者研修）	平成 27 年 7 月 27 日	【必修領域】幼稚園をめぐる教育の最新事情 「子どもの身体表現に関する理論と実践」（講義） 俯瞰番号 C1-I C3-I 文科省認定番号　平 27-81340--00671 号 主催：公益財団法人　全日本私立幼稚園幼児　教育研究機構
平成 29 年度教員免許状更新講習（10 年経験者研修）	平成 29 年 6 月 24 日	【必修領域】教育の最新事情 「子どもの身体表現に関する理論と実践」（講義） 俯瞰番号 B2-Ⅲ,E6-1 文科省認定番号平 29-80012-100452 号 主催：公益財団法人　全日本私立幼稚園幼児　教育研究機構

担当教科目に関する資格・免許等

名　称	取得年月	取得機関
小学校教諭 1 級普通免許状	昭和 52 年 3 月	秋田県教育委員会（昭 51 小 1 普第 218 号）
中学校教諭 1 級普通免許状（保健体育） 高等学校教諭 2 級普通免許状（保健体育）	昭和 52 年 3 月	秋田県教育委員会（昭 51 中 1 普第 220 号） 秋田県教育委員会（昭 51 高 2 普第 139 号）

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概　要
（著書） 1. 明日からトライ！ダンスの授業「視線のゆくえ～ｲﾝ・ﾌｫｰｶｽｰｱｳﾄﾌｫｰｶｽ～」	共著	平成 23 年 9 月	大修館書店 総ページ 159	ダンスの必修化に向けた中学校を対象にした指導法の提示。創作ダンス学習における発展的段階の視線で表現空間を広げる課題である。(分担)110-111 編者：全国ダンス・表現運動授業研究会
2.ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ対応 乳児保育	共著	平成 30 年 3 月	萌文書林 総ページ 247	一日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践書であり、理論編と実践編に分かれており、実践編は書き込み方式となっている。(分担)65-66,85-91
3.教育・保育実習に役立つ部分実習指導案	共著	平成 30 年 3 月	萌文書林 総ページ 121	幼稚園教諭・保育士を目指す人のための実践書であり、部分実習指導のときに実習生が取り組やすい表現系の指導案を集めたものである。 (分担)70-73,88-91
（学術論文） 1. 創作ダンスにおける学習者の技能評価-技能評価規準作成の試み-	共著	平成 17 年 5 月	舞踊学研究 第 7 号：3-17	現場のダンス授業に直接役立つ資料を得る目的で、中学校のダンス初心者の生徒を対象に、ダンスの技能特に踊る力を評価する規準表 10 項目を試案として作成した。
2.ダンス分野における質的研究の可能性	共著	平成 18 年 3 月	国際武道大学 研究紀要 第 21 号：33-41	ダンスに関する研究において、これまで主流をなしてきたダンスの量的研究に加え、質的研究の可能性を示すことで芸術と科学の統合をめざそうとするものである。
3. ダンスレッスンにおける言語的フィ	共著	平成 19 年 3 月	国際武道大学	ダンスの基本的レッスンと舞台活動を継続している男性ダンサーR.F の内省記録に着目し、初心・初

ードバックに関する一考察-ダンサーの内省記録に着目した事例			研究紀要 第 22 号 : 77-88	級・中級段階における言語的フィードバックの変容を明らかにすることで、ダンス指導法の一資料を得ることを目的とした。
4. ①保育者養成課程における身体的表現活動に関する学習内容の検討	共著	平成 20 年 3 月	国際学院埼玉短期大学研究紀要 第 29 号 : 101-108	① 保育内容「表現」として相応しい身体表現の授業を実施する目的で、先行研究等から資料を得て、幼稚園と保育園の保育内容について比較検討を行った。
②保育者養成課程における 身体的表現活動に関する学習内容の検討Ⅱ-学生の内省記録に着目した事例-	共著	平成 21 年 3 月	国際学院埼玉短期大学研究紀要 第 30 号 : 27-37	② 学習者の身体表現に対する「恥ずかしさを払拭する手がかりを、内省記録から探った。実技試験の実施等が有効である可能性が示唆された。
5.ダンサーR.F の技能習熟過程に関する事例研究-10 年間に及ぶ練習日誌から資料を得て-	共著	平成 22 年 3 月	国際武道大学 研究紀要 第 25 号 : 55-67	ダンスの習熟過程を追跡した質的研究である。基本レッスンと舞台活動を継続している男性ダンサー１名の 10 年間におよぶ練習日誌に着目し、指導者から受け止めた助言の変容を詳細に分析することで、ダンスの技能習熟課程を明らかにし、ダンス指導法研究の一助とした。
6. アクティブラーニング学習効果尺度作成の試み～音楽・造形・身体表現系と障害児保育演習授業に着目して～	共著	平成 29 年 3 月	小田原短期大学 研究紀要　第 47 号 56-63	表現系（造形・音楽・身体）授業等のアクティブラーニング学習効果尺度を作成し、その信頼性と妥当性を検討した。その結果、アクティブラーニング型授業を受けることで、学びを通して保育者になることを強く意識し、「自己成長」「学習意欲」「学習意欲」「専門知識の探求」の 4 因子が見いだされた。
7.保育者養成課程における「身体表現」科目の学習内容の検討―アクティブラーニングに視点を置いた分析	単著	平成 29 年 10 月	淑徳短期大学 研究紀要　第 57 号 : 109-121	保育者養成課程における身体表現科目を、アクティブラーニングの視点から学習者の内省記録をもとに分析した。3 つの視点に沿って大項目「知識・技能」31%「思考力・判断力・表現力」29%「主体的に学習に通り組む姿勢」40%と分類ることができた。最も記述数が多かった小項目「他者交流」に着目したところ、「主体的で対話的な学び」は実現されていたものの「深い学び」に至っていなかった課題が見いだされた。
8.アクティブラーニング型授業の学習効果に関する基礎的研究～短縮版尺度の作成と信頼性・妥当性の検討～	共著	平成 30 年 3 月	小田原短期大学紀要 第 48 号　1-7	主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニングの視点からの授業改善）の実現が求められるなかで、4 因子構造の短縮版アクティブラーニング授業評価尺度を作成した。12 項目で構成されていることから、簡便に測定が可能となった。「学習行動の拡大」「課題の発見」「能動的応答」「保育実践力の形成」の 4 因子の構造方程式モデリングを検討し、アクティブラーニングによる授業展開が学習効果につながる経路を示すことができた。

（報告書） 1. 教師のことばがけから始まるダンスの授業-学生同士が身体で語り合うまで-	単著	平成 17 年 6 月	女子体育 47(6):44-47	教員養成のためのダンス実技授業において、導入段階の指導言語と学生の反応を詳細に記述し、どのように学習者が“身体表現”の世界に引き込まれていくかを分析した。
2.ゆだねる身体・かかわる身体-イメージの共有から生まれる 相互作用	単著	平成 19 年 9 月	女子体育 49(9):26-31	体育大学の専門科目としてのダンス授業を紹介し、身体教育の意義について論じた。“脱力”を、水の入った袋を観察・一体化することで体験させる「体ほぐし」の学習の実践報告。
3.シンポジウム「動きから身体・人間の可能性を探る」要旨	単著	平成 20 年 3 月	武道・スポーツ科学研究所年報 第 13 号：170-182	身体科学会でのシンポジウム内容を記載した。 モダンダンス（現代舞踊）とは何か、という定義づけに始まり、現代舞踊の特性から、人間のもつ発信力・受信力について考察を加えた。(分担) 174-176
口頭･ﾎﾟｽﾀｰ発表 1. ダンスレッスンにおける言語的フィードバックに関する一考察-ダンサーの内省記録に着目した事例-	共　同	平成 18 年 5 月	千葉県体育学会 平成 18 年 前期発表会 （於：千葉大学）	ダンス初心者の 4 年間におよぶ内省記録をもとに、その習熟過程を追跡することでダンス指導の一助とした。初心者の段階では、“大きく思いきり身体を動かす”に関する指導助言が有効であり、中級者の段階では“動きの流れ、つながり”に関した指導助言が有効に働くことが明らかになった。技能段階に適した指導助言が有効であることが示唆された。
2. How to Evaluate Creative Dance:Comparative Study between Teachers and Learners 「創作ダンスにおける学習者の技能評価―技能評価基準作成の試みー」	共同	平成 29 年 5 月	International Association of Physical Education and Sport for Girls and Women(IAPESGW) World Congress （第18回国際女子体育会議・Barry 大学) マイアミ・アメリカ	身体表現やダンスは評価の仕方が難しいと言われる。そこで、熟練した指導者と未熟練者の VTR 鑑賞からの評価比較を行った。熟練指導者は、評価基準（先行研究・細川らの試案）に沿って多角的な観点から子どもたちの動きを評価し、未熟練者は各人で評価観点が偏る傾向がみられた。身体表現やダンスの指導では、多角的・具体的に動きや作品を評価する能力が必要であり、細川らの評価基準 10 項目が有効であると判明した。
（講演等） 1. 現代舞踊の動きの特質と身体表現が目指すもの	共同	平成 19 年 12 月	人体科学学会 第 17 回大会 （於：国際武道大学）	「動きから身体・人間の可能性をさぐる」をメインテーマに①科学における人間の動き②伝統における人間の動き③身体表現論と文化論からみた人間の動きの 3 部門に分かれ、研究発表とディスカッションを展開。「現代舞踊の動きの特質と身体表現が目指すもの」と題し、現代舞踊の歴史、創作過程におけるコミュニケーションに関する口頭発表と舞踊作品の実演を担当。
（舞踊歴） 1.　新鋭・中堅舞踊家による現代舞踊公演	群舞 （合同）	平成 18 年 6 月	（東京芸術劇場 中ホール）	〔平成 18 年度文化庁芸術団体人材育成支援事業〕 (社)現代舞踊協会主催 創作作品：「傘ノ下ニ」 振付・出演　(6 月 9 日)
2.全国舞踊コンクール上位入賞者によるアンコール公演	群舞 （客演）	平成 19 年 8 月	（めぐろパーシモン 大ホール）	東京新聞主催 創作作品：「存在は幻影をまとう」 振付・出演　(8 月 11 日)

3. 時代を創る現代舞踊公演	群舞（合同）	平成 20 年 9 月	（東京芸術劇場 中ホール）	〔平成 20 年度文化庁芸術団体人材育成支援事業〕 (社)現代舞踊協会主催 創作作品：「私という名の隣人～Who are you？～」振付・出演（9 月 16 日）
4.Vibrate'09 つながる水～水の都市アムステルダムー東京～	群舞（客演）	平成 21 年 3 月	（アサヒ・アートスクエア）	〔日本・オランダ年 2008-2009 認定事業〕 オランダ王国大使館協賛 創作作品：「つながる水～水の都市 アムステルダムー東京～」 出演 （3 月 5/6 日）
5.HITEN PROJECT FINAL「散華の 瞬間（とき）」	群舞（客演）	平成 22 年 1 月	（新国立劇場 小劇場）	イシグロダンスシアター主催 宇宙航空研究開発機構〔JAXA〕協力 創作作品：「“HITEN PROJECT FINAL” 『散華の瞬間（とき）』」 出演（1 月 8/9 日）
6.現代舞踊展 2011	群舞（合同）	平成 23 年 7 月	（メルパルクホール TOKYO）	東京新聞主催 創作作品：「田園」 振付・出演（7 月 8 日）
7.Dance Performance Free Package vol.31	群 舞（合同）	平成 24 年 9 月	（六本木 俳優座劇場）	Sun Arts produce 創作作品：「someday」 振付・出演(9 月 19 日）
8. 現代舞踊展 2013	群 舞（合同）	平成 25 年 7 月	（メルパルクホール TOKYO）	東京新聞主催 創作作品：「飼いならされたコトバたち」 振付・出演 （7 月 13 日）
9.詩とモダンダンス（谷川賢作さんの指に止まれ）	群舞（客演）	平成 26 年 5 月	（名古屋・ うりんこ劇場）	水内喜久雄 produce 創作作品：「このカフェには迷路が・・・」 振付・出演(5 月 10 日）
10.現代舞踊展 2015	群舞（合同）	平成 27 年 7 月	（メルパルクホール TOKYO）	東京新聞主催 創作作品：「存在は幻影をまとう」（初演 2007 年） 振付・出演（7 月 11 日）
11.DANCE 夢洞楽 2016	群舞（合同）	平成 28 年 8 月	北沢タウンホール	Project NAO Presents 作品：「Orderly days～名もなき日々に～」 振付・:出演（8 月 9 日）
12. 日仏友好コンサート舞踊作家協会特別公演ﾊﾟﾘ、ﾄｰｷｮｰ、ﾐｭｰｼﾞｯｸ･ﾀﾞﾝｽ 2016	群舞（合同）	平成 28 年 10 月	(豊洲文化センター)	舞踊作家協会連続公演 N0.177 作品：「愛 3 題」 振付：石黒節子 出演：(10 月 31 日）
13. Oh!?Dance2016	群舞（合同）	平成 28 年 12 月	（恵比寿エコー劇場）	Sun Arts produce 創作作品：「東京～止まない雨～」 振付・出演（12 月 10 日）

14.舞踊展 2017	群舞 （合同）	平成 29 年 7 月	（メルパルクホール TOKYO）	東京新聞主催 創作作品：「そのカフェには迷路があります」 （初演 2007 年） 振付・出演（7 月 11 日）
15. DANCE 夢洞楽 2017	独舞 （合同）	平成 29 年 8 月	成城ホール	Project NAO Presents 創作作品：「drop」 振付・出演（8 月 10 日）
その他　(表彰等)	（東京新聞主催）全国舞踊コンクール創作舞踊部第 3 位　受賞			

専任教員教育研究業績

平成30年　6月　5日

氏名	ふりがな	所属学科	職位	性別
尾野　明美	おの　あけみ	保育学科	学科長 教授・准教授・講師・助教	男・女

担当科目名	学内委員会等（委員長）
乳児保育Ⅱ　障害児保育Ⅰ・Ⅱ　教育実習指導　保育実習指導Ⅰ　保育実習指導Ⅱ　保育実習指導Ⅲ　社会的養護内容　相談支援	

学歴

和暦（西暦）年　月	事項	学位
平成19年4月	桜美林大学大学院　健康心理学専攻　（修士課程）入学	
平成21年3月	桜美林大学大学院　健康心理学専攻　（修士課程）修了	健康心理学修士
平成21年4月	桜美林大学大学院　博士後期課程　国際人文社会科学専攻　入学	
平成24年3月	桜美林大学大学院　博士後期課程　国際人文社会科学専攻　満期退学	
平成25年3月	桜美林大学大学院　国際人文社会科学　研究生	博士（学術）

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
千葉経済大学	平成25年4月現在に至る	非常勤講師　「心理学概論」
横浜市福祉保健センター	平成25年4月現在に至る	発達相談員　非常勤職員
近畿大学九州短期大学　通信教育部	平成25年4月 平成27年3月まで	非常勤講師　「乳幼児心理学」
日本ウェルネススポーツ専門学校　チャイルド学科	平成26年9月から 平成27年3月まで	非常勤講師　「教育原理」
（社）横浜市総合リハビリテーションセンター	平成26年9月から 平成27年5月まで	更生相談所委託　障害者手帳判定員　非常勤職員
小田原短期大学	平成27年4月現在に至る	准教授

所属学会等

名称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）
日本健康心理学会入会	平成20年6月	平成27年　第28回大会　運営委員
日本ヒューマン・ケア心理学会	平成21年5月	
日本発達心理学会入会	平成23年3月	

社会活動等

名称	活動期間	活動内容
桜美林大学　市民大学講座	平成26年9月から現在に至る	「健康心理学講座とコアストレッチによる健康増進」市民向け一般講座を開催

担当教科目に関する資格・免許等

名称	取得年月	取得機関
専門健康心理士	平成21年3月	（財）日本健康心理士学会

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
（著書） 1.『障害百科事典』	一部翻訳	平成25年1月	日本特殊教育学会／訳編（丸善出版）	アメリカンライブラリージャーナルのベストレファレンス賞を受賞した“Encyclopedia of Disability”の全訳。一部翻訳　　編者：日本特殊学会
2.『はじめて学ぶ心理学　―心の	共著	平成27年4月	大学図書出版	心理学をはじめて学ぶ人のためのテキスト。第8章「性格」を執筆。編者：井梅由美子・渡辺千歳。

形成・心の理解―』				
3.『障害児保育理論と実践』	編者	平成 28 年 3 月	萌文書林	保育士の資格取得を目指す人向けの障害児保育のテキスト。
4.『アクティブラーニング対応エピソードから読み解く障害児保育』	共著	平成 29 年 3 月	萌文書林	保育士資格取得を目指す人向けの障害児保育のテキスト。アクティブラーニングに対応した書き込み式のワークブック。編者：尾野明美・小湊真衣
5.『ライフコースの健康心理学』	共著	平成 29 年 3 月	晃洋書房	健康心理学の入門テキスト。コラム「障害児の親支援」監修：森和代　編著：石川利江・松田与理子
6.『アクティブラーニング対応　乳児保育　一日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践』	共著	平成 30 年 2 月	萌文書林	「乳児保育 1」で学んだ知識を保育所・幼稚園の現場で役立てるように、具体的な場面で実践できることを目的にし、事例を中心にしたアクティブラーニング型授業に対応する構成にした。学修者が主体的に対話的に演習に取り組み、深い学びになるように工夫をした。（尾野明美・小湊真衣・菊地敦子編者、他 6 名が執筆分担し、それを編集した）
（学術論文） 1.障害児をもつ母親の子育てストレスへの対処と社会的支援	単著	平成 21 年 3 月発表	桜美林大学大学院	幼児期の障害児をもつ母親の育児ストレス軽減に求められる社会的支援を検討するにあたり、健常児の母親との比較検討を用いて明らかにした。障害児の母親は，夫や家族サポートの他に，周囲からの理解と支援が得られるかどうかが，育児ストレスに影響することを明らかにした。
2.子育てレジリエンス尺度の作成	共著 査読つき	平成 23 年 9 月 発行	『ヒューマン・ケア研究』　第 12 号（日本ヒューマン・ケア心理学会） "	幼児期、児童期の子どもを育てる母親を対象にして、子育てにレジリエンスの概念を適応させ、その構成要素を探索し、尺度の作成を試みた。 「ペアレンタル・スキル（I have）」、「ソーシャルサポート（I can）」、「母親としての肯定感（I am）」の 3 因子で構成された子育てレジリエンス尺度を作成した。その妥当性と信頼性を確認した。（尾野明美・奥田訓子・茂木俊彦）
3.障害児をもつ母親の子育てレジリエンスに関する研究	共著 査読つき	平成 24 年 3 月発行	『桜美林大学心理学研究』第 2 号（桜美林大学　大学院心理学研究科） "	子育てレジリエンス備えた幼児期／児童期の子どもをもつ母親は、育児負担感が低く、自己効力感が高く、精神的健康度が高いことを示した。知的障害の子どもの母親は、子育てレジリエンスの「ペアレンタル・スキル」因子が低いことが示された。障害児を育てていくうえでより適応的に柔軟に子育てしていくには、育児負担感の軽減と自己効力感を育てることが有効であることを示した。 （尾野明美・茂木俊彦）
4.障害児をもつ母親の子育てストレスへの対処と社会的支援について　―多母集団同時分析による健常児との比較検討―	共著 査読つき	平成 24 年 11 月発行	『ストレス科学研究』第 27 号	障害児を持つ母親への社会的支援を健常児の母親との比較検討を用いて、比較検討をした。障害児の母親は，夫や家族サポートの他に，周囲からの理解と支援が得られるかどうかが，育児ストレスに影響する。さらに，障害児を持つ母親にとって，公的機関等のフォーマルなサポートは，「単に情報提供だけでなく，「カタルシス」や「気晴らし」の心的な安寧に寄与していることを確認し、より有効な支援を明らかにした。（尾野明

				美・茂木俊彦)
5.感情共有コミュニケーション尺度開発の試み	共著 査読付き	平成 25 年 3 月発行	『桜美林大学心理学研究』3 号（桜美林大学大学院心理学研究科)	福祉専門職の職場チーム内で職務上生じる感情を共有するコミュニケーション尺度の作成を試みた。職場内で感情を表現することをあきらめる、感情を共有しないようにすることは、また、過度に感情を表現したり、抑制することは、精神的健康が損なわれることを明らかにした。職場チームで、共有を目的とした感情表現の仕方についてのアセスメントツールとして有用性を確認した。(奥田訓子・尾野明美・茂木俊彦)
6.母親の子育てレジリエンスに関する研究―子育てレジリエンス尺度の作成および子育て支援プログラムの適用を通して	単著	平成 26 年 3 月 1 日	桜美林大学大学院学位論文	子育てにレジリエンスの概念を適応して、乳児期・児童期の障害児の母親の子育てにおける心理を明らかにした。子育てレジリエンスが促進されることによって、ストレスの対処が適切になり、柔軟に適応的にストレスに対応することができる。子育てレジリエンスの有効性を明らかにすることができた。健常児の母親との比較検討から、障害児の母親のレジリエンスの特徴を明らかにした。
7.アクティブラーニング学習効果尺度の作成の試み	共著	平成 29 年 3 月	小田原短期大学紀要研究ノート	アクティブラーニング型に授業を展開した際に、学生の学習効果を測るための尺度の開発を試みた。アクティブラーニング授業を取り組むことから「自己の成長」、「学習意欲」、「学習姿勢」、「専門知識の探求」の 4 つの因子で構成されているアクティブラーニング学習効果尺度を作成した。その妥当性と信頼性を確認した。
8.保育者養成課程の学生のレジリエンスの検討―自己教育力と職業レディネスとの関連に着目して―	共著	平成 29 年 3 月	小田原短期大学紀要研究ノート	学生のレジリンスと自己教育力の関連性について，さらに学生が職業に就くことに対してどの程度成熟した考えを持っているかを知るために職業レジリエンスについて，質問紙調査を用いて検討し、レジリエンスの高い学生は，ストレスや問題に対処するときにそこから逃げるのではなく，問題に積極的に向かって対処して，精神的に健康であることを明らかにした。
9. アクティブラーニング型授業の学習効果に関する基礎的研究～短縮版尺度の作成と信頼性と妥当性の検討 (査読有)	共著	平成 30 年 3 月	『小田原短期大学紀要』48 号 p1-8	4 因子構造の短縮版アクティブラーニング授業評価尺度を作成した。12 項目で構成されていることから、簡便に測定が可能となった。「学習行動の拡大」「課題の発見」「能動的応答」「保育実践力の形成」の 4 因子の構造方程式モデリングを検討し、アクティブラーニングによる授業展開が学習効果につながる経路を示すことができた。(尾野明美・佐藤みどり・齋藤史夫・水野道子・高地誠子・中山貴太)
10. 障害児をもつ母親への子育てレジリエンス促進プログラムの開発と評価の試み	共著	平成 30 年 6 月予定	『Journal of Health Psychology Research 』 Vol.31, Special issue 日本健康心理学会	障害児をもつ母親を対象に、肯定感，子育てスキル，サポートシステム構築を促進することを目的にした子育てレジリエンス促進プログラム開発し実施し、母親のレジリエンスを向上させるために心理的に有効であることを実証検証した。(尾野明美・奥田訓子)
(学術雑誌) 1.「障害のある子どもを持つ母親の子育てレジリエンス」		平成 29 年 11 月	「教育と医学」773 号 p 34-42 慶応義塾大学出版会	子育てにおけるレジリエンスの特集に「障害のある子どもを持つ母親の子育てレジリエンス」を掲載。教育関係の方々に、障害児をもつ子どもの母親の子育てにレジリエンスの概念を適応し、母親の心的特徴と支援について解説した。博士学位論文を一般向けにまとめた。

（学会発表） 1.障害のある幼稚園児をもつ母親の子育て支援～レジリエンスを高める介入を通して		平成 27 年 9 月	健康心理学会第 28 回大会　会員企画シンポジュウム「障害児者のエンパワメントを促進するための健康心理学的アプローチを考える」	障害のある幼児を子育てしている母親を支援するのに、子育てにおけるレジリエンスを高めることを目的とした子育て講座の有効性を示し、子育て支援にレジリエンスの概念を取り入れることを提唱した。
2.乳幼児発達相談から 5 歳児乳幼児健診の必要性の検討		平成 27 年 11 月	日本子育て学会第 7 回大会、準備委員会企画シンポジウム「子ども向け発達検査の今までと、これから」	3 歳児健診で問題がなかったが、保育所や幼稚園等の集団生活を受けることで、社会性の問題や、軽度の発達障害の問題が明らかになる子が増えている。就学前にそれらの幼児の発見と早期支援につなげるために、3 歳児以降の子どもを対象にした発達検査の必要性についての問題提供をした。
（その他）				
その他 (表彰等)			特記事項なし	

専任教員教育研究業績

平成30年 4月12 日

氏名	ふりがな	所属学科	職位	性別
高地　誠子	こうち　せいこ	保育学科 通信教育課程	講師	女

担当科目名	学内委員会等（委員長）
・音楽表現ＩA、音楽表現ＩB、音楽表現Ⅱ、音楽表現Ⅲ（通信） ・表現実践（通学）	

学歴

和暦（西暦）年　月	事項	学位
昭和55（1980）年4月	武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科器楽専攻（ピアノ）入学	
昭和59（1984）年3月	武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科器楽専攻（ピアノ）卒業	芸術学士取得
昭和59（1984）年4月	武蔵野音楽大学大学院音楽研究科器楽専攻（ピアノ）入学	
昭和61（1986）年3月	武蔵野音楽大学大学院音楽研究科器楽専攻（ピアノ）修了	芸術学修士取得

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
横須賀学院	昭和61年5月から 昭和62年3月	初等部音楽代行講師。
横須賀学院	昭和62年5月から 昭和63年3月	中等部、高等部音楽代行講師。
小野学園附属幼稚園	昭和63年4月から 平成元年7月	音感教育講師。
日本音楽高等学校	昭和63年10月から 平成元年7月	普通科、音楽科非常勤講師。
小田原女子短期大学	平成元年4月から 平成14年3月 平成14年4月から 平成23年3月 平成23年4月から 平成26年3月	幼児教育科非常勤講師（器楽Ⅰ、Ⅱ担当）。 幼児教育科非常勤講師（音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ担当）。 保育科非常勤講師（音楽表現Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ担当）。
小田原短期大学	平成26年4月から 平成27年3月 平成27年4月から 平成28年3月 平成28年4月から 平成29年3月	・保育学科非常勤講師（音楽表現Ⅱ、Ⅲ担当）。ピアノ特別講師（1年生ピアノ実技担当）。 ・保育学科特任講師（音楽表現ＩAＩB（通信課程）、通学課程2年生特別ピアノ担当）。 通信課程の面接授業の他に、通信課程学生の為のピアノレッスンを8回行った。通学課程特別ピアノ授業において、12人の特別講師の配置、レッスン時間割作成、レッスン内容の作成を行った。有村クラス副担任としてクラス運営、担当学生の指導に携わり、実習に関わる面接、保育園、幼稚園、施設の実習巡回指導を行った。科目習得試験の試験監督を5回担当した。ぽけっとらんどスキルアップ研修講師を務めた。 ・保育学科特任講師（音楽表現ＩAＩB、Ⅱ、Ⅲ（通信課程）担当）。 通信課程の面接授業の他に、年間10回、希望者にピアノレッスンを行った。有村クラス副担任としてクラス運営、担当学生の指導に携わり、実習に関わる面接、保育園、幼稚園の実習巡回指導を行った。科目習得試験の試験監督を5回担当した。

	平成29年4月から 現在に至る	・保育学科特任講師（音楽表現ⅠA、ⅠB、Ⅱ、Ⅲ「通信教育課程」。表現実践「通学課程」担当） 通信課程の面接授業の他に、年間10回、希望者にピアノレッスンを行った。科目習得試験の試験監督を 4 回担当した。通学課程表現実践の授業を8コマ担当した。
フェリス音楽教室（フェリス女学院大学内）	平成6年4月から 現在に至る	実技科講師（ピアノ実技、 3 歳児クラス、4，5 歳クラスのピアノ導入レッスン、成人クラス担当。ソルフェージュクラス3歳、4歳クラスの伴奏ピアニストを担当）。 評議員、評議員会議長、書記、試験委員、発表会委員を歴任。
小田原短期大学乳幼児研究所付属幼児教室「おだたんくらぶ」	平成27年9月から 現在に至る	音楽担当として年間6回、2歳児の親子に音楽遊びや歌やリトミックを指導している。
ピアノ教室主宰	昭和45年8月から 現在に至る	3 歳児から大人までのピアノレッスンを行なっている。クラウス・ルンツェ著「ふたつの手・12 のキー」A を使ってピアノを使った音楽遊びからの幼児の為のピアノ導入教育を行い、1年半に一回の門下生による発表会を行っている。各種のオーディションやコンクール出場のためのレッスン、音楽大学受験のためのレッスンも行っている。

所 属 学 会 等

名 称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）
公益財団法人日本ピアノ教育連盟	平成26年5月から 現在に至る	会員。平成26年（小学生1， 2年生の部）、27年（小学生1，2年生の部）左記連盟主催ピアノオーディションに指導した生徒が入選。奨励賞受賞。また、28年、29年（小学生3， 4年生の部）には指導した生徒が入選。全国大会に選抜出場。 平成28年3月29日全国研究大会（上野学園大学）で口頭発表。 平成29年3月30日全国研究大会（東京藝術大学）で口頭発表。
一般社団法人日本保育学会	平成27年6月から 現在に至る	会員。
一般社団法人全国保育士養成協議会	平成27年6月から 現在に至る	会員。平成27、28、29年度全国保育士養成セミナー参加。

社 会 活 動 等

名 称	活動期間	活 動 内 容
社会福祉法人風祭の森太陽の門福祉医療センター（小田原市）	平成24年8月より 平成28年8月	毎年、1回ボランティアで音楽会の企画や、ピアノ演奏、朗読を行っている。
重症児、者福祉医療施設ソレイユ川崎（川崎市）	平成25年12月	ボランティアでクリスマスコンサートを行なった。
1，演奏会 ① フェリス音楽教室講師による第２７回ジョイントリサイタル	平成17年10月8日	主催：フェリス音楽教室　　於）フェリスホール ブラームス作曲ハイドンの主題による変奏曲 Op.56b(2 台ピアノ)を演奏した。
② PIANO DUO CONCERT vol.Ⅳ (2台のピアノによる)	平成18年4月28日	主催：彩音会　於）ひまわりの郷ホール（横浜市港南区民センター）ブラームス作曲ハイドンの主題による変奏曲 Op.56b(2 台ピアノ)を演奏した。
③昼のミニコンサート	平成22年10月27日	主催：小田原市　　於）小田原市役所2階ロビー 芝辻鈴子氏の独唱の伴奏をした。

④CONCERT SIMFONIC EXTRADINAR	平成23年9月30日	主催：Ateneul Roman　於）Ateneul Roman（ブカレスト） モーツァルト作曲ピアノ協奏曲KV.365をルーマニア国立ジョルジュエネスコフィルハーモニーと共演した。
⑤CONCERT SIMFONIC EXTRADINAR	平成25年9月29日	主催：Ateneul Roman　於）Ateneul Roman（ブカレスト） モーツァルト作曲ピアノ協奏曲KV.466をルーマニア国立ジョルジュエネスコフィルハーモニーと共演した。
⑥第５１回イーゲル会	平成26年9月29日	主催：イーゲル会　於）イーゲルホール シューベルト作曲「楽興の時」Op.94よりNo.1，2，3を演奏した。
⑦第５４回イーゲル会	平成27年6月15日	主催：イーゲル会　於）イーゲルホール ショパン作曲「バラード4番」Op.52を演奏した。
⑧第５５回イーゲル会	平成27年10月5日	主催：イーゲル会　於）イーゲルホール シューベルト作曲「ファンタジー」D.940を演奏した。
⑨はじめてのコンサート	平成29年2月11日	主催：フェリス音楽教室　於）チャペル（フェリス女学院大学緑園校舎内）メンデルスゾーン作曲「バイオリンコンチェルト」NO.1を共演した。
⑩「チェコフィルハーモニー弦楽三重奏団・川村よしみ&高地誠子」	平成29年5月29日	主催：アルペジオ音楽企画。於：みなとみらい小ホール ブラームス作曲op.25ピアノ4重奏をチェコフィルハーモニーのメンバーと共演した。
2、講演会 ①リクエストワークショップ「新しいピアノ導入法」	平成15年8月27日	主催：武蔵野音楽大学同窓会神奈川支部西湘むさしの会 於）新名学園旭丘高校音楽室 クラウス.ルンツェ著「ふたつの手．１２のキー」を使った指導法の実践報告。 受講生に生徒役になってもらい、公開レッスンを行った。
②新しいピアノ導入法公開講座partⅠ	平成22年5月9日	主催：武蔵野音楽大学同窓会神奈川支部西湘むさしの会 於）新名学園旭丘高校音楽室 クラウス.ルンツェ著「ふたつの手．１２のキー」を使った指導法の実践報告。実際に子供たちを使って公開レッスンを行った。
③新しいピアノ導入法公開講座partⅡ	平成22年9月19日	主催：武蔵野音楽大学同窓会神奈川支部西湘むさしの会 於）新名学園旭丘高校音楽室 クラウス.ルンツェ著「ふたつの手．１２のキー」を使った指導法の実践報告。実際に子供たちを使って公開レッスンを行った。

3、特別授業 ①ピアノ指導法	平成27年5月から 平成30年5月	主催：フェリス女学院大学音楽学部演奏コース（小林周子担当） 於）フェリス女学院大学（山手校舎） 年に2回、ピアノ専攻の学生を対象にクラウス・ルンツェの教材を使った幼児期のピアノ導入レッスンについて講義と実践演習を行なった。
4、ピアノ発表会（最近のもの） ①ピアノ発表会	平成25年7月14日	主催：高地誠子　　於）南足柄文化センター 主宰しているピアノ教室の発表会を行なった。第1部はソロ演奏発表、第2部はサン・サーンス作曲「動物の謝肉祭」をテーマにプロジェクターで絵本の絵を投影し、朗読に合わせてピアノ連弾を行なった。
②ピアノ発表会	平成26年12月23日	主催：高地誠子 於）大井町生涯学習センター 主宰しているピアノ教室の発表会を行なった。第1部はソロ演奏発表、第2部は先生と生徒の連弾演奏発表を行なった。
③ピアノ発表会	平成28年7月10日	主催：高地誠子　　於）クレッシェンドホール（小田原） 主宰しているピアノ教室の発表会を行なった。第1部はソロ演奏発表、第2部は先生と生徒の連弾演奏発表を行なった。
④ピアノ発表会	平成30年1月21日	主催：高地誠子　　於）クレッシェンドホール（小田原） 主宰しているピアノ教室の発表会を行なった。第1部はソロ演奏発表、第2部は生徒同士の連弾演奏発表を行なった。
5、ピアノ指導 ①第31回JPTAピアノオーディション	平成26年11月16日	主催：公益財団法人日本ピアノ教育連盟　　於）横浜市磯子区民ホール杉田劇場 全国ピアノオーディション小学生1，2年の部で指導した生徒1名が奨励賞受賞。
②第31回かながわ音楽コンクール	平成27年3月26日	主催：神奈川新聞社　　於）小田原市民会館 小学校低学年の部で指導した生徒1名が入賞。
③第32回JPTAピアノオーディション	平成27年11月23日	主催：公益財団法人日本ピアノ教育連盟　　於）横浜市磯子区民ホール杉田劇場 全国ピアノオーディション小学生1，2年の部で指導した生徒1名が奨励賞受賞。
④第32回かながわ音楽コンクール	平成28年3月26日	主催：神奈川新聞社　　於）小田原市民会館 神奈川音楽コンクール小学生低学年の部で指導した生徒1名が入賞。準本選出場。
⑤第33回JPTAピアノオーディション	平成28年11月23日	主催：公益財団法人日本ピアノ教育連盟　　於）横浜市磯子区民ホール杉田劇場 全国ピアノオーディション小学生3，4年の部で指導した生徒1名が奨励賞受賞。全国大会出場。
⑥第34回JPTAピアノオーディション	平成29年11月23日	主催：公益財団法人日本ピアノ教育連盟　　於）カワイ表参道 ピアノオーディション小学生3，4年の部で指導した生徒1名が

④第34回かながわ音楽コンクール	平成30年3月29日	奨励賞受賞。全国大会出場。 主催：神奈川新聞社　　於）小田原市民会館 神奈川音楽コンクール小学生中学年の部で指導した生徒1名が入賞。準本選出場。
6、研修講師 ①ぽけっとらんどスキルアップ研修	平成27年11月8日	主催：三幸学園　　於）東京未来大学 現役の保育士さん１２０名を対象に「歌遊び」をテーマにして講義と実践を行なった。

担当教科目に関する資格・免許等

名称	取得年月	取得機関
中学校教諭1級普通免許（音楽）	昭和59年3月31日	東京都教育委員会
高等学校教諭2級普通免許（音楽）	昭和59年3月31日	東京都教育委員会
高等学校教諭1級普通免許（音楽）	昭和61年3月31日	東京都教育委員会

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1、「幼稚園教諭・保育士養成課程：『子どものための音楽表現技術』～感性と実践力豊かな保育者へ～」	共著	平成29年3月25日（初版第1刷発行）	萌文書林A4判 全197頁	保育者養成校の音楽表現の授業で使用する教科書として作成した。音楽の基礎知識、歌唱や楽器についての知識、歌唱や楽器を中心とした表現、子どもの発達と表現、子どもの音楽的表現について事例や実践例を多数掲載した。また、実践問題を付けて学習した内容を理解するだけでなく、現場での実践に結びつくような内容とした。 「保育現場で求められる楽器で表現する力」（pp. 86～97）を執筆担当。※共同執筆に付き担当部分抽出不可能。今泉明美、有村さやか編著。望月たけ美、宮川萬寿美、東元りか、高地誠子著
2、「幼稚園教諭・保育士養成課程：『子どものための音楽表現技術』～感性と実践力豊かな保育者へ～」	共著	平成30年1月11日（第2版第1刷発行）	萌文書林A4判 全197頁	前掲に同じ
3、「アクティブラーニング対応『乳児保育』～一日の流れで考える発達と個性に応じた	共著	平成30年3月26日	萌文書林 B5版 全247頁	保育者養成校で保育士免許取得必修科目の「乳児保育」の授業で使用する教科書として作成した。0,1,2歳児の乳児保育についてアクティブラーニングを意識して自ら保育の実践について考える内容となっており、演習課題を付記した。5領域の表現の音楽について保育園保育所指針の領域のねらいに沿って音楽

保育実践～」				の側面から音楽遊びの具体例を示して述べた。第3章5項「表現」（音楽表現）を執筆担当。尾野明美　小湊真衣　菊地篤子編著。佐藤みどり、水野道子、高地誠子著（pp. 67～76）執筆担当。
4、「教育・保育実習に役立つ『部分実習指導案集』」	共著	平成30年3月26日	萌文書林 B5版 全247頁	学生の実習指導案計画の参考として、表現系の部分実習指導案例を2歳児以下と3歳児以上に分けて記載し、実施時の留意点について書いた。0～2歳児対象と3～5歳児対象の部分実習指導案例（音楽表現）を執筆担当。宮川萬寿美総監修。佐藤みどり、井上博子、高地誠子著　他（pp. 23～26、pp. 37～40）執筆担当。
（テキスト） 1、小田原短期大学保育学科通信教育課程印刷（テキスト）科目　音楽表現Ⅱ学習の手引き2017年度版	共著	平成29年4月1日（第2版第1刷）	小田原短期大学保育学科通信教育課程 A4版　全70頁	小田原短期大学保育学科通信課程の音楽表現Ⅱの授業で使用する教科書の手引きとして作成した。今泉明美、有村さやか、望月たけ美、東元りか、高地誠子共著。（pp. 27～34）を執筆担当。
2、小田原短期大学保育学科通信教育課程印刷（テキスト）科目　音楽表現Ⅱ学習の手引き2018年度版	共著	平成30年4月1日（改訂版	小田原短期大学保育学科通信教育課程 A4版　全77頁	小田原短期大学保育学科通信課程の音楽表現Ⅱの授業で使用する教科書の手引きとして作成した。今泉明美、有村さやか、望月たけ美、東元りか、高地誠子共著。（pp. 27～34）を執筆担当。
（リーフレット） 1、おだたんくらぶ　リーフレット（小田原短期大学乳幼児研究所付属幼児教室）	共著	平成28年3月	小田原短期大学	平成27年度神奈川地方創生大学連携事業の一環でリーフレットを作成した。「音楽遊びの遊び方」（p. 5, p. 13）を執筆担当。
（著作） 1、おだたんくらぶのうた	共著	平成 28 年 12 月	小田原短期大学乳幼児研究所付属幼児教室	平成27年度神奈川地方創生大学連携事業の一環で小田原短期大学乳幼児研究所付属幼児教室のうたの作詞を担当した。
（CD制作） 1、かわいい童謡曲集（CD）	共著	平成元年	株）共同音楽出版社	「かわいい童謡曲集」小田原女子短期大学幼児音楽研究会（共同音楽出版社）の録音で歌の伴奏をした。後にCD化された。
2、おだたんくらぶのうた（CD）	共著	平成28年12月	小田原短期大学乳幼児研究所付属幼児教室	平成２７年度神奈川地方創生大学連携事業の一環で「おだたんくらぶのうた」のCD制作、録音に参加した。

（学術論文） 1、修士論文 ベートーヴェンのピアノソナタで扱われたフーガの研究（作品１１０を中心として）	単独	昭和61年3月	武蔵野音楽大学大学院	従来のフーガ形式を厳密にソナタ形式に取り入れるのではなく、ベートーヴェンらしく和声進行のハーモニーを大切にしながらうまく取り入れている。和声進行とフーガ形式を合体させることで、宇宙感を表現しようとしたのではないかと推察した。
2、研究ノート（査読付き） 保育者養成校においてピアノ技術を通して育まれる内面的な成長と求められる指導者像	単独	平成28年3月31日	小田原短期大学研究紀要 46 号 A4 判全130頁	ピアノの授業を通して育まれることは技術の習得だけではない。練習や習得過程で自らと向き合うことによって保育士に必要な①計画性②創意工夫力③共感力④集中力⑤克己の力が培われる。そのため大切な指導者の指導のあり方について研究した。pp.88~92
3、研究ノート（査読付き） クラウス・ルンツェ「ふたつの手・12のキー」A ちいさなピアニストの ためのえほんーがくふなしで―（幼児の為のピアノ導入法としての教材研究）	単独	平成28年10月31日	（公財）日本ピアノ教育連盟 紀要 第32号B5版全87頁	クラウス・ルンツェ著「ふたつの手・12のキー」A巻を使った4～5歳児のためのピアノ導入教育の方法の研究。楽譜を読んで弾かせる前に、音に耳を傾けること、イメージしたことを音楽で表現すること、ピアノを弾く時の柔軟な腕や手指を造ることをまず行い、幼児の想像力や表現力を高めて、ピアノの魅力と基礎テクニックを伝えるこの教則本の特徴を7つ挙げて、考察した。pp.55~66
4、研究ノート（査読付き） 幼児期における感性を育成する表現遊びに関する考察（1）～おだたんくらぶ幼児教室における小グループの音楽遊びの分析～	共著	平成29年3月31日	小田原短期大学研究紀要 47 号 A4 判 全312頁	小田原短期大学乳幼児研究所付属おだたんくらぶで行われた3回の2歳児親子の音楽遊びの様子を分析して、幼児の豊かな感性を育成するための発達にあった音楽遊びや環境を考察した。本人執筆担当分：「Ⅳ研究結果および考察：2.プログラム及び活動内容の分析および考察-1)前期3回の活動について」「2-2)活動内容-1①テーマおよびねらい。②毎回実施した既定の音楽遊びについて」「資料１：前期3回の活動内容の分析的試み」を担当。今泉明美編者。宮川萬寿美、宇佐美かおる、望月たけ美、東元りか、高地誠子共著。pp.64～88
5、研究ノート（査読付き） アクティブラーニング学習効果尺度の作成の試み～音楽・造形・身体表現系と障害児保育演習授業に着目して～	共著	平成29年3月31日	小田原短期大学研究紀要 47 号 A4 判 全312頁	アクティブラーニングのための授業の工夫が表現系の科目で学生にどのように効果があったのかを測るために、学生にアンケートを取り、評価尺度を作成した。尾野明美、佐藤みどり、齊藤史夫、水野道子、高地誠子、中山貴太共著。pp.56~63※共同執筆に付き担当部分抽出不可能

6、第33回全国研究大会研究発表（査読付き） クラウス・ルンツェ著『ふたつの手・１２ーのキー』A ちいさなピアニストのためのえほん （がくふなしで）―幼児のためのピアノ導入レッスン指導法の研究　その１―」	単著	平成29年10月31日	（公財）日本ピアノ教育連盟　紀要　第33号B5版全77頁	クラウス・ルンツェ著「ふたつの手・12のキー」A巻を使った4～5歳児のためのピアノ導入教育の指導方法の研究。各課題を実践するために筆者が考案した指導例を数例提示し、それを実践した結果、見られた子どもの変化から指導方法について検討、考察した。 pp.49～61
7．研究論文（査読付き） 2歳児の聴く力を育てる音楽遊び「お返事あそび」についての考察（1）～その内容と実践者の生み出す音環境～	共著	平成30年3月31日	小田原短期大学研究紀要48号　A4判　全245頁	2歳児にとって音楽を聴く力を音楽的要素を聴く力と心情や意欲をもって表現する力と捉え、それを伸長するための音楽遊び「お返事あそび」を考案した。その内容を検討した結果、2歳児の聴く力を伸長するのにふさわしい遊びであることが推察された。また、子どもの様子を分析し、実践するために重要な実践者の環境作り（音環境）について10項目にまとめた。本人執筆担当分：Ⅰはじめに,Ⅱ研究方法-1.研究方法, -2.2歳児の発達について,Ⅲ結果と考察-1.お返事あそびについて, -2.実践者の生み出す音環境について-1）実践方法, -4. アンケート調査より、Ⅳ.結論,　資料1.2.3,高地誠子、今泉明美、望月たけ美共著。pp.19~37
8、研究論文（査読付き） アクティブラーニング型授業の学習効果に関する基礎的研究～短縮版尺度の作成と信頼性・妥当性の検討～	共著	平成30年3月31日	小田原短期大学研究紀要48号A4判　全245頁	主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニングの視点からの授業改善）の実現が求められるなかで、4因子構造の短縮版アクティブラーニング授業評価尺度を作成した。12項目で構成されていることから、簡便に測定が可能となった。「学習行動の拡大」「課題の発見」「能動的応答」「保育実践力の形成」の4因子の構造方程式モデリングを検討し、アクティブラーニングによる授業展開が学習効果につながる経路を示すことができた。尾野明美、佐藤みどり、齊藤史夫、水野道子、高地誠子、中山貴太共著。pp.1~8。※共同執筆に付き担当部分抽出不可能
（教育実践報告） 1、スクーリング授業における学生の意識変化について～音楽表現ⅠA授業の実践から～（査読付き）	単著	平成30年4月1日	小田原短期大学保育学科通信教育課程『授業評価基準』2018年度版　A4版全200頁	小田原短期大学保育学科通信課程の音楽表現ⅠAの授業で学生の意識（表現力、創造力、感性）を高めることを目的に筆者が考案した4つの実践演習課題を行い、学生の様子と授業アンケート結果から考察した。その結果、結果から学生の意識に良い変化が見られ、この4つの課題が有効であることがわかった。pp. 42～46

（学会発表：口頭） 1．クラウス・ルンツェ著「ふたつの手・１２のキー」A ちいさなピアニストのためのえほん（がくふなしで）の教材研究と考察	単独	平成 28 年 3 月 29 日	（公財）日本ピアノ教育連盟第 32 回全国研究大会 於：上野学園大学	幼児のピアノ導入レッスン時に演奏技術の獲得が主であるレッスン方法に警鐘を鳴らし、楽譜のないこの教材を使って演奏の為に必要とされる、1、イメージを表現しようとする気持ちを育む。2、それを表現するための基本的な演奏技術を獲得する。3、音を聴こうとする姿勢を育てる。この３つを遊びを通して教師とのコミュニケーションの中で行この教材についての研究発表をした。
2．クラウス・ルンツェ著「ふたつの手・１２のキー」A ちいさなピアニストのためのえほん（がくふなしで）幼児の為のピアノ導入レッスン指導法の研究	単独	平成 29 年 3 月 30 日	（公財）日本ピアノ教育連盟第 33 回全国研究大会 於：東京藝術大学	幼児のピアノ導入レッスン時に演奏技術の獲得が主であるレッスン方法に警鐘を鳴らし、この教材を使用した指導法について実践例のビデオを使用して研究発表をした。ピアノを使った音楽遊びから導入することで演奏の為に必要とされる 3 つの要素（1、イメージを表現しようとする気持ちを育む。2、それを表現するための基本的な演奏技術を獲得する。3、音を聴こうとする姿勢を育てる）の獲得に効果が見られた。
その他　(表彰等)		なし		

専任教員教育研究業績

平成30年6月5日

氏名	ふりがな	所属学科	職位	性別
水野　道子	みずの　みちこ	保育学科	講師	女

担当科目	学内委員会
造形表現Ⅰ、造形表現Ⅱ、保育教職実践演習	

学歴

年月	事項	学位
昭和58年3月	愛知教育大学　教育学部　美術学科　卒業	教育学士
昭和61年3月	愛知教育大学大学院教育学研究科　芸術教育専攻修了	修士（教育学）

教育歴

名称	期間	教育内容
名古屋市公立学校教員	昭和60年～平成7年	美術、図画工作担当
愛知教育大学教育学部	平成12年～平成26年	教職課程に関わる造形授業担当（非常勤）
東海学園大学人文学部	平成20年～平成24年	教職課程に関わる造形授業担当
名古屋文化学園保育専門学校	平成25年～平成27年	教職課程に関わる造形授業、保育専門科目担当
小田原短期大学	平成27年～現在に至る	教職課程に関わる造形授業、保育専門科目担当

所属学会等

名称	活動期間	活動内容
日本保育学会	平成21年より現在に至る	大会参加　口頭発表
美術科教育学会	平成30年より現在に至る	大会参加　口頭発表

社会活動等

名称	活動期間	活動内容
文部科学省教員免許状更新講習講師 他	平成25年度 平成26年度 平成29年度	幼稚園、小学校に関わる保育内容の講習 幼稚園、小学校に関わる保育内容の講習 幼稚園に関わる保育内容の講習

担当教科目に関する資格・免許等

名称	取得年月	取得機関
小学校 中学校（美術） 高等学校（美術） 1級教員免許状	昭和60年 3月	愛知県教育委員会

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
（著書） 乳児保育	共著	平成30年	萌文書林	保育実践に準拠した教科書

（学術論文等） 名古屋市内の子育て家庭における物に関する研究	共著・第1著者	平成23年3月	東海学園大学研究紀要第16号	家庭における子どもの身の回りの物についてどのように付き合っているか質問紙調査を実施
明治期の幼稚園における造形教育の考察	単著	平成28年3月	小田原短期大学研究紀要46号	名古屋における明治期後期の幼稚園の造形についての考察
子どもの造形活動における援助の研究	単著	平成29年4月	小田原短期大学研究紀要47号	名古屋における大正期の幼稚園の造形についての考察
アクティブラーニング学習効果尺度の作成の試み	共著	平成29年4月	小田原短期大学研究紀要47号	対面授業における効果的な演習の在り方を探るために調査紙を解析
アクティブラーニング型授業の学習効果に関する基礎的研究―短縮版尺度の作成と信頼性・妥当性の検討	共著	平成30年3月	小田原短期大学研究紀要48号	信頼性、妥当性の高い簡便な学習効果尺度の作成
（口頭発表等） 子どもの自由画の研究	単独	平成29年5月	第70回日本保育学会研究大会	調査から実態を考察し発表
他				
その他		特記事項なし		

専任教員教育研究業績

平成 30 年 4 月 20 日

氏名	ふりがな	所属学	職位	性別
大浦 賢治	おおうら けんじ	保育学科	講師	男

担当科目名	学内委員会等
保育の心理学Ⅰ，保育の心理学Ⅱ，教育の方法と技術	

学歴

和暦 年 月	事項	学位
昭和58年4月	日本大学通信教育部文理学部哲学専攻入学	
平成元年 3月	日本大学通信教育部文理学部哲学専攻卒業	文学士
平成2年4月	日本大学大学院文学研究科哲学専攻入学	
平成4年 3月	日本大学大学院文学研究科哲学専攻修了	修士(文学)
平成18年4月	早稲田大学大学院教育学研究科学校教育専攻入学	
平成20年3月	早稲田大学大学院教育学研究科学校教育専攻修了	修士(教育学)
平成20年4月	早稲田大学大学院教育学研究科教育基礎学専攻（博士課程）入学	
平成26年3月	早稲田大学大学院教育学研究科教育基礎学専攻単位取得退学	

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
東京立正短期大学	平成23年4月から 平成24年3月まで	現代コミュニケーション学科 幼児教育専攻特任講師
小田原短期大学	平成 28 年 4 月から 現在に至る	保育学科

所属学会等

名称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）
日本発達心理学会	平成18年 8 月から現在	正会員
日本教育心理学会	平成20年 4 月から 29 年 3 月	正会員
日本心理学会	平成 29 年 4 月から現在	正会員

社会活動等

名称	活動期間	活動内容
特別支援教育 学習支援活動	平成 20 年 10 月から 平成 22 年 3 月まで	LD や ADHD などの発達障害児を対象にした都内公立小学校における特別支援教育の実践活動
幼稚園教員免 許状更新講習	平成 29 年 6 月	神奈川県幼稚園教諭対象の免許状更新講習の講師

担当教科目に関する資格・免許等

名称	取得年月	取得機関
中学・高校　社会科専修免許	平成 4 年 3 月	東京都教育委員会
中学・高校　英語科専修免許	平成 20 年 3 月	東京都教育委員会
国連英検 A 級	平成 17 年 8 月	公益財団法人日本国際連合協会

研究実績に関する事項				
代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概　　要
(著書) 平成 29 年　免許状更新講習テキスト	共著	平成 29 年 6 月	神奈川県私立幼稚園連合会	幼稚園教諭対象の免許状更新講習用に作成したテキスト pp.13-21 佐藤みどり・大浦賢治・望月たけ美・馬見塚昭久
（学術論文）　主なもの 選言 3 段論法に関する推論様式の発達（査読付）	単著	平成24年9月	日本教育心理学会「教育心理学研究」第60巻3号	選言 3 段論法に関する子どもの理解について検討したもの。結果から Piaget の発達理論が支持された。
子どもの条件文解釈における実用的推論スキーマ説の妥当性（査読付）	単著	平成26年9月	日本発達心理学会「発達心理学研究」第25巻3号	実用的推論スキーマに関する研究。幼児から児童期 におけるその妥当性は限定的と考えられた。
養子縁組と里親家族から考える 3 歳児神話（査読付）	単著	平成 29 年 4 月	小田原短期大学研究紀要第 47 号（論文）	3 歳児神話に関して養子縁組や里親家族との比較から考察したもの。
特別支援教育における教師と 学習支援員の関係はどうあるべきか：障害者問題に関する質的研究	単著	平成24年3月	東京立正短期大学　紀要　第 40 号	学習支援の効果を高めるために現職教諭からインタビューしたものをまとめた質的研究。考察から両者は協働の関係にあることが分かった。
認知と情動の関係から見た「体罰」の意味	単著	平成23年3月	早稲田大学教育学会紀要　第 12 号	脳機能の発達と，それに伴う認知と情動の関係を先行研究から探り，指導法としての体罰の是非を論じたもの。
選言操作に関する心理学研究 から見た Piaget 理論（査読付）	単著	平成22年3月	早稲田大学大学院教育学研究科紀要別冊 17-2	発達心理学者ピアジェの理論に対するレビューおよび批判的考察。子どもの命題操作のうちで特に選言について検討した。

（その他）　　主なもの 学会発表 メタ認知的学習方略による算数文章題の指導事例	単著	平成 22 年 8 月	日本学校心理士会 2010 年度大会	高機能自閉症の小学 6 年生を対象にした特別支援教育の実践研究
海外発表 Pragmatic reasoning schemas in children's logical thinking		平成23年6月	41th Annual meeting of the Jean Piaget Society	幼稚園児と小学生を調査対象者として、条件 3 段論法課題を提示することにより，子どもの推論能力を検討した心理学的研究である。
Effects of culture and experience on children's reasoning ability		平成24年8月	Shanaghai international conference on social science	既存の経験や知識が幼児と児童の論理的思考に与える影響を検討した。